志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（8）

県営特殊農地保全整備事業（十文字地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 井手平遺跡・池野遺跡
# 八郎ケ野A遺跡・八郎ケ野B遺跡

1984．3

鹿児島県曽於郡志布志町教育委員会

# 序　　文

文化財は，人類の永い歴史の営みの中で生み出され，先人がこれを守り続け現代に伝えてくれた私たち共有の貴重な財産であり，どれもすべてが掛け替えのないものばかりで，私たちはこれからも民族の遺産として，過去・現在・未来にわたり永遠に伝承していくよう，これらの文化財を尊重し，保護していかなければならないものであります。

このため，本町では国や県とともに文化財保護に関し，町内の文化遺産や自然環境の中から特に貴重なもの・代表的なものを選んで，指定文化財として保護しています。特に文化財を保護するだけでなく，これを積極的に活用して今後の文化の向上に役立てることも必要であり，文化財の所有者は勿論のこと，すべての人々が理解を深め，協力して文化財の保護管理の責任を果し，私たちの日常生活の中に文化財愛護の心が深く根をおろすとともに，ひとりひとりの誇りと自覚に支えられた文化財の保護を進めることが最も大事なことであります。

特に志布志を含む大隅地域は，縄文期から弥生・古墳時代に至る埋蔵文化財の包蔵地であり本町内には安楽川・前川添を中心にして，現在178ヶ所の埋蔵文化財が確認されており，未確認，未調査のところも多く今後の調査に委ねているものが大部分であり，その究明が待たれているもので，地理的にも，学術的にも古代文化解明の重要な地域であります。

今回確認調査を実施した地区は，文化財保護の重要性に鑑み，昭和57年度から引続き調査を実施しているところで，県営特殊農地保全整備・十文字地区事業に伴い，その事業に先立って行ったものである。この県営特殊農地保全整備事業は，洪水による災害を防止するため，排水系統の整備をはかるとともに台地上の畑地の区画形状，道路，排水路網の整備を行い，併せて耕地の集団化をすすめ，土地の高度利用による農業経営の改善を図るよう計画されているものである。

この地域は，以前から縄文時代の土器等が採集されており，井手平・池野・八郎ケ野A・八郎ケ野Bの各遺跡をはじめ，周辺には17ヶ所以上の周知の遺跡があり，この他にも未確認，未調査ではあるが埋蔵文化財の包蔵地も想定されるところであります。したがって埋蔵文化財の保護・調査等に努めるとともに，周知の遺跡を含む埋蔵文化財包蔵地の現状変更工事となるので，その事業計画前に確認事前調査等を実施し，できるだけ現状保存に努めているものであります。

今回の調査は，鹿児島県教育庁文化課の協力を得て実施したもので，このほど報告書がまとまったところであり，発掘調査報告書刊行にあたり，終始，真摯な学究的態度で調査に携わっていただいた鹿児島県教育庁文化課の方々の献身的なご協力とご功績に対し，心から感謝申し上げますとともに深く敬意を表する次第であります。また御指導をいただいた鹿児島県文化財保護審議委員・河口貞徳氏，日本考古学協会員・瀬戸口望氏に対し衷心よりお礼を申し上げる次第であります。更に発掘作業に快よく御協力いただいた作業員の方々，地元の方々，また，大隅耕地事務所をはじめ関係者の御指導御協力により，無事完了することができ，ここに深甚のお礼を申し上げ，本書が広く郷土理解と文化財保護に役立つよう念願するものであります。

昭和５９年　３　月

志布志町教育委員会

## 例　　言

1. 本報告書は，志布志町教育委員会が，国及び県の補助を得て，昭和58年度に実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は県営特殊農地保全整備事業（十文字地区）に伴う事前調査として実施した。

3. 本書の執筆は次の通りである。

第1章第1・2節

八郎ケ野A遺跡，八郎ケ野B遺跡……戸崎

第1章第3節，第3章

井手平遺跡，池野遺跡……宮田

第2章……峯崎

なお井手平・池野遺跡の土器については中村耕治が担当し，八郎ケ野A・B遺跡の石器について牛之浜修の協力があった。編集は戸崎・宮田が行なった。

4. 本書に用いたレベル数値は海抜絶対高である。

5. 遺物番号は各遺跡毎に通し番号とした。

6. トレンチ平面図の三角印は土器片・丸印は石器及びその他を示す。

# 目　　次

序　文
例　言
第1章　調査の経過……1
　第1節　調査に至るまでの経過……1
　第2節　調査の組織……1
　第3節　調査の経過と概要……2
第2章　遺跡の位置と環境……5
第3章　層　　位……8
　各遺跡の調査
　井手平遺跡……9
　池野遺跡……29
　八郎ケ野A遺跡……37
　八郎ケ野B遺跡……53
あとがき

# 挿　図　目　次

第1図　周辺遺跡図……4
第2図　基本土層柱状図……8
第3図　井手平遺跡トレンチ配置図……9
第4図　井手平表採土器……10
第5図　井手平表採石器……11
第6図　第1トレンチ土層図・平面図……12
第7図　第1トレンチ出土土器……13
第8図　第1トレンチ出土石器……14
第9図　第2トレンチ土層図・平面図……15
第10図　第2トレンチ出土土器……16
第11図　第2トレンチ出土石器……17
第12図　第3トレンチ土層図・平面図……17
第13図　第3トレンチ出土土器……18
第14図　第3トレンチ出土石器……19
第15図　第4トレンチ土層図・平面図……20
第16図　第4トレンチ出土土器……21
第17図　第4トレンチ出土石器……21
第18図　第4トレンチ出土細石核……21
第19図　第5トレンチ土層図・平面図……22
第20図　第5トレンチ出土土器……23
第21図　第5トレンチ出土石器……23
第22図　第5トレンチ出土石鏃……23
第23図　第6トレンチ土層図・平面図……24
第24図　第6トレンチ出土土器……25
第25図　第6トレンチ出土石器……25
第26図　第0トレンチ土層図・平面図……26
第27図　第0トレンチ集石遺構……27
第28図　池野遺跡トレンチ配置図……29
第29図　第1トレンチ土層図・平面図……30
第30図　第1トレンチ出土土器……31

第31図　第１トレンチ出土石器……32
第32図　第１トレンチ出土石器……32
第33図　第２トレンチ土層図・平面図……33
第34図　第２トレンチ出土土器……34
第35図　第２トレンチ出土石器……34
第36図　第３トレンチ土層図……34
第37図　第４トレンチ土層図……35
第38図　第５トレンチ土層図……35
第39図　八郎ケ野Ａ遺跡トレンチ配置図…37
第40図　八郎ケ野Ａ遺跡採集石器……38
第41図　第１トレンチ土層図……39
第42図　第２トレンチ土層図・平面図……40
第43図　第２トレンチ出土土器……41
第44図　第２トレンチ出土石器…… 41
第45図　第３トレンチ土層図・平面図……42
第46図　第４トレンチ土層図・平面図……43
第47図　第４トレンチ出土石器……43
第48図　第５トレンチ土層図・平面図……44
第49図　第５トレンチ出土石器……44
第50図　第６トレンチ土層図・平面図……45
第51図　第６トレンチ出土土器……45
第52図　第６トレンチ出土石器……45
第53図　第７トレンチ土層図・平面図……46
第54図　第７トレンチ出土土器……46
第55図　第８トレンチ土層図・平面図……47
第56図　第８トレンチ出土土器……48
第57図　第８トレンチ出土石器……49
第58図　第８トレンチ出土石器……50
第59図　第９トレンチ土層図……50
第60図　八郎ケ野Ｂ遺跡トレンチ配置図…53
第61図　八郎ケ野Ｂ遺跡採集石器……54
第62図　第１トレンチ土層図……55
第63図　第３トレンチ土層図・平面図……56
第64図　第３トレンチ出土石器……57
第65図　第４トレンチ土層図・平面図……57
第66図　第４トレンチ出土土器……58
第67図　第４トレンチ出土石器……59
第68図　第５トレンチ出土土器……59
第69図　第５トレンチ出土石器……59
第70図　第５トレンチ出土石器……59
第71図　第５トレンチ土層図・平面図……60
第72図　第６トレンチ土層図……61
第73図　第６トレンチ土層図・平面図……61
第74図　第７トレンチ出土石器……62
第75図　第８トレンチ土層図……62
第76図　第９トレンチ土層図……63
第77図　第10トレンチ土層図……63
第78図　第11トレンチ土層図……64
第79図　第12トレンチ土層図……64

## 表　　目　　次

第１表　志布志町前川・森山川流域
　　における遺跡地名表…… 6

# 図　版　目　次


図版１　井手平遺跡近景・発掘調査風景…67
図版２　井手平遺跡第１トレンチ出土状態（土層断面・遺物出土状態）…68
図版３　井手平遺跡遺物出土状態（第２・第６トレンチ）……69
図版４　第４トレンチ土層・第０トレンチ集石遺構・井手平遺跡表採土器…70
図版５　表採石器・井手平遺跡第１トレンチ出土土器……71
図版６　井手平遺跡第1トレンチ出土石器…72
図版７　井手平遺跡第2トレンチ出土遺物…73
図版８　井手平遺跡第3トレンチ出土遺物…74
図版９　井手平遺跡第４・第５トレンチ出土遺物……75
図版10　井手平遺跡第6トレンチ出土遺物…76
図版11　池野遺跡近景（第1・2トレンチ）池野遺跡近景（第５トレンチ）…77
図版12　池野遺跡第1トレンチ出土遺物……78
図版13　池野遺跡第1・第2トレンチ出土石器八郎ケ野Ｂ遺跡近景……79
図版14　八郎ケ野Ａ遺跡遠景・八郎ケ野Ａ遺跡第９トレンチ近景……80
図版15　発掘調査風景・第３トレンチピット出土状況・第4トレンチ土層断面・第７トレンチ遺物出土状況……81
図版16　第6トレンチ遺物出土状況・第8トレンチ炭化木の実出土状況・第８トレンチ土器片出土状況 ……82
図版17　第8トレンチ土器出土状況・拡大図・八郎ケ野A遺跡表採遺物・第2・４トレンチ出土遺物……83
図版18　第4・5・6・7トレンチ出土遺物…84
図版19　第８トレンチ出土遺物……85
図版20　第８トレンチ出土遺物……86
図版21　八郎ケ野Ｂ遺跡第3トレンチ近景八郎ケ野Ｂ遺跡第5トレンチ遠景…87
図版22　八郎ケ野Ｂ遺跡第6トレンチ遠景八郎ケ野Ｂ遺跡第8トレンチ遠景…88
図版23　第９・10トレンチ近景第３トレンチ出土遺物……89
図版24　八郎ケ野Ｂ遺跡表採遺物第４・５・７トレンチ出土遺物…90

# 第1章　調査の経過

## 第1節　調査に至るまでの経過

鹿児島県は曽於郡志布志町十文字地区において，県営特殊農地保全整備事業（十文字地区）を計画したところ，当該地区内に井手平遺跡，八郎ケ野遺跡の周知の遺跡が所在していることが判明した。

そこで鹿児島県農政部農地防災課，大隅耕地事務所，鹿児島県教育委員会文化課と協議を重ねた結果，埋蔵文化財の保護・活用と，事業の調整を図るため，昭和58年度に，国及び県の補助を得て，志布志町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は志布志町教育委員会が主体者となり，調査及び調査報告を鹿児島県教育委員会文化課に依頼した。

発掘調査は昭和58年11月15日から12月13日まで実施し，その後整理報告書作成作業を行った。

なお，事業区が広いため，発掘調査前は十文字地区遺跡としたが，周知の遺跡として知られる各名称の井手平，八郎ケ野A，八郎ケ野B，池野遺跡とした。

## 第2節　調査の組織

調査主体者　志布志町教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査責任者 | 志布志町教育委員会 | 教育長 | 川之上　俊　一 |
| | 〃 | 社会教育主任 | 加　藤　光二郎 |
| | 〃 | 社会教育課長補佐 | 那加野　久　廣 |
| | 〃 | 主事補 | 東　迫　光　博 |
| | 〃 | 主　査 | 畦　地　正　昭 |
| 調査担当者 | 鹿児島県教育委員会文化課 | 文化財研究員 | 戸　崎　勝　洋 |
| | 〃 | 主　事 | 宮　田　栄　二 |
| | | 主　事 | 峯　崎　幸　清 |
| | | 文化財研究員 | 吉　永　正　史 |

発掘作業員

中園ヨシ，和田モミ，有川モモエ，瀬崎シズカ，関エミ，妹尾当，日高アサヨ，片野坂ヨシエ，西田フジエ，山中ハツミ，西坂実子，松元ヨシエ，中村ヨシ子，宮地貞子，野村アヤ子，池袋ヨシ子，北村ユミコ，今別府順子，内村ちどり，森田多喜子，有川勲，片野坂忠美，新山重行，中村親徳，日高実治，倉橋摩多男，浜平民子，東郷孝子，倉橋由美子

整理作業員

喜入カツエ，橋口紀美子，坂口テル，後堂悦子，三木原文子，高瀬孝子，陣之内幸子

なお調査企画において，県教育委員会文化課長猿渡候昭，同課長補佐本田武郎，同主幹中村文夫，同主任文化財研究員諏訪昭千代の各氏のほか，同管理係の指導・助言を得た。

また整理・報告書作成中は県文化課の中村耕治・牛ノ浜修の両主事の協力を得た。

## 第3節　調査の経過と概要

11月15日(火)　志布志町教育委員会と打合わせ後，井手平遺跡の調査開始。トレンチ（第1T～第4T）を設定後，掘り下げを始める。

11月16日(水)　第1・2・4TのⅨb層で土器片等の遺物出土。

11月17日(木)　第1T，Ⅸb層で集石遺構検出。第3T，Ⅸb層で土器片出土。第2・4TⅨb層の平板実測及び遺物取り上げを行なう。第4T，Ⅹ層で細石核検出。第0T設定

11月18日(金)　第5・6T設定後掘り下げ。第2TⅪ層で黒耀石製チップ出土。第0Tで集石。遺構・土器片検出。

11月19日(土)　（重富収蔵庫にて図面等の整理）

11月21日(月)　第3・4・5T位置図作成。第3T平板実測及び遺物取り上げ。第0T集石遺構実測。第5T，Ⅸb層で安山岩製石鏃出土。

11月22日(火)　第5TⅨb層で土器片出土。第1T平板実測及び遺物取り上げ。第1・3・4T土層断面実測後埋め戻し。第0・2T埋め戻し。

11月23日(水)　第5・6T平板実測及び遺物取り上げ・第5T土層断面実測。
テント移動後，八郎ケ野A遺跡の調査を開始する。第1～4T設定後掘り下げ。

11月24日(木)　八郎ケ野A遺跡第1～4T掘り下げ。第2TⅨb層で土器片出土。

11月25日(金)　第4T，Ⅺ層で頁岩製剥片確認。第5～8T設定後掘り下げ。表土下のⅡ層で遺物出土。

11月26日(土)　重富収蔵庫にて図面等の整理。

11月28日(月)　第2T平板実測及び遺物取り上げ，土層断面実測。第4TⅪ層掘り下げ。
八郎ケ野B遺跡第1～4T設定後掘り下げ。第3T表土下に石斧・磨石出土。
河口貞徳氏（県考古学会長）の指導を受ける。

11月29日(火)　八郎ケ野A遺跡第2T埋め戻し。第6・8T平板実測及び遺物取り上げを行う。
八郎ケ野B遺跡第1・4・5T掘り下げ。

11月30日(水)　八郎ケ野A遺跡第8Tで炭化実出土。第7T平板実測及び遺物取り上げ。
八郎ケ野B遺跡第3T平板実測及び遺物取り上げ。

12月1日(木)　八郎ケ野A遺跡第8Tで黒耀石・チャートの剥片及び炭化実が多量に出土する。
八郎ケ野B遺跡第4～6T掘り下げ。第5Tで石鏃出土。

12月2日(金)　八郎ケ野B遺跡第4T平板実測及び遺物取り上げ。第7～11T設定後掘り下げ。
八郎ケ野A遺跡第8T掘り下げ。

12月3日(土)　重富収蔵庫にて図面等の整理。

12月 5 日(月)　八郎ケ野B遺跡第3・4T土層断面実測後埋め戻し。第7T Ⅸb層で磨製石斧出土。第9・10T掘り下げ。池野遺跡第1～4T設定。

12月 6 日(火)　八郎ケ野B遺跡第9・10T掘り下げ。池野遺跡第1・2T掘り下げ。

12月 7 日(水)　八郎ケ野B遺跡第12T掘り下げ。第6～10T断面図作成。
池野遺跡第1・3T掘り下げ。第2T平板実測。第1・2T位置図作成。

12月 8 日(木)　八郎ケ野B遺跡第2・11・12T平面図作成。第5T遺物取り上げ。
池野遺跡第2T Ⅸb層で石核出土。第5T設定後掘り下げ。第1T遺物取り上げ。

12月 9 日(金)　八郎ケ野A遺跡第5・7・8T断面図作成。
池野遺跡第3～5T位置図作成。
八郎ケ野B遺跡第5T断面図作成。

12月12日(月)　池野遺跡第1T平板実測及び遺物取り上げ。第2T土層断面実測。

12月13日(火)　池野遺跡第1・5T土層断面実測。各トレンチ埋め戻し。
調査終了。

十文字地区（八郎ケ野地区）の対象面積94,592㎡のなかに，4遺跡が周知の遺跡として所在している。

今回の調査は，各遺跡の性格・遺物包含層の有無・範囲等の確認を目的とした。まず，縄文時代早期の遺跡で遺物包含層も深い位置にあり，最も安定していると思われる井手平遺跡から調査を進めた。

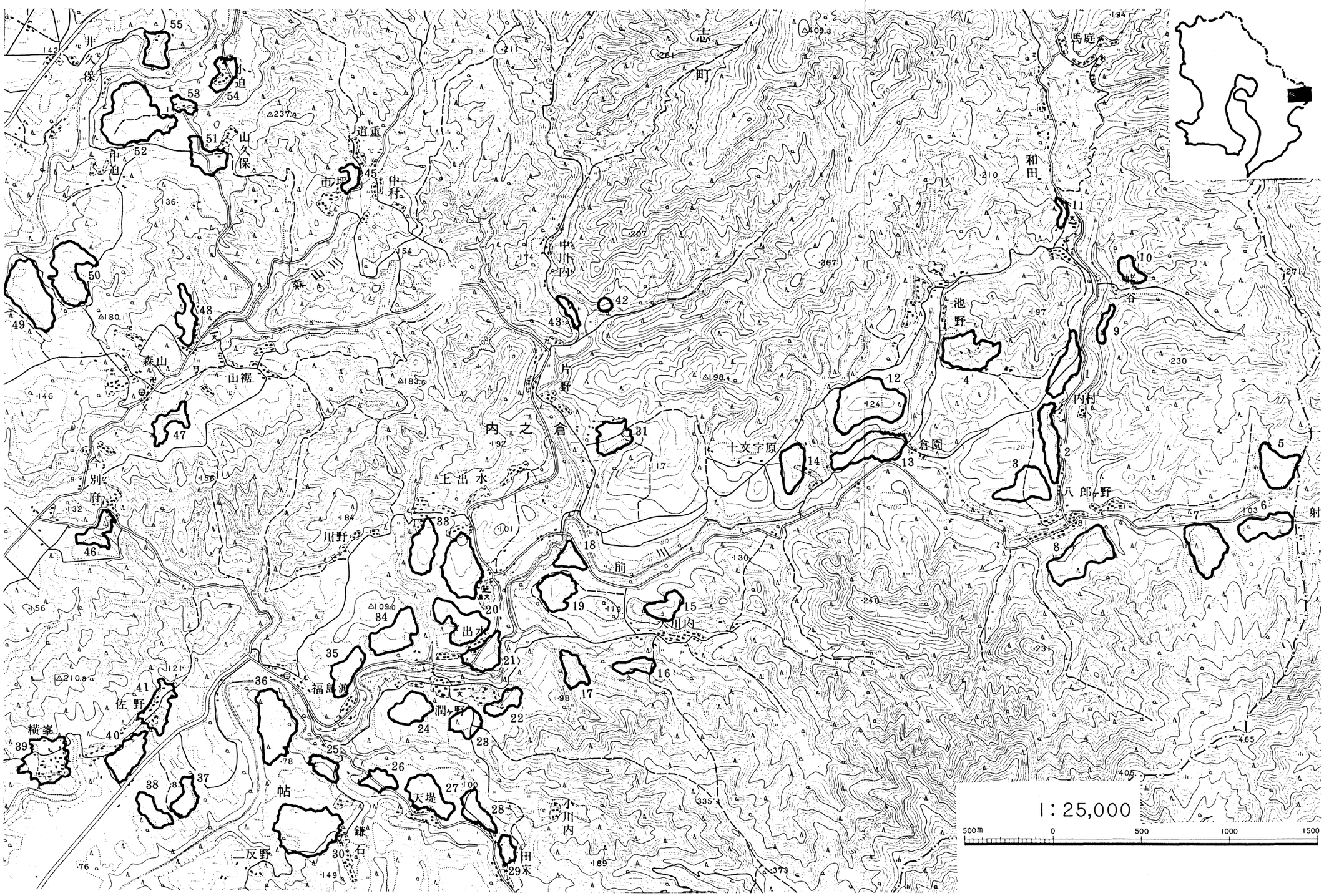
井手平遺跡は南北に長く，北側から南へ，第1～第5トレンチを設定した。しかし，調査前に遺跡範囲の北限・南限と考えられていた地点も，良好な状態で遺物が確認され，それぞれの南北に第0・第6トレンチを設定した。その結果，全てのトレンチより良好な遺物包含層を確認し，遺構及び遺物を検出した。

次に井手平遺跡に隣接する八郎ケ野A遺跡の調査に移った。以前より縄文晩期の遺物が知られていたが，今回の第1～第8トレンチを設定し調査を行なった結果，黒川式等の土器片が確認された。縄文時代晩期の包含層は地表面より浅い位置にあるが，一部のトレンチでは旧石器時代と思われる深部の包含層も確認した。

八郎ケ野B遺跡は，八郎ケ野A遺跡に南接している。削平を受けている部分が少なくない。旧地形が残存していると思われる地点を順次選定して，トレンチを設定し調査を進めた。

また八郎ケ野B遺跡の調査中，別班をつくり，池野遺跡の調査を始めた。池野遺跡では，縄文時代中期から後期にわたる遺物を確認した。

今回の調査では，各遺跡の性格及び遺物分布の一端を明らかにすることができた。




第1図　志布志町前川・森山川流域における遺跡分布図

# 第 2 章　遺跡の位置と環境

井手平遺跡・八郎ケ野A遺跡・八郎ケ野B遺跡・池野遺跡は，鹿児島県曽於郡志布志町大字内之倉に所在する。志布志町は鹿児島県の東部，大隅半島の北東に位置し南面する志布志湾の内陸部に細長く伸び，北は曽於郡末吉町および宮崎県都城市，東は宮崎県串間市と県境を接し西は曽於郡松山町・有明町と接する。志布志町は古来よりその地理的条件を利用して，南西諸島・沖縄をはじめ東南アジア諸国との交易港，また国内交通路の要所として発展してきた。大慈寺をはじめ町内の各所に当時を偲ぶ史跡名勝が数多く残されている。

井手平遺跡・八郎ケ野A遺跡・八郎ケ野B遺跡・池野遺跡は，県道 111 号線を前川に沿って北東約12Kmの通称池野台地に所在する。台地は南九州特有の火山灰（シラス）で形成され，日向山地に源出する前川の浸食作用によって独立した台地と成っている。前川は全長約25Kmで志布志町の東部を北南し志布志湾に流出する。前川流域は遺跡の密度がかなり高く，低地周辺に分布する弥生遺跡を除けばすべてが縄文時代の遺跡である。八郎ケ野地区北東約 1.5 Km，宮崎県串間市と県境を接する所に草創期の貯蔵穴・石組の舟形遺構を出土した東黒土田遺跡や前川の支流大畑川東岸に位置する鎌石橋遺跡等は草創期の降帯文土器文化を解明する遺跡として，加治園遺跡・石峰遺跡・牧之原伊敷遺跡・上場遺跡・串間市大平遺跡などと共に重要な遺跡である。また鎌石橋遺跡は，大隅半島で最初に旧石器時代の確認がされた遺跡としても知られる。池野台地の西側に縄文時代早期の倉園B遺跡や後期の倉園A遺跡・十文字遺跡が所在し，さらに昭和39年に発掘調査された片野洞穴など前川流域に濃密な遺跡の分布が広がる。

井手平遺跡は台地の東端に位置し，南北約400$m$，東西100$m$の範囲で，一部削平をうけていたが全体に包含層の残存は良好で，旧石器時代・縄文時代早期の遺物が出土した。八郎ケ野A遺跡は井手平遺跡の南側延長で，八郎ケ野集落北西の台地端部に位置する。南北約400$m$，東西 100 $m$程で旧石器時代・縄文時代晩期の遺物が出土した。八郎ケ野B遺跡は，台地南端の八郎ケ野集落を真南に見下ろす台地先端部に位置し，八郎ケ野A遺跡と10$m$の比高差がある。池野遺跡は倉園集落の北東に位置し，南にゆるやかに傾斜する面に広がる。縄文時代後期の遺物を出土する遺跡で井手平遺跡・八郎ケ野A遺跡・八郎ケ野B遺跡の西南にある。

井手平・八郎ケ野A・八郎ケ野B・池野遺跡は，瀬戸口望氏の長年の調査研究により発見された遺跡である。


参考文献　1.「鹿児島県遺跡地図」　史跡，名勝・天然記念物及び埋蔵文化財
鹿児島県教育委員会　1973年

2.「鹿児島考古第16号」　鹿児島県考古学会　1983年

3.「倉園B遺跡・十文字遺跡」　志布志町埋蔵文化財調査報告書(5)
志布志町教育委員会　1983年3月

4.「大隅地区埋蔵文化財調査概報」　鹿児島県埋蔵文化財調査報告書 (25)
鹿児島県教育委員会　1983年3月

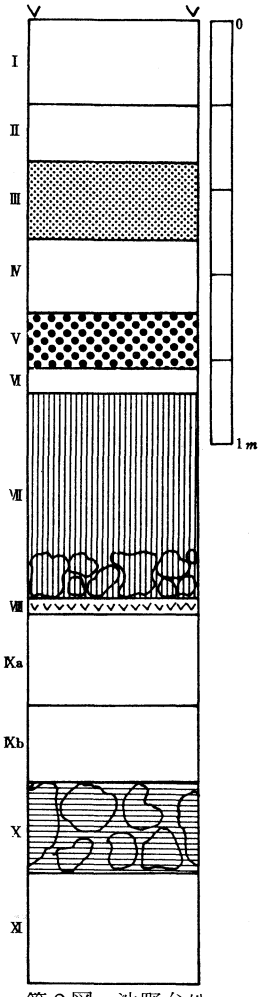
第1表　志布志町　前川・森山川流域における遺跡地名表

| 番号 | 遺跡名 | 遺跡所在地 | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 井手平遺跡 | 志布志町内之倉井手平 | 旧石器一（細石核）<br>縄文早期一（前平式・集石遺構） | 鹿児島考古第9号<br>1974年 |
| 2 | 八郎ケ野B遺跡 | 〃　内之倉八郎ケ野 | 縄文・晩期 | |
| 3 | 八郎ケ野A遺跡 | 〃　内之倉八郎ケ野 | 縄文・晩期 | |
| 4 | 池野遺跡 | 〃　内之倉池野 | 縄文・後期 | |
| 5 | 東黒土田遺跡(A,B) | 〃　内之倉黒土田 | 旧石器・草創期<br>縄文・早期・前期 | 鹿児島考古第15号<br>1982年 |
| 6 | 東黒土田遺跡(C) | 〃　内之倉黒土田 | 縄文・弥生 | |
| 7 | 東黒土田遺跡(D) | 〃　内之倉黒土田 | 縄文（後期） | |
| 8 | 八郎ケ野遺跡 | 〃　内之倉八郎ケ野 | 縄文 | |
| 9 | 姥ケ谷A遺跡 | 〃　内之倉姥ケ谷5,546 | 縄文・弥生 | |
| 10 | 姥ケ谷B遺跡 | 〃　内之倉姥ケ谷 | 弥生 | |
| 11 | 和田遺跡 | 〃　内之倉和田 | 弥生 | |
| 12 | 倉園B遺跡 | 〃　内之倉池野 | 旧石器（細石核）<br>縄文(早期〈石坂式・前平〉),前期・晩期<br>住居址，集石，土坑 | 志布志町埋蔵文化財調査報告書(5) |
| 13 | 倉園A遺跡 | 〃　内之倉池野 | 縄文後期 | 志布志町誌上巻 |
| 14 | 十文字遺跡 | 〃　内之倉十文字原4,081 | 縄文(後期),指宿式 | 志布志町埋蔵文化財調査報告書(5)<br>1983年 |
| 15 | 大川内遺跡 | 〃　内之倉大川内 | 縄文 | |
| 16 | 平原遺跡 | 〃　内之倉平原 | 縄文 | |
| 17 | 東原遺跡 | 〃　帖東原 | 縄文 | |
| 18 | 土光A遺跡 | 〃　内之倉土光 | 縄文 | |
| 19 | 土光B遺跡 | 〃　内之倉土光 | 縄文 | |
| 20 | 上原（下出水）遺跡 | 〃　内之倉上原 | 縄文 | |
| 21 | 上原（下出水）遺跡 | 〃　内之倉上原 | 旧石器（集石）<br>縄文（早・前期） | |
| 22 | 出口A遺跡 | 〃　内之倉出口 | 縄文・弥生 | |
| 23 | 出口B遺跡 | 〃　内之倉出ノ口 | 縄文 | |
| 24 | 立花迫遺跡 | 〃　内之倉立花迫 | 縄文 | |
| 25 | 鎌石橋遺跡 | 〃　帖鎌石 | 旧石器（ナイフ・細石器）集石<br>縄文（早・前・晩期） | 鹿児島考古第16号<br>1982年 |
| 26 | 松崎遺跡 | 〃　帖松崎家野 | 縄文 | |
| 27 | 家野遺跡 | 〃　帖松崎 10,767<br>10,290 | 縄文・弥生 | |
| 28 | 天提遺跡 | 〃　帖家野 | 縄文 | |

| 番号 | 遺跡名 | 遺跡所在地 | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 29 | 堂ノ下遺跡 | 志布志町帖堂ノ下 | 縄文 | |
| 30 | 鎌石遺跡 | 〃 帖鎌石 | 縄文・弥生 | |
| 31 | 浜場遺跡 | 〃 内之倉片野 | 縄文 | |
| 32 | 上出水遺跡 | 〃 内之倉前畑 | 縄文（早期・石坂式住居址） | 鹿児島考古第16号 1,982年 |
| 33 | 出水遺跡 | 〃 内之倉前畑 2,928 | 縄文 | |
| 34 | 出口C遺跡 | 〃 内之倉出口 | 縄文（早期） | |
| 35 | 中須遺跡 | 〃 内之倉中須 | 縄文 | |
| 36 | 二反野遺跡 | 〃 帖二反野 | 縄文 | |
| 37 | 牧遺跡 | 〃 帖牧 | 縄文・弥生 | |
| 38 | 川平遺跡 | 〃 帖川平 | 縄文 | |
| 39 | 横峯遺跡 | 〃 帖横峯 | 縄文・弥生 | |
| 40 | 上佐野遺跡 | 〃 帖上佐野原 | 弥生 | |
| 41 | 佐野遺跡 | 〃 帖佐野 | 弥生 | |
| 42 | 片野洞穴 | 〃 内之倉片野 | 縄文(前期)，弥生 | 志布志町郷土誌 上巻 |
| 43 | 片野遺跡 | 〃 内之倉片野 | 縄文（前期・中・後・晩） | |
| 44 | 欠番 | | | |
| 45 | 道重遺跡 | 〃 内之倉弓場迫 2,280 | 縄文 | |
| 46 | 今別府遺跡 | 〃 内之倉今別府 | 縄文 | |
| 47 | 山裾遺跡 | 〃 内之倉山裾 | 縄文 | |
| 48 | 森山遺跡 | 〃 内之倉森山 | 弥生 | |
| 49 | 西中畑遺跡 | 〃 内之倉西中畑 | 縄文 | |
| 50 | 中迫遺跡 | 〃 田之浦中迫 | 縄文 | |
| 51 | 山久保A遺跡 | 〃 田之浦山久保 | 縄文 | |
| 52 | 蔵園遺跡 | 〃 田之浦蔵園 | 縄文（住居址） | |
| 53 | 山久保B遺跡 | 〃 田之浦山久保 | 縄文 | |
| 54 | 小迫遺跡 | 〃 田之浦小迫 | 縄文・弥生 | |
| 55 | 小牧A遺跡 | 〃 田之浦小牧 | 縄文 | |

# 第３章　層　　位

井手平遺跡・池野遺跡・八郎ケ野Ａ遺跡・八郎ケ野Ｂ遺跡の各遺跡が所在する池野台地はシラスが基盤になっている。またそれより上部の堆積も良好である。井手平遺跡の各トレンチの土層を検討した結果，以下のような基本土層が設定された。各遺跡は台地の東部・南部・西部に所在し，各トレンチの間でも土層の堆積状態は若干異なる。




第２図　池野台地
基本土層柱状図

基本土層

Ⅰ層　暗褐色土層。耕作土であり，やわらかく粘性は少ない。

Ⅱ層　黒色土層。若干やわらかい。粘性は少ない。

Ⅲ層　黒色土層。Ⅱ層より硬くなり，粘質である。径１㎜前後の黄色パミスが多量に混在している。これは御池パミスと呼ばれているものである。

Ⅳ層　黒色土層。硬く粘質であり，クラックが発達しやすい。

Ⅴ層　黒色土層。Ⅳ層と同質の土層のなかに，径１～10㎜前後の黄白色軽石が多く点在している。これは池田降下軽石と呼ばれるもので，径３㎜前後のものが多い。

Ⅵ層　暗褐色土層。クラックが発達しやすい，硬く粘性である。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。ＢＰ約6300年の噴出年代が知られている鬼界カルデラ起原のものに対比される。通称赤ホヤと呼ばれるものである。

Ⅷ層　茶褐色粘質土層。硬く粘質である。高千穂起原のウシノスネローム[注]と呼ばれるものである。色調はⅪ層に類似する。

Ⅸa層　黒褐色土層。硬く粘質である。

Ⅸb層　暗褐色土層。硬く粘質である。

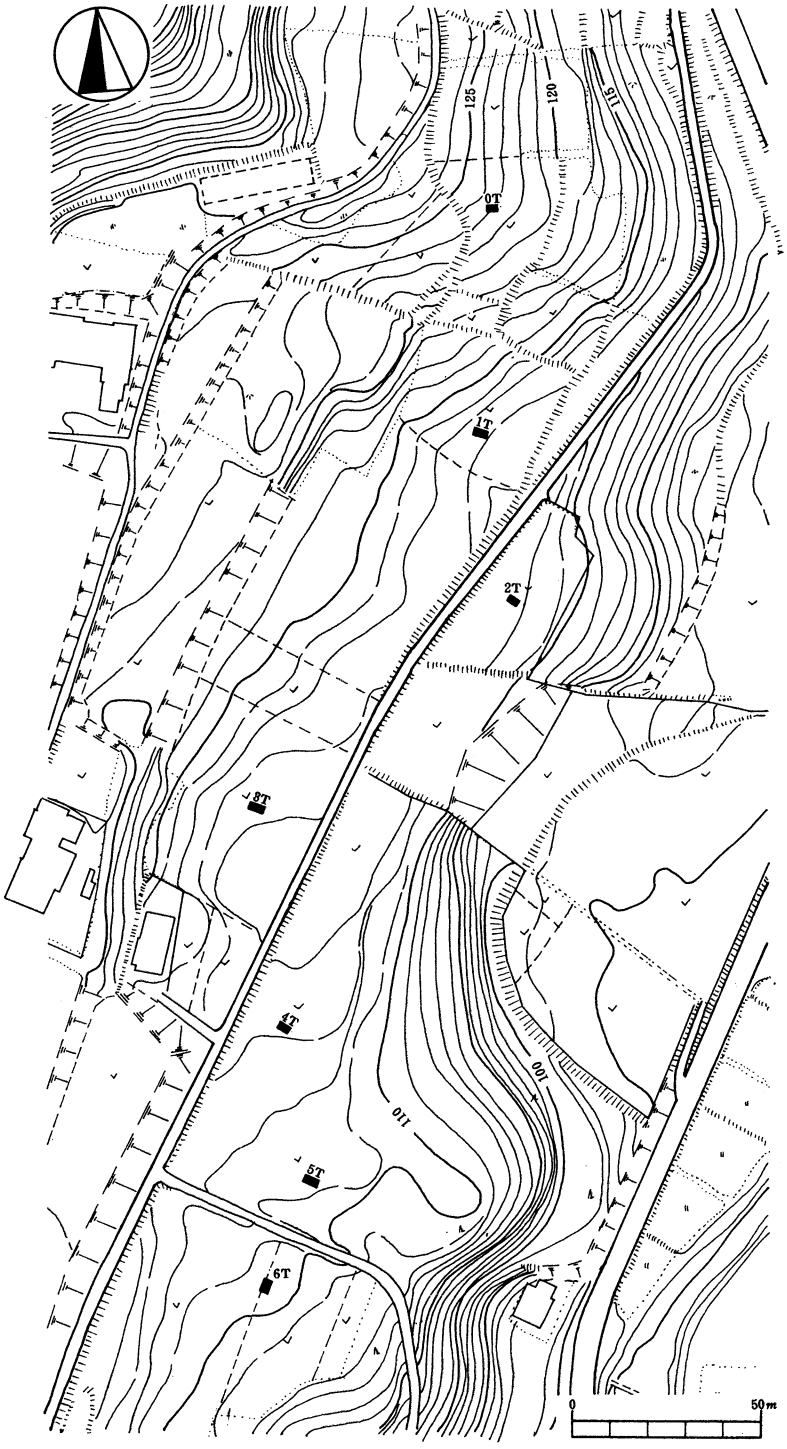
Ⅹ層　黄褐色パミス層。桜島起原のもので，ＢＰ約1.1万年の年代が与えられている。通称サツマと呼ばれる。

Ⅺ層　茶褐色粘土層。通称チョコ層と呼ばれている。硬く粘質であるが，Ⅷ層よりやわらかく水分が多い。

上記のようにⅢ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅹの各層に比較的わかりやすい特徴を有する火山灰等が堆積しており，各遺跡及び各トレンチの土層の比較と判断の決めてとなっている。また，南九州では上記の火山灰等が鍵層となり遺跡間の関係が明らかにされつつある。

注）成尾英治氏の御教示による。

# 井　手　平　遺　跡




第３図　井手平遺跡トレンチ配置図

## Ⅰ　調査の概要

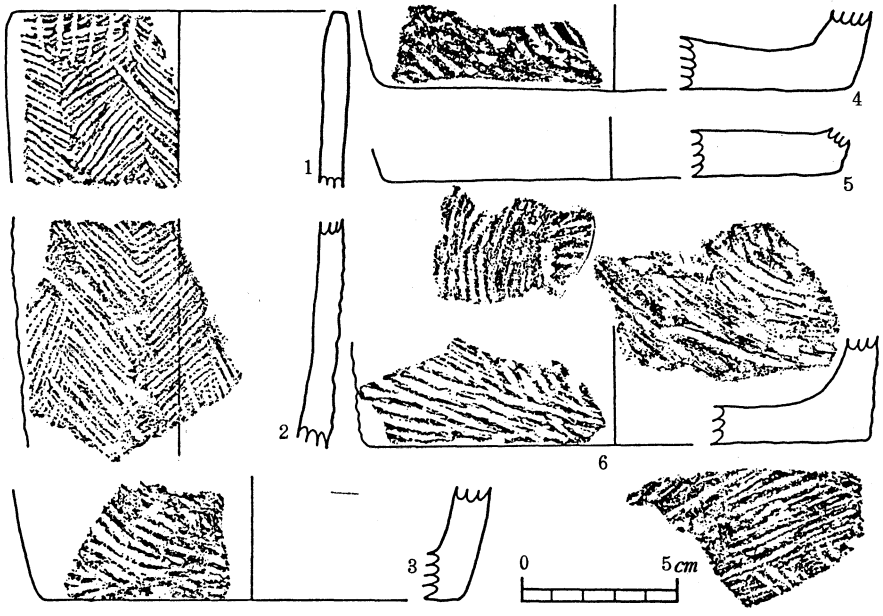
井手平遺跡は池野台地の東側に位置し，標高約110～125mのゆるやかな傾斜地に立地する。その東側は比高約20mの差にある前川支流が南流している。台地の南側には八郎ケ野A遺跡，八郎ケ野B遺跡がそれぞれ隣接している。

今回の確認調査では地形等を考慮にして，2×4mを基本とするトレンチを任意に計7設定し，調査を実施した。遺構及び遺物が包含されていると思われる土層は数枚堆積しており，地表面からの深さは2mより下がるものもあり，日数等の調査要件でそれ以上のトレンチは設定できなかったが，本遺跡の性格及び範囲は把握できたと考える。

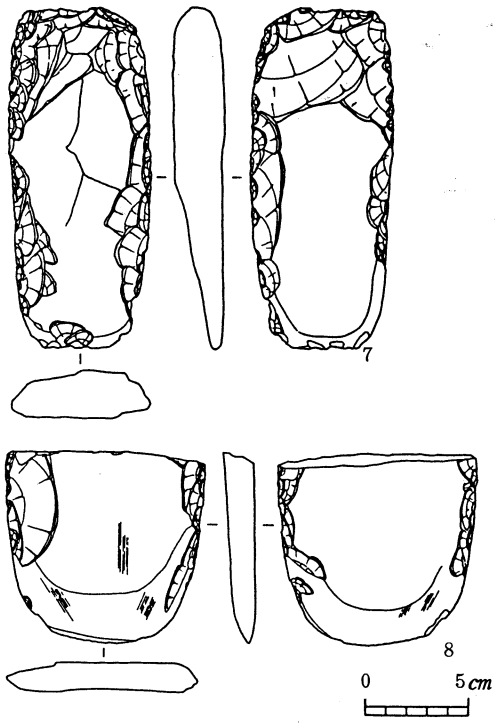
各トレンチの調査により集石遺構を2基確認した。また同時期の所産である縄文早期を中心とする土器片及び石器が出土した。遺構及び遺物はほとんどⅨa層とⅨb層の境目に検出された。さらに一部のトレンチでは下層のⅪ層より旧石器時代のものと考えられる黒耀石の剥片等の遺物を確認した。

本遺跡は以前より土器片等の遺物の出土が知られていたところであり，地主の一人内村隆司氏に採集されていたのが第3図及び第4図である。表採資料の中には土器と石器がある。土器は縄文時代早期の貝殻条痕文系の円筒型土器である。

第4図の1と2は同一個体と思われるもので，復元口縁径10.8cmを測る。口縁部は貝殻腹縁により，幅約5mmの横位の貝殻条痕と貝殻刺突文を連続させて施文する。胴部は貝殻条痕文を鋸歯状に施すものである。3～6は底部である。3は復元底部径13.6cmを測る。外面及び底部




第4図　井手平遺跡表採土器




第5図　表採石器

に貝殻条痕が認められる。4は復元底部径15.2cmを測る。外面に貝殻条痕文を施される。5は復元底部径14.8cmを測るものである。6は16.4cmの復元底部径で，外面に貝殻条痕文を施すだけでなく，底部内外面にも貝殻条痕が認められる。1～6の色調は茶褐色で，焼成は良好である。胎土には石英・長石・角閃石等を含む。1・2は前平式土器と思われる。

第5図，7・8の石器は2点とも石斧である。7は大形の剥片を素材としたもので，基部より刃部がうすく製作されている。整形は階段状剥離によって行なわれている。8は幅広のうすい剥片を素材とし，縁辺部は剥離の後敲打により調整している。刃部は両面から研磨される。2点とも安山岩を石材としている。

## Ⅱ　第1トレンチ

第1トレンチは遺跡の範囲の最北部と考えられている地点に2×4mの規模で設定した。前川支流に向かって傾斜が若干あり，耕作時に北西部から土を移動していると思われる。

### 1. 土　層（第6図）

土層は基本土層に近いものであった。

Ⅰa層　耕作土

Ⅰb層　攪乱層。耕作時西北部から移したものである。

Ⅰc層　大正3年桜島が噴火した時の火山灰である。

Ⅰd層　砂がうすい層になって堆積している。旧道路跡と推定される。

Ⅲ層　黄色の御池パミスが混在している。南東部は削平されている。

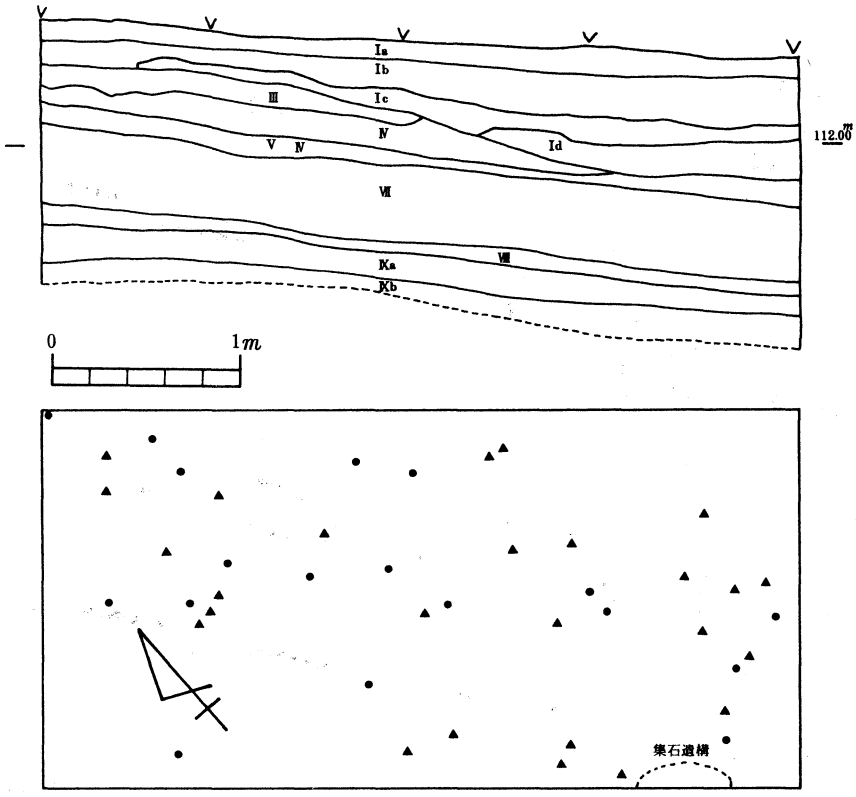
Ⅳ層　黒色土層。硬く粘質である。Ⅲ層と同様で南東部は削平されている。

Ⅴ～Ⅵ層　池田降下軽石が点在しているが，下層との区別は明瞭でない。

Ⅶ層　赤ホヤ層である。

Ⅷ層　茶褐色粘土層。

Ⅸa層　黒褐色土層。硬く粘質である。




第6図　第1トレンチ土層図・平面図

Ⅸb層　暗褐色土層。硬く粘質である。

基本土層に比してⅡ層の全てとⅢ層とⅣ層の南東部が一部欠いている。旧道路跡と桜島火山灰層によって，それ以前の削平によって上記の層が失われていると思われる。

## 2　出土遺構

トレンチの南側角に集石遺構を一基確認した。検出層はⅨb層である。集石遺構は径15～20*cm*の円礫を集めたものであるが，一部のみで全体は不明である。今回は試掘調査であり，確認のみにとどめた。

## 3　出土遺物

遺物は全てⅨb層から出土した。とりわけ最上部に多い。出土遺物には土器片と石器がある。また径10*cm*前後の円礫も多く出土した。それらは火熱を受けたものが多かった。

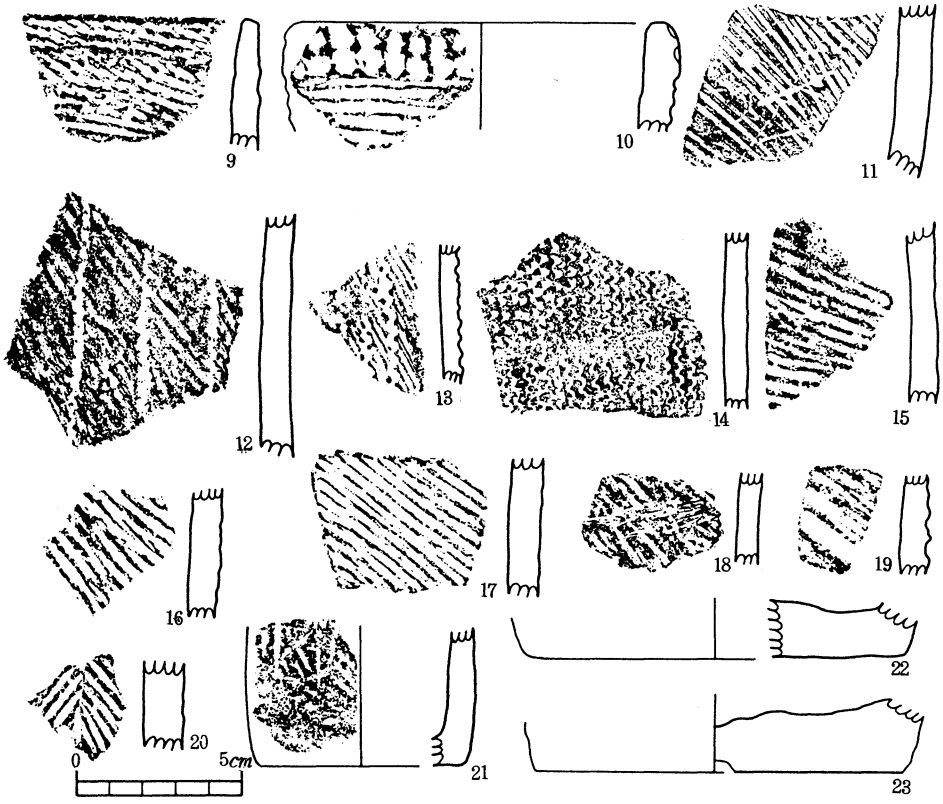
### (1)　土　器（第7図・図版2・5）

9は口縁部に貝殻による斜行する押し引き文，胴部には条痕文を施すものである。口唇部は平坦で刻目を施す。10は復元口縁径12*cm*を測る。口縁部に貝殻による刺突連点文，胴部に貝殻条痕文を施すものである。11は斜行する貝殻条痕文を施す。12・13は胴部で，斜行する貝殻条痕文を施した後で，貝殻腹縁による縦位の刺突文を施すものであり，角筒土器と考えられる。14は縦位の貝殻刺突文を連続して器面全体に施すものである。15～19は斜行する貝殻条痕文を

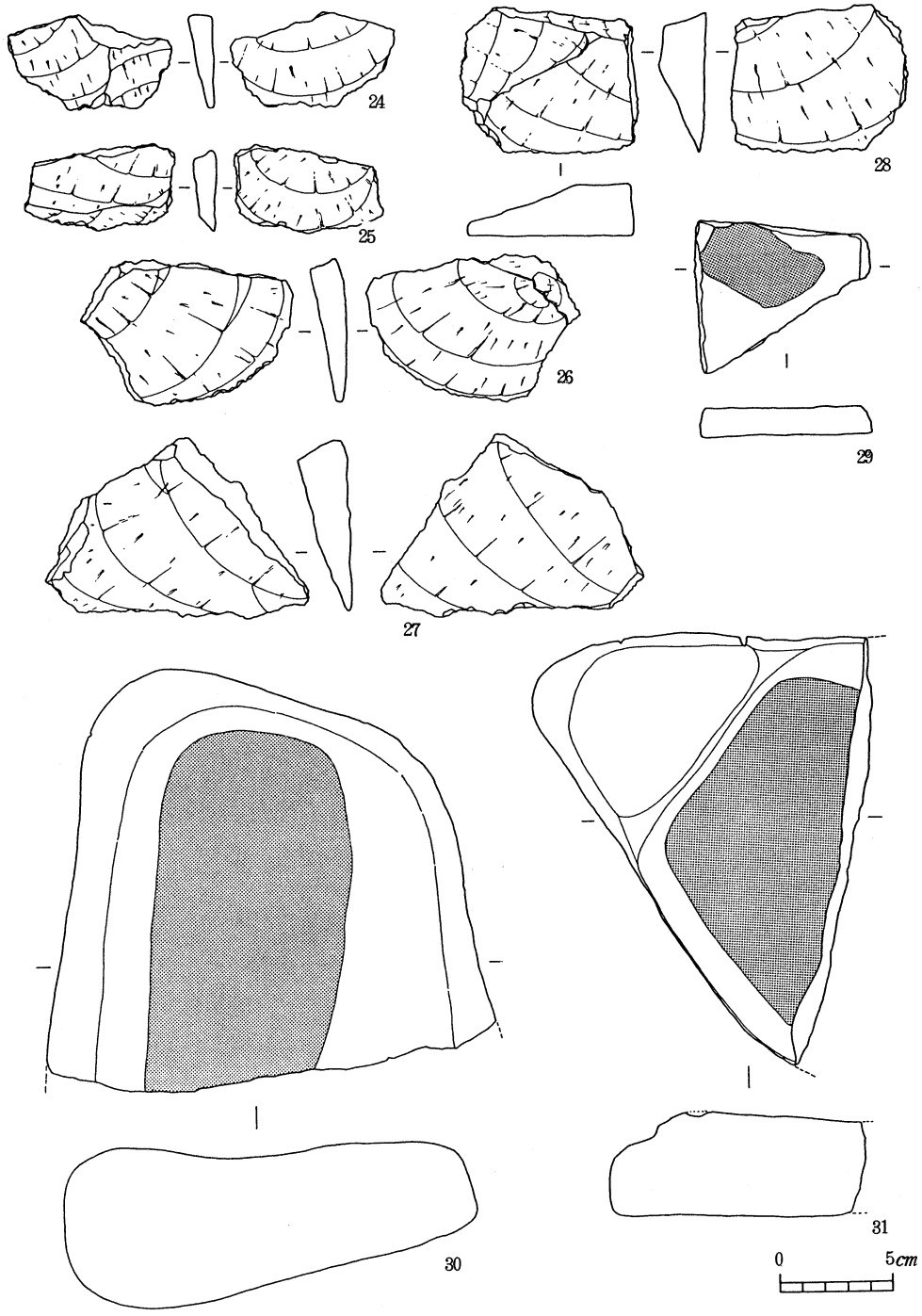
施す。20は貝殻刺突文を鋸歯状に施すものである。21～23は底部である。21は復元底部径6.4*cm*を測る。外面は貝殻条痕文が施されるが，底に近い部分は消されている。22は11.4*cm*の復元底部径である。23は円板貼り付け底部の円板の部分であり，接合部分が明瞭である。各土器片の色調は9・10・16・20が暗茶褐色であり，その他のものは茶褐色である。焼成は9～21が良好で，22・23はやや不良である。胎土は9～15・17・21が石英・長石及び角閃石等を含んでいる。16・18～20は石英と長石等を含む。22・23は石英・長石・角閃石・その他の砂粒を多く含む。9～19は前平式土器と思われるが，11・17は石坂式の可能性もある。20は石坂式土器と思われる。

**(2) 石　器**（第8図・図版2，6）

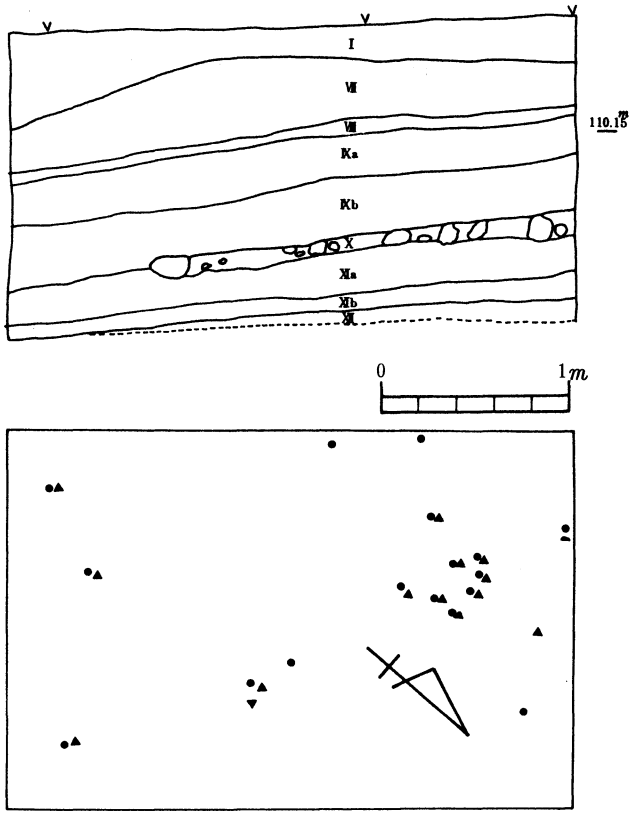
石器は剥片石器と石皿が出土した。24～28は剥片を素材とした剥片石器である。うすく剥がれた剥片をそのままの形状で利用し，刃部形成の剥離を施さず，剥片の末端をそのまま刃部としている。29は表面の一部が磨かれた状態であり，石皿の破片と思われるが，あるいは砥石的用途も考えられる。30及び31は中央部分が使用のため凹んでいる石皿であり，火熱を受けヒビ割れが多くなっている。剥片石器は擬灰岩製であり，石皿は砂岩によって作られている。




第7図　第1トレンチ出土土器




第8図　第1トレンチ出土石器




第9図　第2トレンチ土層図・平面図

## Ⅲ　第2トレンチ

第2トレンチは第1トレンチの南側の農道を隔てた一段低い畑に2×3$m$の広さのものを設定した。平坦に近い畑であり，層位的に良好であると当初思われた。

### 1. 土層（第9図）

Ⅰ層　耕作土層。暗褐色土層のなかに黄褐色の赤ホヤがブロック状に混入する。

Ⅶ層　赤ホヤ層

Ⅷ層　茶褐色粘土層

Ⅸa層　黒褐色土層

Ⅸb層　暗褐色土層

Ⅹ層　桜島起源パミス層。ブロック状に存在し，南側はない。

Ⅺa層　茶褐色粘土層。硬く粘質である。水分が多い。

Ⅺb層　茶褐色土層。Ⅸa層の粘土層に砂が多く混在したものである。

Ⅻ層　砂礫層である。近くの南側の崖を観察したところ約1$m$位堆積しており，下のシラスへと続いている。

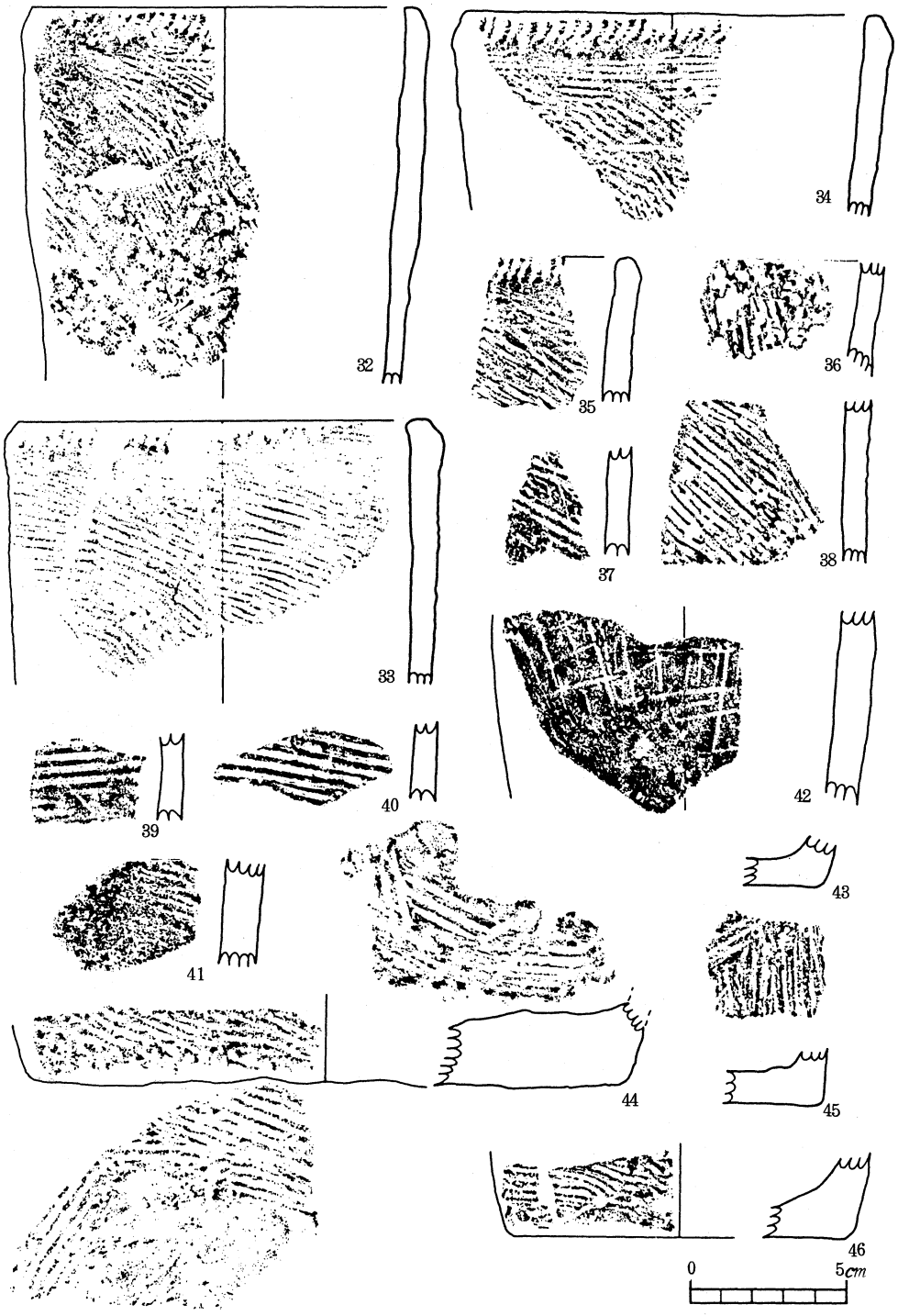
基本土層と比べてⅦ層（赤ホヤ層）の上部は存在しない。削平によるものと考えられる。Ⅺ層は砂分の混在があり，純粋なものとa・bに区別した。

### 2. 出土遺物

遺物は2枚の層から出土した。Ⅸb層からは縄文時代早期の土器片及び石器が確認され，またⅪa層からも旧石器時代のものと思われる黒耀石片が検出された。

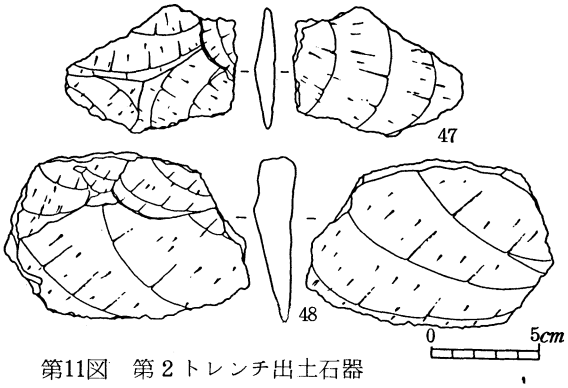
#### (1) 土器（第10図・図版3・7）

土器片はトレンチの北側にまとまって出土した。32は復元口縁径12.5$cm$を測る。口縁部に貝殻腹縁の刺突による刻目を施し，胴部には斜行するあらい貝殻条痕文を施す。33は復元口縁径13.3$cm$を測る。口縁部に貝殻腹縁の刺突による刻目を施し，胴部には斜行する貝殻条痕文を施す。34は復元口縁径13.5$cm$を測る。口縁部には貝殻腹縁の刺突による刻目を施して，胴部上位には横位の，下部には斜行する貝殻条痕文を施す。35は口縁部に貝殻腹縁の刺突による刻目を施し，胴部には斜行する貝殻条痕文を施すものである。36～38は斜行する貝殻条痕文を施す。




第10図　第２トレンチ出土土器

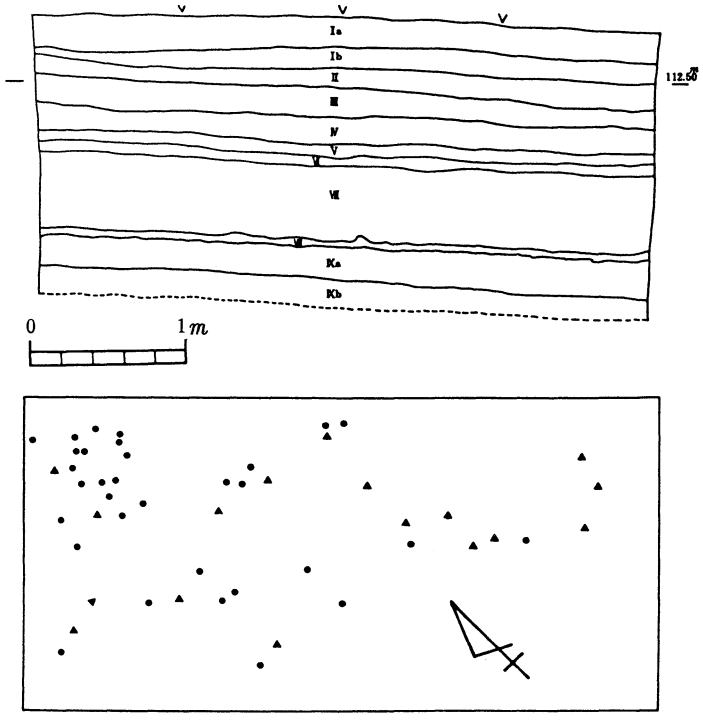
39・40は横位の貝殻条痕文を施すものである。41は斜行する貝殻条痕文を施している。42は底部に近い部位と思われる。ヘラ状施文具による沈線文を格子状に施す。43〜46は底部である。43は底面に貝殻条痕が認められる。44は復元底部径19cmを測る。器面には貝殻条痕文が施される。また底部内面及び底面にも貝殻条痕が認められる。46は復元底部径が11cmであり，器面には貝殻条痕文が施される。色調は32〜35が暗茶褐色であり，36〜46は茶褐色を呈する。また33は器面にススの付着が認められる。焼成はいずれも良好である。胎土には石英・長石及び角閃石等を含む。32〜41は前平式土器と思われる。



第11図　第2トレンチ出土石器

**(2) 石器**（第11図・図版3，7）

47・48は剥片を素材とした石器である。47は剥片末端の両縁辺を使用している。48は直線に近い刃部を有し，他の縁辺は折断等の方法で除却していると思われ，その後敲打により整形をしている。石材は同じ擬灰岩である。



第12図　第3トレンチ土層図・平面図

## Ⅳ 第３トレンチ

第３トレンチは南北に長い遺跡のなかでほぼ中央部の位置で，２×４ｍの大きさで設定した。東側への傾斜は少なく，第３～４図の表採資料はこの近くで採集されたとのことであった。

### １ 土層（第12図）

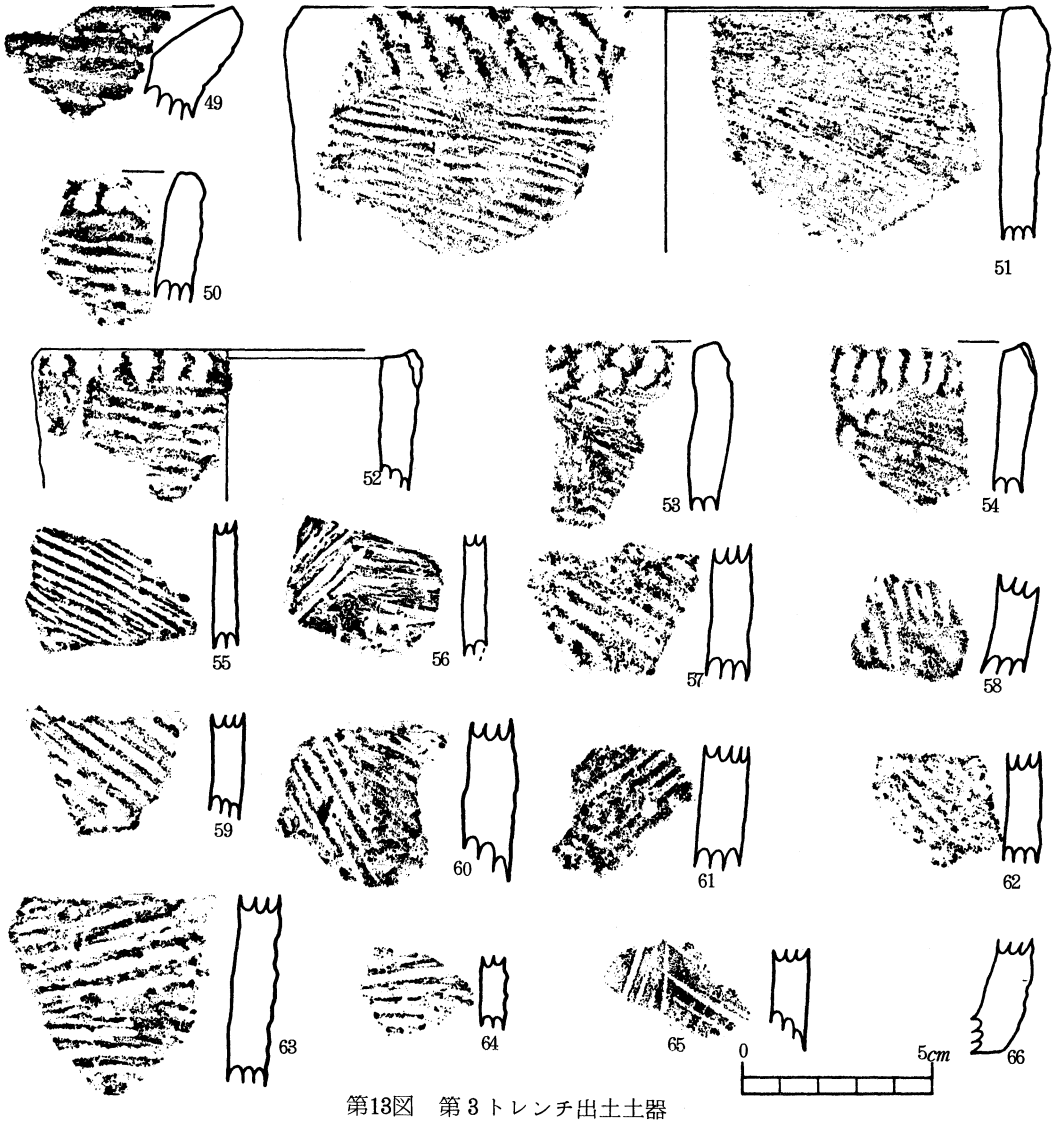
良好な状態で全ての層が堆積していた。

Ⅰa層　暗褐色土層（耕作土）

Ⅰb層　攪乱層である。

Ⅱ層　黒色土層

Ⅲ層　黒色土層。御池起源の黄色パミスが多量に混在している。




第13図　第３トレンチ出土土器

Ⅳ層　黒色土層。硬く粘質である。

Ⅴ層　黒色土層。径2～15mm前後の池田降下軽石が多く混在する。

Ⅵ層　暗褐色土層。クラックが発達しやすい。硬く粘質な層である。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。赤ホヤ層と呼ばれるもので，約50cm前後の堆積があり，土層のなかで最も厚い。

Ⅷ層　茶褐色粘質土層。硬く粘質である。高千穂のウシノスネロームと呼ばれている。

Ⅸa層　黒褐色土層

Ⅸb層　黒褐色土層

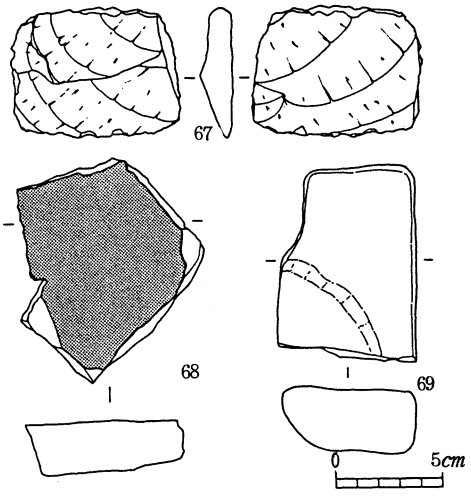
土層は南側に若干の傾斜を有す。

## 2. 遺物

遺物は全てⅨb層から出土した。出土遺物は土器と石器である。また火熱を受けたと思われる礫も多く出土した。遺物の平面分布をみると，土器片は南側に多く，石器及びその他の礫は北側に多く集中していた。

### (1) 土器（第13図・図版8）

49は外反する口縁部で端部を平坦におさめるものである。口縁部には貝殻腹縁による刺突文を横位に施す。50は口縁部に刻目を施し，胴部には斜行する貝殻条痕文を施す。51は復元口縁径19.4cmを測る。51・53は口縁部に2段の刻目を施し，胴部には斜行する貝殻条痕を施す。52は復元口縁径10cmを測る。口縁部に貝殻腹縁の刺突による刻目を施し，胴部には斜行する貝殻条痕文を施す。54は口縁部に貝殻腹縁の刺突による刻目を施し，胴部には斜行する貝殻痕文を施す。55，57～64は斜行する貝殻条痕文を施す胴部である。56は不規則な貝殻条痕を施す。65はヘラ状施文具による沈線文を施すものである。66は底部である。色調は49・51・53・54・63・64が暗茶褐色で，50・52・55～62・65・66は茶褐色を呈する。焼成はいずれも良好で，胎土には，49が石英，長石，角閃石，金雲母等，50～59，61～65は石英，長石，角閃石等，60・66は石英，長石等を含む。49は石坂式土器と思われる。50～64は前平式土器と思われる。



第14図　第3トレンチ出土石器

### (2) 石器（第14図・図版8）

67は剥片石器である。同種の石器のなかで最も整った形状に仕上げてある。刃部は直線的であり，他の縁辺は折断及び敲打により整形されている。68は石皿の一部であり，表面は磨耗している。69は表裏とも磨耗したもので石皿と思われるが，砥石的用途も考えられる。

## Ⅴ 第4トレンチ

第4トレンチは第3トレンチより南に約60$m$下がった地点に2×3$m$の大きさで設定した。Ⅹ層で細石核が出土したため，その包含層と思われるⅪ層まで入念に調査した。その結果地表面から約250$cm$まで掘り下げた。

### 1. 土層（第15図・図版4）

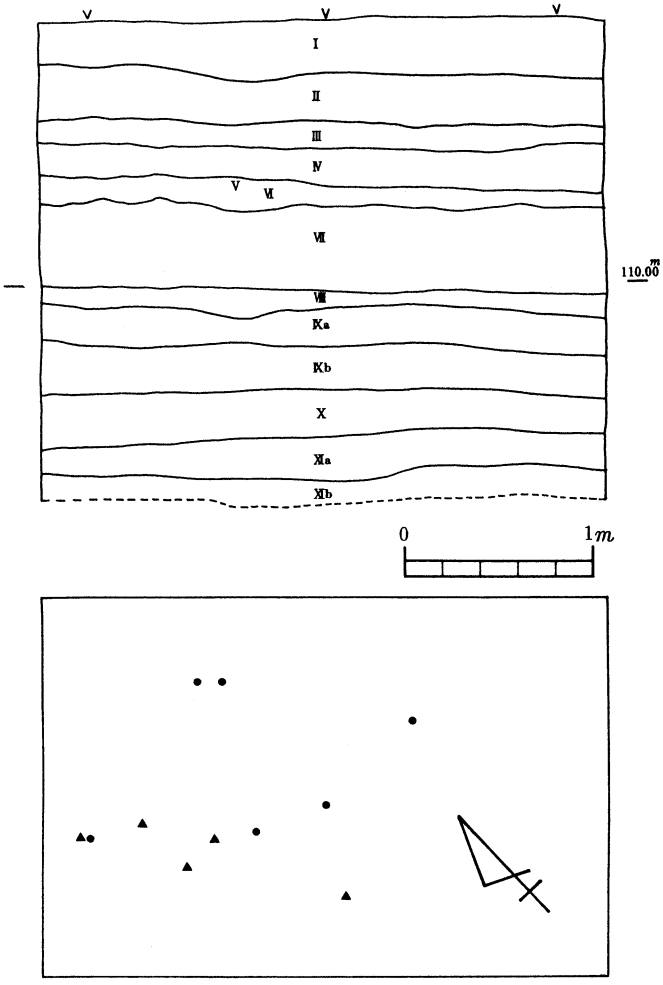
Ⅰ層　耕作土

Ⅱ層　黒色土層。他のトレンチと比べて，残存状態が良好である。

Ⅲ層　御池パミスが混在する黒色土層。

Ⅳ層　黒色土層。硬く粘質である。

Ⅴ・Ⅵ層　池田降下軽石が点在する層であるⅤ層と，その下層であるⅥ層の明瞭な区分けはできない。




第15図　第4トレンチ土層図・平面図

Ⅶ層　黄褐色パミス層（通称赤ホヤ層と呼ばれる。）

Ⅷ層　茶褐色粘土層（ウシノスネローム）

Ⅸa層　黒褐色土層

Ⅸb層　暗褐色土層

Ⅹ層　桜島パミス層

Ⅺa層　茶褐色粘土層。水分多し

Ⅺb層　茶褐色粘土層。径20$mm$前後の小礫が多い。

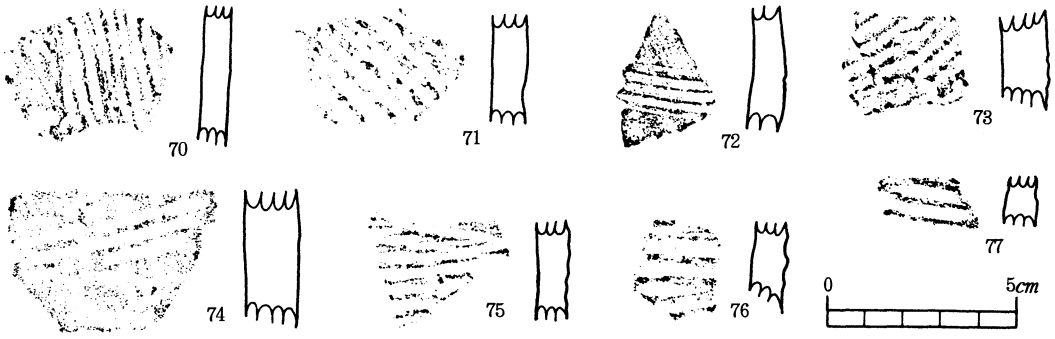
以上のように土層の堆積は良好である。土層はほとんど平坦に近い状態で堆積している。

### 2. 遺物

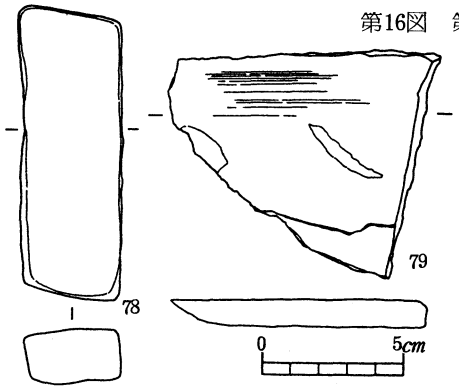
ほとんどの遺物はⅨb層より出土している。またその下層からも一部確認した。

#### (1) 土器（第16図・図版9）

70～77はいずれも胴部片である。70・71は斜行する貝殻条痕文を施す。72は貝殻条痕を施すが器面全体に施されるものではない。73は斜行する貝殻条痕文を施している。74は72と同様で




第16図　第４トレンチ出土土器



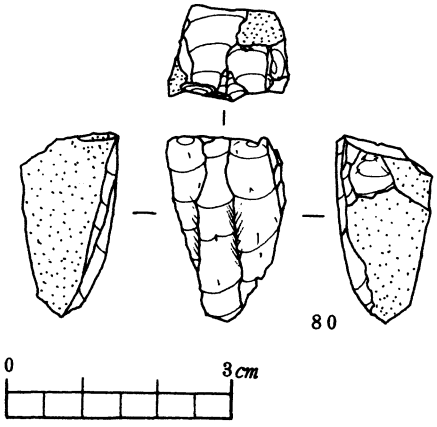

第17図　第４トレンチ出土石器

あり，貝殻条痕文を施すが器面全体に及ぶものではない。75～77は横位に近い貝殻条痕文を施している。色調は73・77が暗茶褐色であり，70～72・74～76は茶褐色を呈する。焼成はいずれも良好であり，胎土には70・71・73～77に石英・長石・角閃石等を，72には石英・長石等を含む。全て前平式土器と思われる。

**(2)　石器**（第17図・図版９）

縄文時代のものは２点出土している。78は砂岩製のものであり，外面のほとんどが磨耗している。意識的に磨かれたものではなく，使用のための結果と思われる。79は表面が磨かれており，擦痕が認められるものである。石皿の一部分と判断されるが，砥石的用途も考えられる。これも砂岩製である。

第18図の80は旧石器時代末期の細石器文化に位置づけられる細石核である。出土層位はⅩ層上部であり，本来あるべきⅪ層から検出されたものではない。これは黒耀石の小礫を利用したもので，打面は剥離面と同様の剥離で作出し，打面調整を施している。石材は気胞が少ない良質のものを利用している。Ⅺ層は念入りな調査を行ったが黒耀石のチップを数点確認したのみであった。




第18図　第４トレンチ出土石核

細石核の出土で旧石器文化の存在を確認したものの，性格及び広がりは不明に近い。しかしながら第２トレンチの茶褐色粘土層からも黒耀石の剥片が確認されており，近くに同時代の中心部が存在すると考えられる。他のトレンチは桜島パミスの下部は掘り下げていないが，可能性は高いものと思われる。

## Ⅵ 第５トレンチ

第５トレンチは第４トレンチの南側約40$m$の地点に２×４$m$で設定した。井手平遺跡の南端と考えられていた地点であり，東側に張り出た平地である。現在では最も平坦な畑となっている。

### 1. 土層（第19図）

Ⅰ層　暗褐色土層。（耕作土）

Ⅱ層　黒色土層

Ⅲ層　御池パミスが混在する黒色土層。

Ⅳ層　黒色土層。硬く粘質である。

Ⅴ層　池田降下軽石が点在する層である。

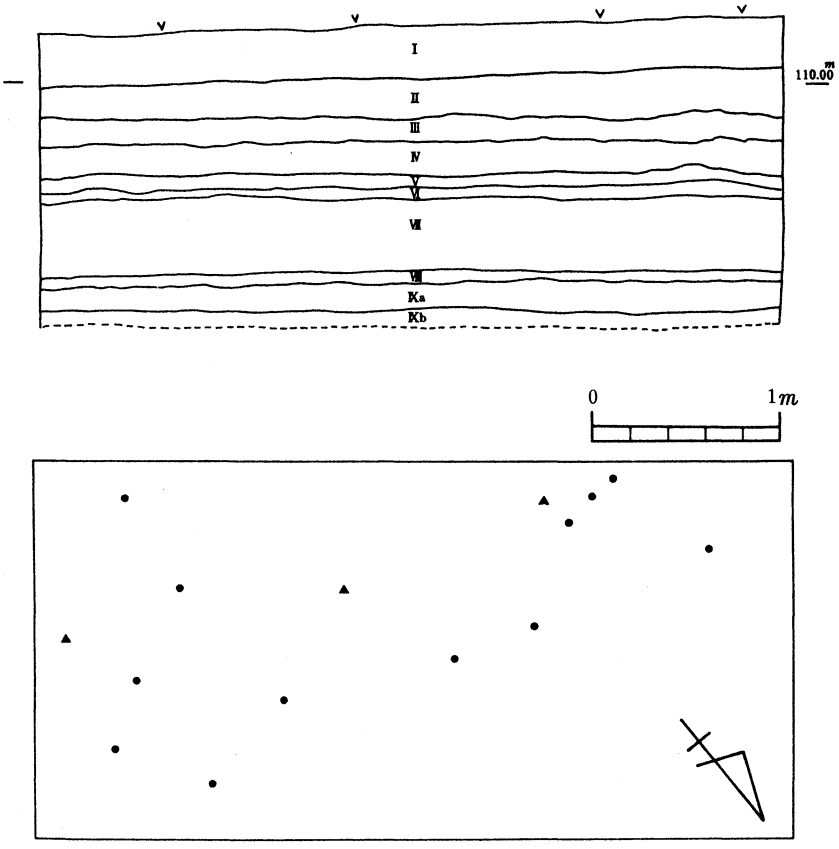
Ⅵ層　暗褐色土層

Ⅶ層　黄褐色パミス層。（赤ホヤ層）

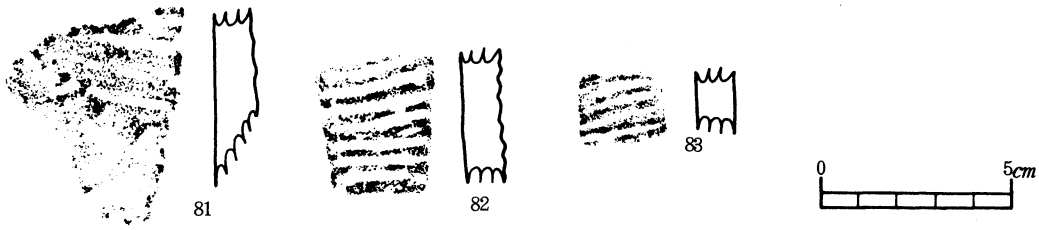
Ⅷ層　茶褐色粘質土層。（ウシノスネローム層）

Ⅸa層　黒褐色土層

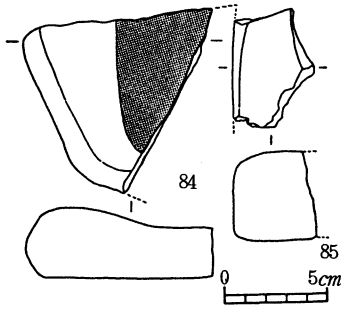
Ⅸb層　暗褐色土層



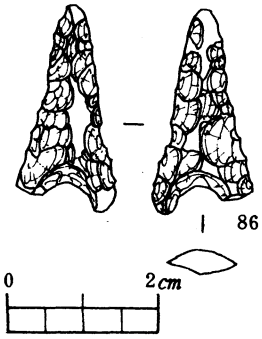

第19図　第５トレンチ土層図・平面図




第20図　第５トレンチ出土土器




第21図　第５トレンチ出土石器




第22図　第5トレンチ出土石鏃

各土層の層序は基本土層と同じであるが，他のトレンチよりⅨa層・Ⅸb層も含めて堆積は少ない。

## 2. 出土遺物

遺物は全てⅨb層より出土した。土器片は３点と少ないが石器の中には石鏃も出土した。

### (1) 土器（第20図・図版９）

81～83は胴部片である。81は斜行する貝殻条痕文を施す。82・83は横位に近い貝殻条痕文を施している。いずれも色調は茶褐色を呈し，また焼成は良好である。胎土には石英・長石・角閃石等を含んでいる。前平式土器と思われる。

### (2) 石器（第21図・図版９）

84は石皿の破片である。底面は平坦であり，表面には使用の痕跡が残っている。85も石皿の破片と考えられる。いずれも砂岩を利用している。86は安山岩製の石鏃である。長身鏃の部類には入るもので，先端部及び稜のある中心部は磨耗している。脚の一方は欠損するが，井手平遺跡の今回の調査では唯一のものである。

## Ⅶ 第６トレンチ

第６トレンチは第５トレンチの南側約30$m$の地点に２×４$m$の大きさで設定した。井手平遺跡の南端と思われていた第５トレンチより遺物の出土があり，最南端を確認するものである。

### 1. 土層（第23図・図版３）

Ⅰa層　耕作土

Ⅰb層　攪乱層

Ⅱ層　黒色土層

Ⅲ層　御池パミスが混在する黒色土層

Ⅳ層　黒色土層

Ⅴ層　黄白色の池田降下軽石が混在する黒色土層

Ⅵ層　暗褐色土層。硬く粘質である。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。（赤ホヤ層）

Ⅷ層　茶褐色粘土層。（ウシノスネローム）

Ⅸa層　黒褐色土層

Ⅸb層　暗褐色土層

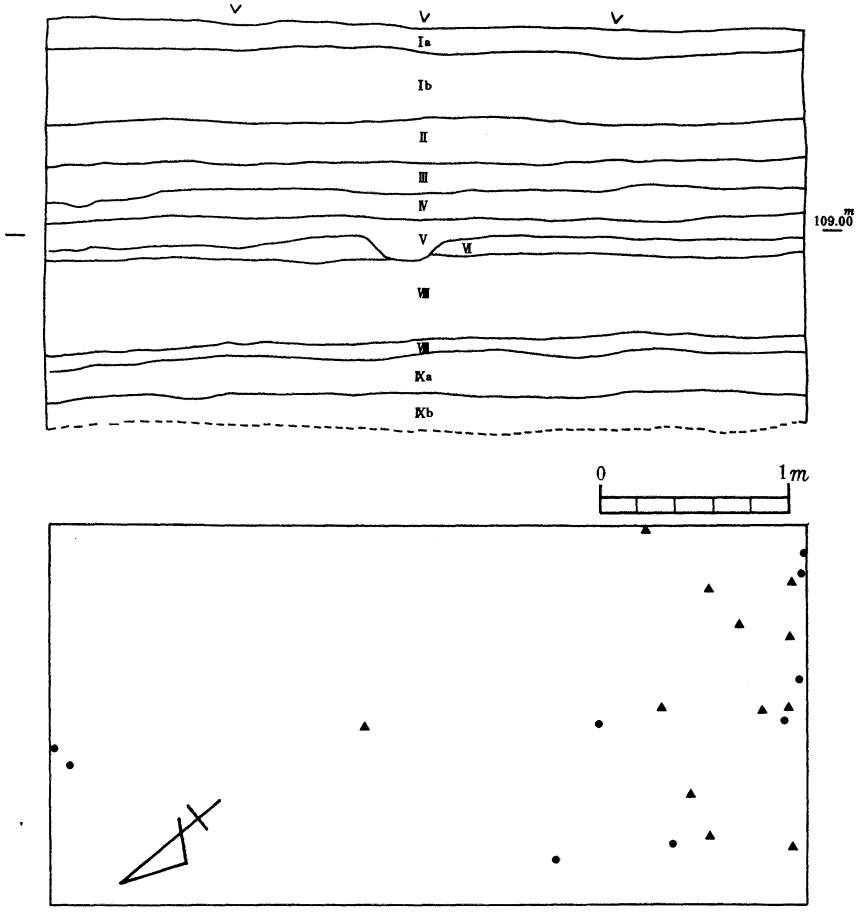
各土層の堆積は良好であり，層序は基本土層に近い。

## 2. 遺物

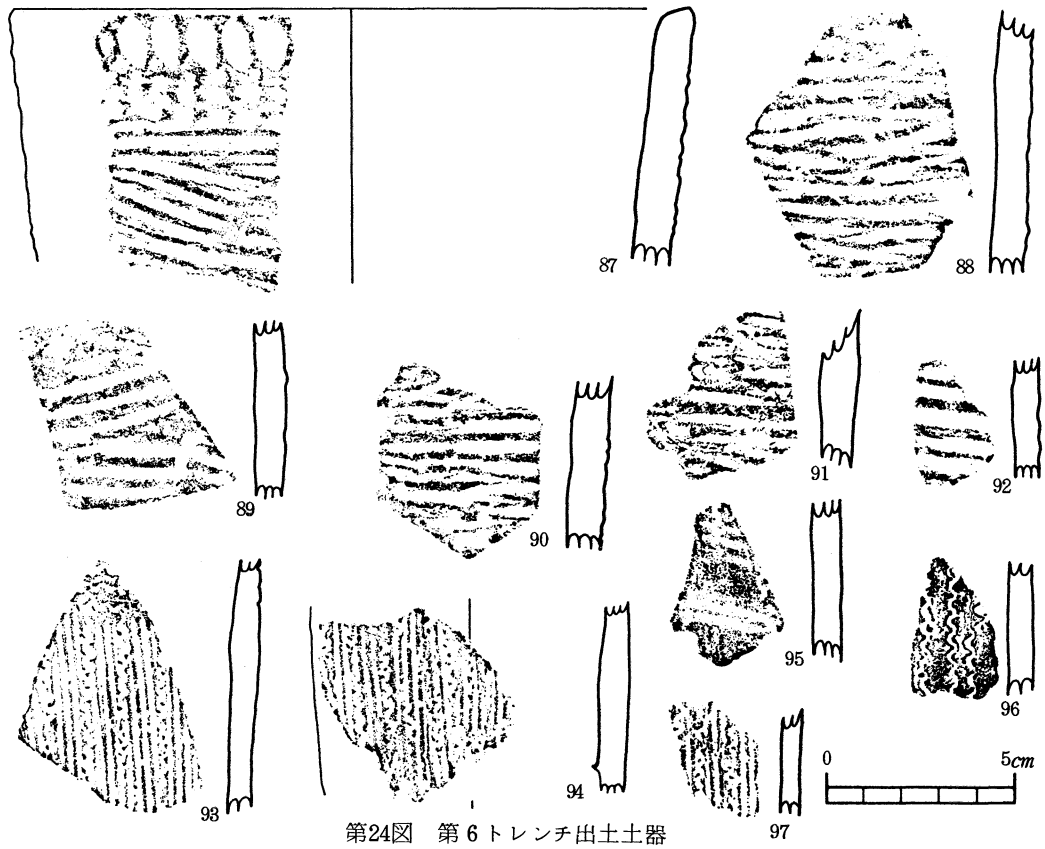
出土遺物はⅨb層から出土し，南側に多かった。

### (1) 土器（第24図・図版10）

87は復縁口縁径が18cmである。口縁部には上段に棒状施文具，下段に貝殻腹縁の刺突による刻目を施す。胴部には斜行する貝殻条痕文を施す。88・91・92は横位に近い貝殻条痕文を施している。89は横位及び斜位の貝殻条痕文を施す。93は口縁部に近い部位であり，口縁下位に横位の貝殻腹縁による刺突文を施し，胴部には縦位に近い貝殻条痕文の上に貝殻腹縁による縦位




第23図　第6トレンチ土層図・平面図

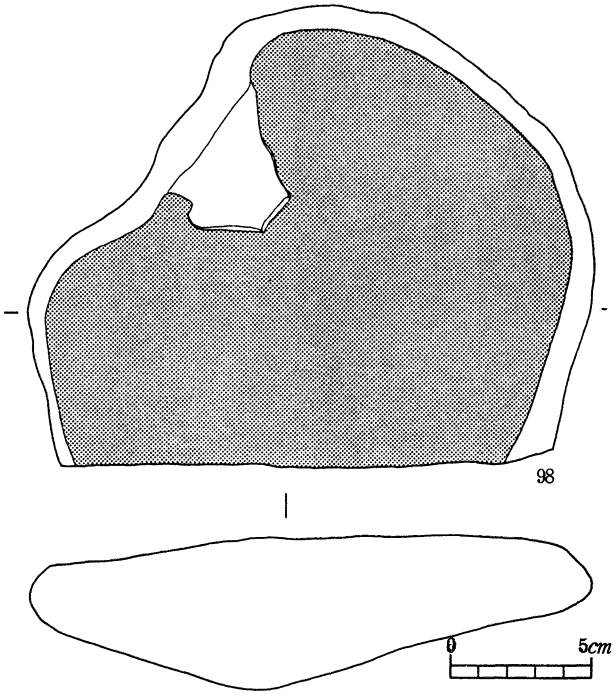



第24図　第６トレンチ出土土器

刺突文を施す。94は底部に近い部位であり，底部は円板貼り付けによるものと思われる。胴部の文様は93と同様である。95は斜行する貝殻条痕文の上に貝殻腹縁による縦位の刺突文を施す。96は貝殻条痕を消し，その上に貝殻腹縁による縦位の刺突文を施す。97は93・94と同様である。色調は87・91・93・96・97が暗茶褐色であり，その他は茶褐色を呈する。焼成はいずれも良好であり，胎土には石英・長石・角閃石等が含まれる。すべて前平式土器と思われる。

**(2)　石器**（第25図・図版10）

98は砂岩製の石皿である。表裏とも使用されている。火熱を受けたと思われヒビ割れが周囲に多い。




第25図　第６トレンチ出土石器

## Ⅷ 第０トレンチ

第１トレンチで集石遺構を確認し，北側へ遺跡の広がりが予想されたため，北側へ60*m*の地点で，標高も約10*m*程度高位置な傾斜地に２×４*m*のトレンチを設定し，第０トレンチとした。第０トレンチは井手平遺跡を見わたせる位置にあり，鞍状の地形で東に傾斜している。

### 1. 土層（第26図）

Ⅰ層　耕作土

Ⅶ層　黄褐色パミス層。（赤ホヤ層）

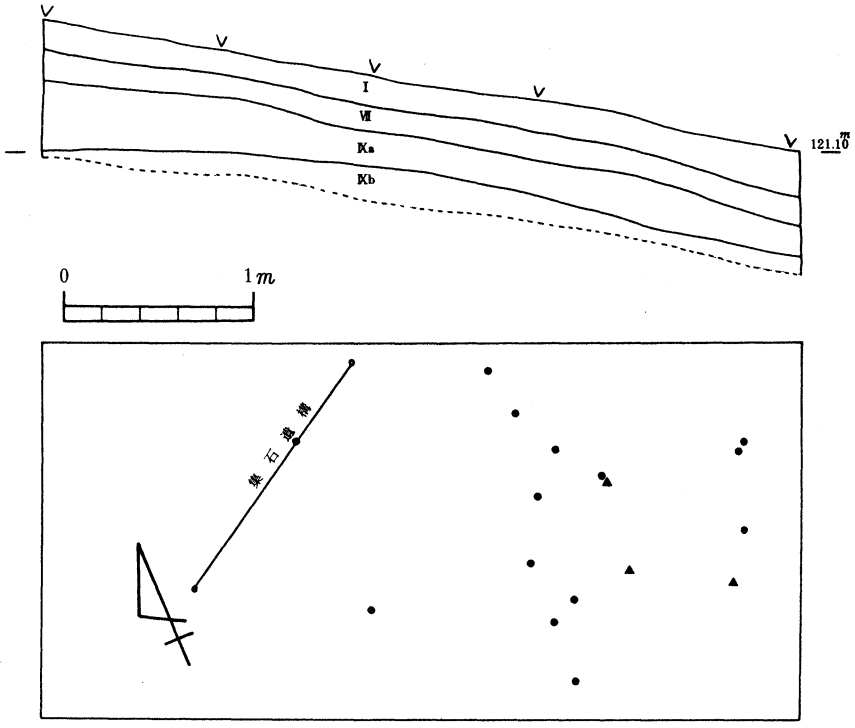
Ⅸa層　黒褐色土層

Ⅸb層　暗褐色土層

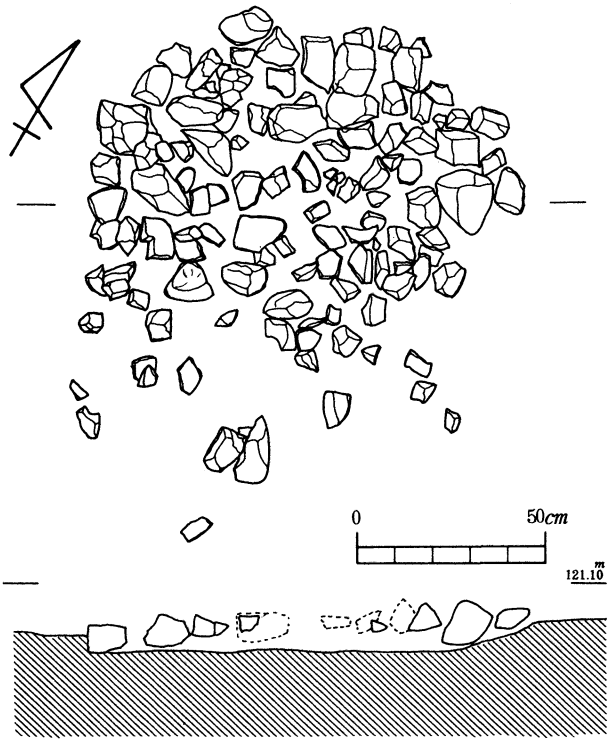
土層はⅡ層～Ⅵ層とⅦ層の上半が欠除している。Ⅸa層及びⅨb層の堆積は良好である。

### 2. 遺構（第27図・図版４）

集石遺構が西側で確認された。集石はⅨb層中ほどで検出され，南北120*cm*・東西110*cm*の円形状の平面を呈する。下面は５*cm*程の浅い掘り込みが円形に施され，10*cm*前後の角礫を配する。集石は礫が密集する部分と，東南部の小数のまとまりから構成される。位置が東南に面する傾斜地のため，礫の移動は集石が放棄されてから人為的なものでなく，自然的作用によって生じたと考えられる。集石を構成する礫は砂岩を中心としたものであり，総数 110 個近い。礫はすべて火熱を受けたと思われ，赤色化し割れたものが多い。内部には炭化物も多く確認された。




第26図　第０トレンチ上層図・平面図



第27図　第０トレンチ集石遺構図

礫の一部には石皿等の石器も利用されていた。今回は確認調査であり，実測図作成の後そのまま埋め戻した。

### 3. 遺物

Ⅸb層より貝殻条痕文を施した土器細片が図示してないが数点出土している。

また石器としては砂岩を利用した石皿が集石のなかに認められたが，集石遺構を保護するために現状のままとした。

第０トレンチの北側はすでにシラス面まで削平され，平坦な畑地となっている。

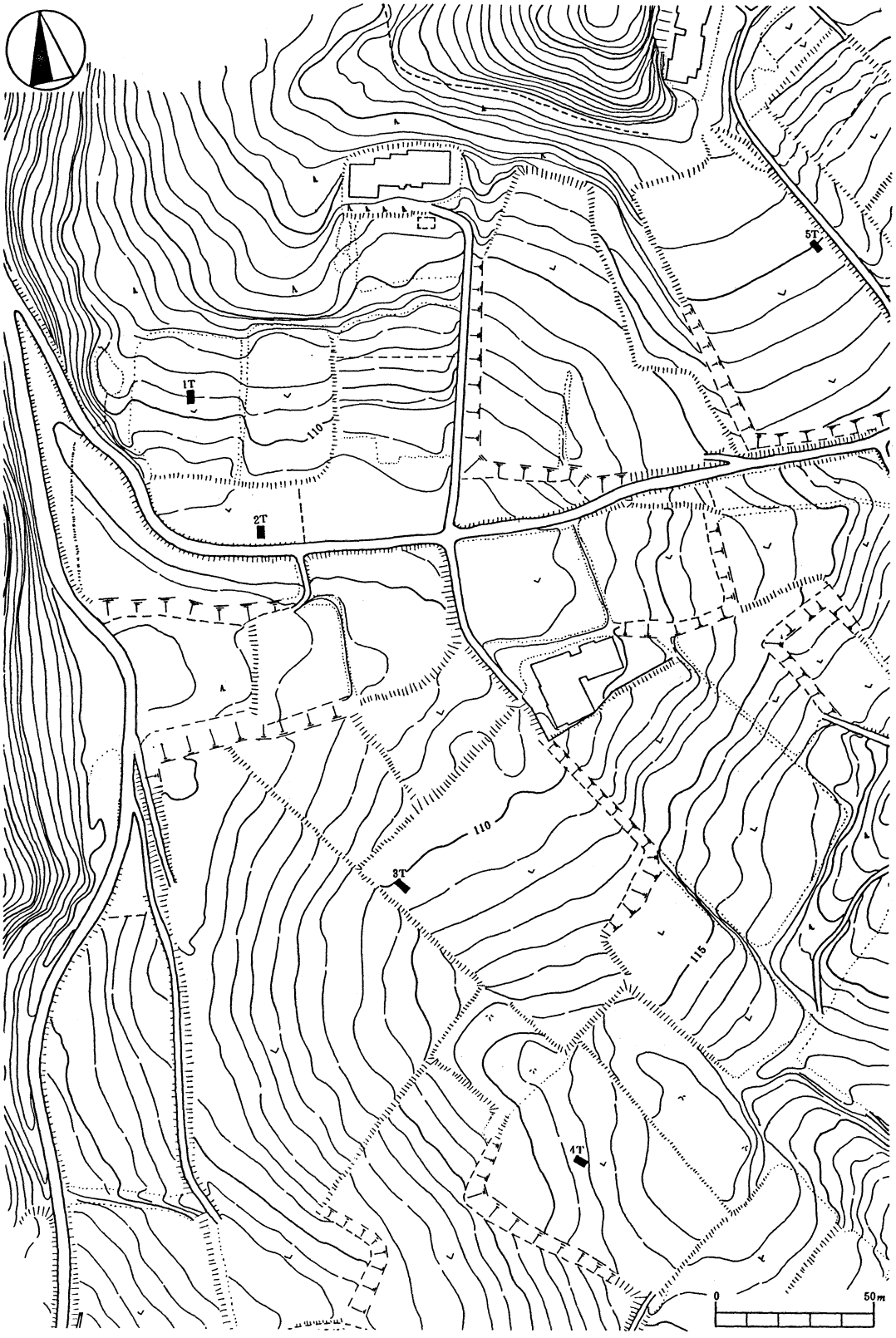
## Ⅸ　まとめ

井手平遺跡は縄文時代早期を中心とする遺跡であり，２基の集石遺構と前平式土器を中心とする土器及び石器等を検出した。また下層には旧石器時代の文化層が確認され，剥片等が出土した。

縄文時代の遺物はⅨb層最上部より出土し，全てのトレンチで確認された。土器片は前平式を中心とし，一部石坂式と思われるものも検出した。前平式のものは，口縁部に貝殻腹縁の刺突を施し，胴部には斜行する貝殻条痕文を施したもの等がよく知られているが，第４図１・２のように口縁部の文様は同様であるが，胴部は石坂式に行なわれる綾杉状の条痕が施されたものも確認された。この一点で前平式と石坂式を結び付けることは早計であり，類似品の増加を待ちたい。しかし今後胴部片の綾杉状の条痕をもって石坂式土器とは簡単に判断できないものと思われる。石器のなかでは凝灰岩を利用した剥片石器が多く検出され注目される。ほとんど二次加工の刃部形成剥離は行なわれず，剥片のままの縁辺を使用している。刃部は直線的なものが多く，一種の切断具と考えられる。

今回の調査より，井手平遺跡は南北に長く，良好な包含状態を有することが確認された。

# 池　野　遺　跡




第28図　池野遺跡トレンチ配置図

## Ⅰ　調査の概要　（第28図・図版11）

池野遺跡は池野台地の西側奥部に位置し，南に向った傾斜地に所在する。遺跡の西側には谷状の低地があり，それを隔てた台地には倉園Ｂ遺跡が所在する。中心部の標高は110～115$m$である。

以前より土器片等の遺物が採集されている南向きのゆるい傾斜面に，第１・第２の各トレンチを設定し，また南側の小さな沢を隔て，西側の谷に向かって傾斜する地に第３及び第４トレンチを設定した。さらに第１トレンチの東側で，標高が約125$m$と一段高位な地に第５トレンチを設定した。これらの第３～第５トレンチは遺跡の立地として条件的に良好であると思われた場所である。

調査の結果，縄文時代中期から後期にわたる土器片及び石器等の遺物を検出した。また縄文時代早期と思われる遺物も確認することができた。

## Ⅱ　第１トレンチ

以前より遺物が採集している場所の中心部であり，２×４$m$の大きさで設定した。このトレンチの約40$m$北側に墓地があり，そこで完形の土器が出土したということであった。

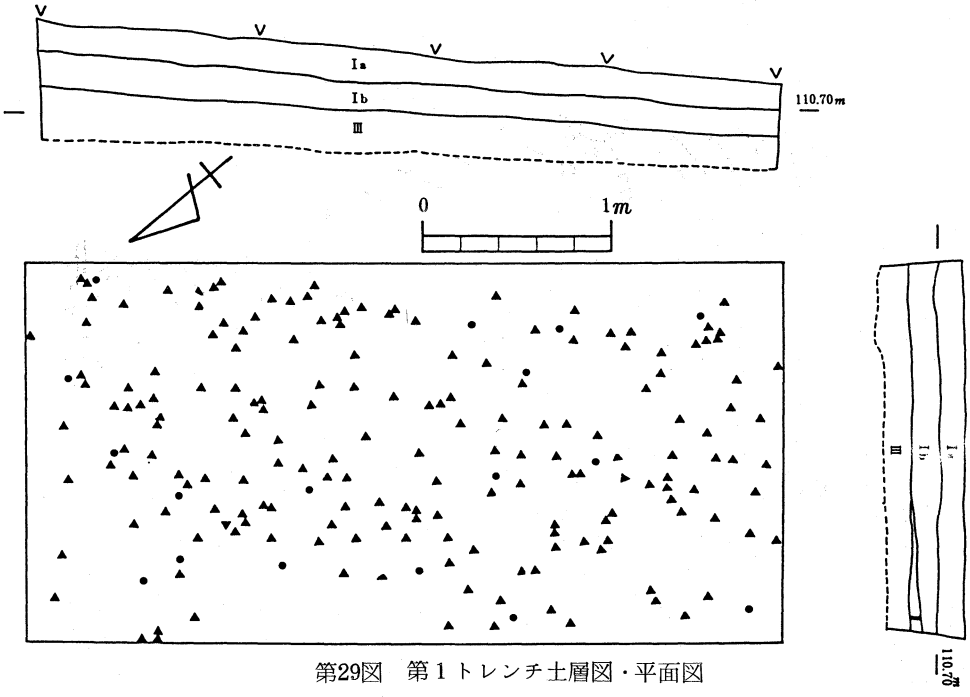
### 1. 土層（第29図）

Ⅰ層　黒褐色土層。（耕作土）

Ⅰa層　暗褐色土層。（旧表層・旧耕作土）

Ⅱ層　黒色土層。南側に若干残存している。

Ⅲ層　黒色土層。黄褐色で点状の御池パミスが多く混在し，硬くしまっている。



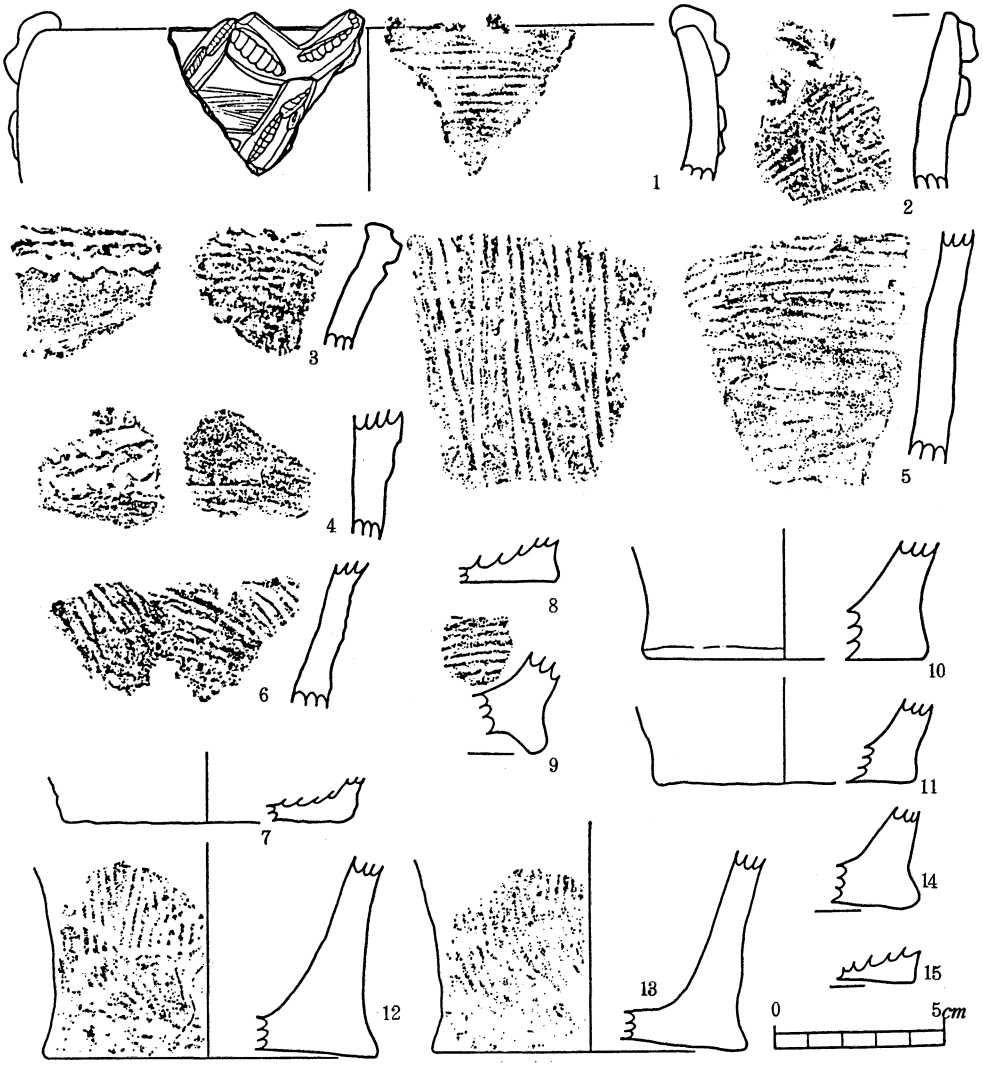

第29図　第１トレンチ土層図・平面図

## 2. 遺物

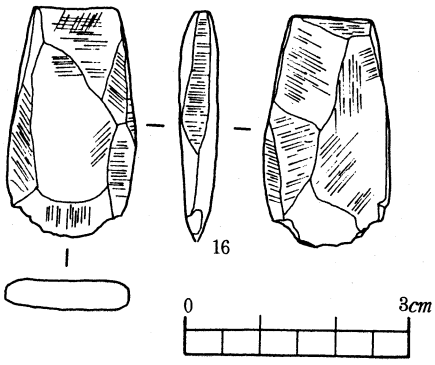
縄文時代中期から後期にわたる土器片や石器等がⅢ層より多く出土した。土器片のなかには春日式と思われるものも確認した。

### (1) 土器（第30図・図版12）

1は復元口縁径19.4*cm*を測る。口縁部は内湾し，端部は平たい。内外面とも貝殻条痕による器面調整が行なわれ，その後外面には粘土紐を貼り付け，さらにその粘土紐に貝殻腹縁による刺突文を施すものである。2は口縁部がわずかに外反するもので，内面及び外面に貝殻条痕による器面調整が行なわれる。口縁部には巾約1.2*cm*の粘土紐を貼りつける。3は外反する口縁部であるが，端部はわずかに内湾するものである。内面には貝殻条痕が認められるが，外面には認められない。口縁部に二条の凹線文を施し，口縁端部の内側には刻目を施すものである。4



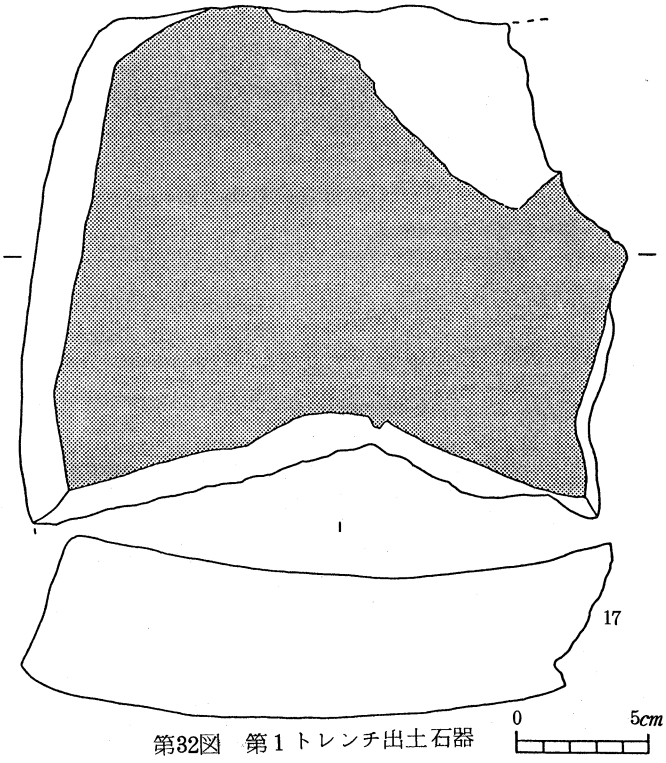

第30図　第1トレンチ出土土器




第31図　第１トレンチ出土石器

は外面に押し引き状の凹線文を施すもので，内面は貝殻条痕が認められる。５は底部に近い部位であり，内外面ともに貝殻条痕による調整が行なわれる。６も底部に近い部分である。外面は貝殻条痕調整が認められる。７～15は底部である。７は復元底部径8.4cmを測る。９は高台状のあげ底である。内面に貝殻条痕が認められる。10は復元底部径8.4cmを測るものである。11は復元底部径7.7cmで，外面に貝殻条痕が認められる。12は9.7cmの復元底部径で，わずかにあげ底状を呈する。外面は貝殻条痕調整が行なわれている。13は9.2cmの径で，わずかにあげ底状である。外面は貝殻条痕調整が行なわれる。14・15もわずかにあげ底状である。色調は１・３が黒褐色であり，４・６・７・10・12は暗茶褐色，その他のものは茶褐色を呈する。焼成はいずれも良好である。胎土には１・４・６に石英・長石等が，２・３・５・７～９・11～15には石英・長石・角閃石等を，10に石英・長石・砂粒等が含まれる。

１～４は春日式土器と思われる。他は型式不明であるが，縄文時代中期から後期にわたるものと想定される。




第32図　第１トレンチ出土石器

**(2)　石器**（第31図・図版12，13）

16は砂岩製であり，全面が磨かれている。磨製石斧の形状を呈し，平坦に近い側面を有し，製作時の擦痕と思われるものが随所に認められる。17は砂岩製の石皿である。円孤状に凹んだ機能面を有し，それに平行する断面形を呈する。側面は敲打によって平坦に整形されている。外面は火熱を受けたと思われ，赤色化し，ヒビが多い。

また，図化していないが，磨石の可能性もある円礫が１点出土している。黒耀石片は３点と少ないものの確認されている。

## Ⅲ 第２トレンチ

第２トレンチは第１トレンチの約50$m$南側に２×４$m$で設定した。平坦に近い地である。

### 1. 土層（第33図）

Ⅰa層　黒褐色土層　（耕作土）

Ⅰb層・Ⅰc層　暗褐色土層　（時間的なズレが認められる攪乱層で一時は耕作土であった。）

Ⅱ層　黒色土層。若干やわらかく，粘性は少ない。

Ⅲ層　黒色土層。御池パミスが多く混在している。

Ⅳ層　黒色土層。硬く粘質である。

Ⅴ層　池田降下軽石が混在する黒色土層である。

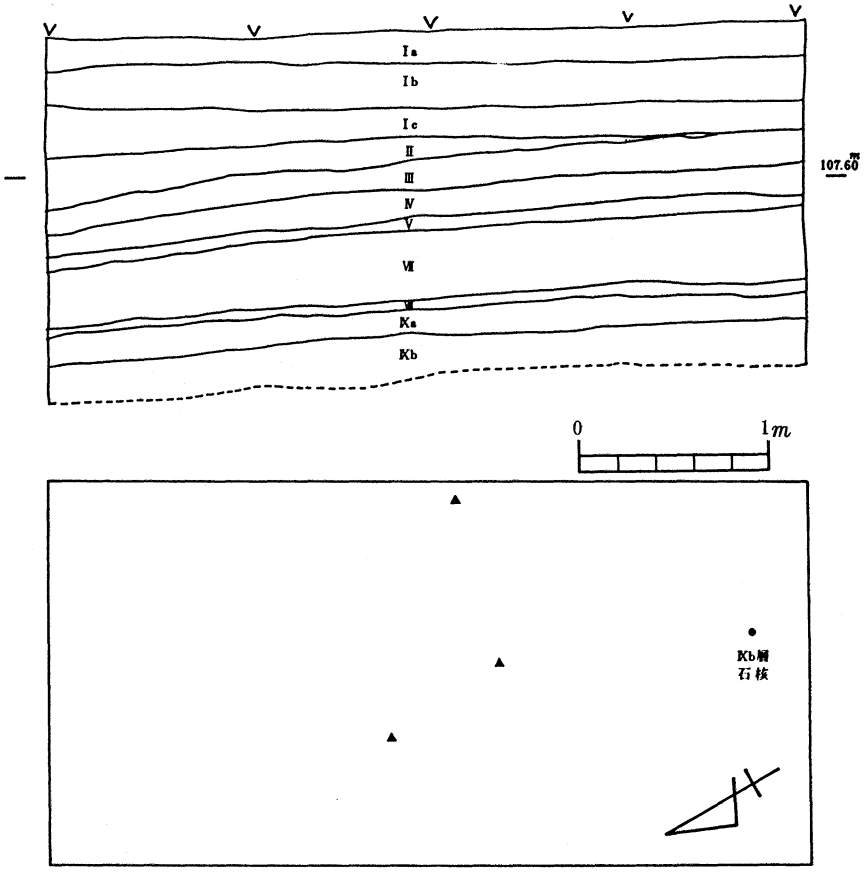
Ⅶ層　黄褐色パミス層　（赤ホヤ層）

Ⅷ層　茶褐色粘土層　（ウシノスネローム層）

Ⅸa層　黒褐色土層

Ⅸb層　暗褐色土層

土層の堆積は良好であるが，北側から表層を何回も押してきている。



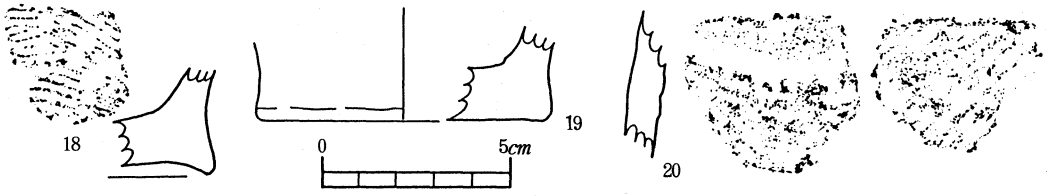

第33図　第２トレンチ土層図・平面図

## 2. 遺物

Ⅲ層より土器片が3点，Ⅸb層より石核が1点出土した。

### (1) 土器（第34図）

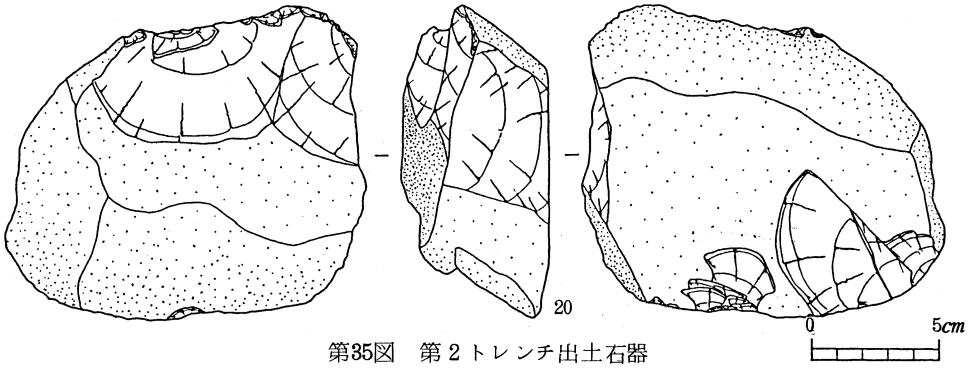
18・19は底部である。18はあげ底状を呈する。内外面ともに貝殻条痕調整が行なわれている。19は復元底部径7.7*cm*を測るものである。20は口縁部に近い部分と思われる。接合部分が明瞭であり，内外面に貝殻条痕調整が行なわれている。




第34図　第2トレンチ出土土器

### (2) 石器（第35図・図版13）

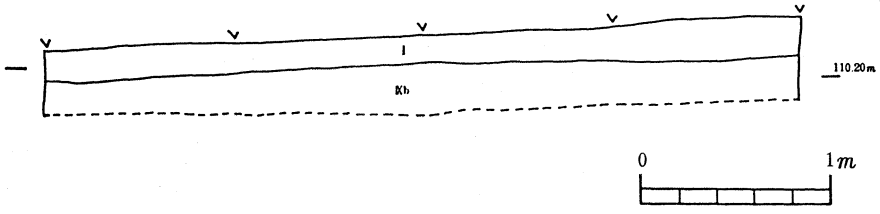
20はⅨb層より出土した石核である。表裏の広い二面から剥片を取っている。打面は平坦に近く，打面調整等は行なっていない。原材は砂岩である。




第35図　第2トレンチ出土石器

## Ⅳ 第3トレンチ

第3トレンチは標高約110*m*で，西向きの傾斜面に2×4*m*の大きさで設定した。しかしながら遺物包含層であるⅢ層及びⅨb層は削平のため現存せず，遺物は全く出土していない。Ⅰ層耕作土の下はⅨb層の下半部であった。




第36図　第3トレンチ土層図

## Ⅴ 第4トレンチ

第4トレンチは第3トレンチの南方向で，標高は約116 $m$を測る地に2×4 $m$の大きさで設定した。これも遺物は全く出土していない。

### 1. 土層（第37図）

Ⅰ層　耕作土

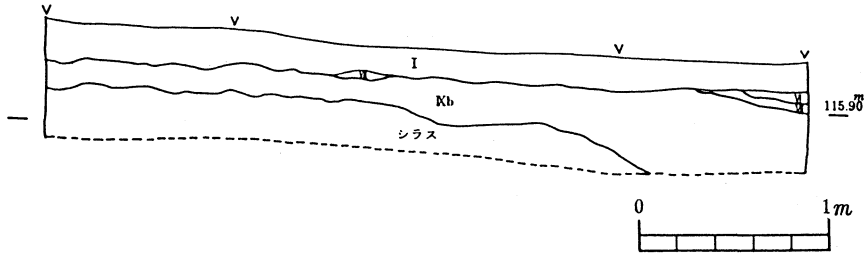
Ⅵ層　黒色土層。部分的に残存する。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。部分的に残存する。

Ⅸb層　暗褐色土層。完全に残っているものは南側のみで，他は下半部のみである。

下層はシラスである。

土層はⅨb層の上半以上は削平されている。また，このトレンチではⅩ層及びⅪ層は堆積していない。




第37図　第4トレンチ土層図

## Ⅵ 第5トレンチ

第5トレンチは第1トレンチの東側で標高は約124 $m$である。2×4 $m$の広さで設定した。遺物は全く出土しなかった。

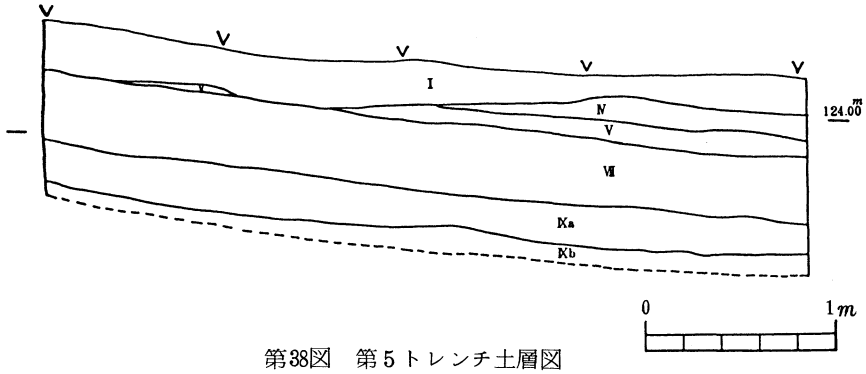
### 1. 土層（第38図）

Ⅰ層　耕作土

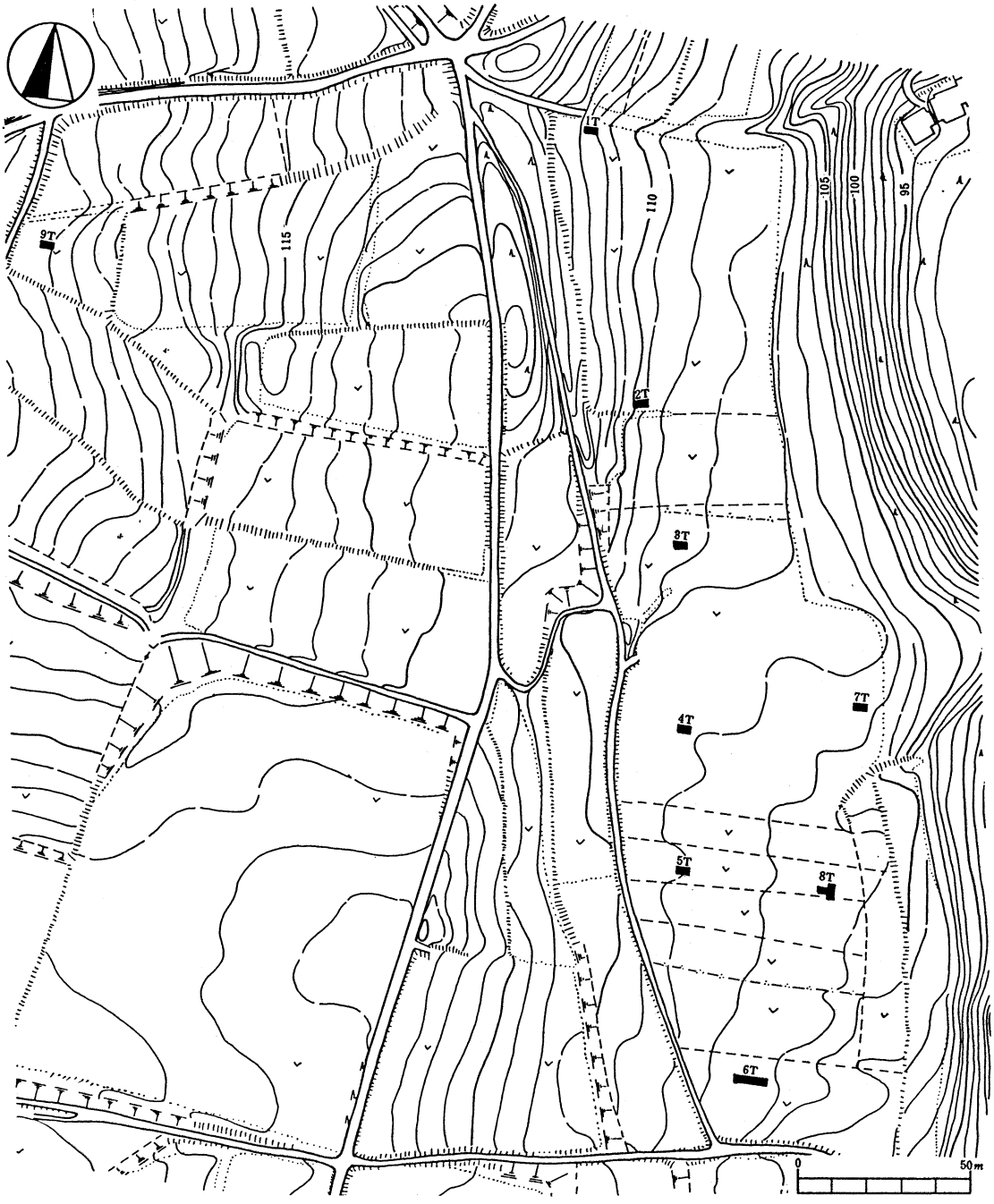
Ⅳ層　黒色土層

Ⅴ層　池田降下軽石が点在する黒色土層

Ⅶ層　黄褐色パミス層　（赤ホヤ層）




第38図　第5トレンチ土層図




第39図　八郎ケ野A遺跡トレンチ配置図

## Ⅰ　調査の概要（第39図・図版14・15）

八郎ケ野A遺跡は前川の上流の通称池野台地に所在する。

この前川は遺跡の東側で二叉に分れているが，いずれも前川の支流となる。

前川によって形成された開析谷は小さく，狭い谷状を呈する。八郎ケ野A遺跡は，東側を流れる前川の支流による谷に沿った幅約 100 *m* ほどの段丘状を呈する。狭い平坦地である。

北側はこの段丘状の平坦地が伸びて，井手平遺跡に接する。

西側は，比高差約15*m* をもって緩傾斜をへて台地となる。南側は第 6 トレンチ付近で，西側の台地の先端部に連なっている。

今回の確認調査では，この平坦面を主体にして，2 *m*×4 *m* を基本とするトレンチを，地形を考慮するとともに，遺跡が発見された場合その範囲の把握ができるように設定した。

そして，各トレンチは北側より南にかけて第 1 トレンチから順次第 8 トレンチまでとし，八郎ケ野A遺跡第 1 トレンチと呼称することとした。また，第 8 トレンチでは，土器片，炭化した木の実が出土したので若干拡張し，第 6 トレンチは 2 *m*×10*m* として調査を実施した。

発掘調査の結果，第 1 トレンチでは各層序は整然と堆積しているが，遺構・遺物は出土しなかった。第 2 トレンチは上面が削平されていたが，下層で数点の土器片が出土した。

第 3 ・第 5 トレンチでは，Ⅲ層上面で，数個のピットが検出されたため，下層の掘下げは中止し，現状のまま埋戻すこととした。第 4 トレンチではⅪ層より頁岩・黒曜石の剥片が出土した。また第 7 ・ 8 トレンチからはⅢ層面で遺物が出土した。

ことに第 7 トレンチでは，本遺跡の各トレンチのうちでは最も出土遺物が多いトレンチで，しかも炭化した木の実も多量に出土した。

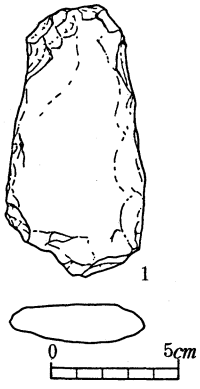
以上のことから，本遺跡は一部削平された部分を除き，Ⅲ層面から良好な状態で出土した遺物等から，縄文時代晩期が上層に埋蔵されていること，第 3 ・ 6 トレンチのピットの性格はつかめなかったが，何らかの遺構が存在すること，あるいはまた，下層のⅨ・Ⅺ層で少数ではあるが，遺物が出土したことから，複合する遺跡と考えられる。

また，調査前は，開墾等による削平が考えられたが，この部分は平坦地基部，すなわち西側の傾斜面部であることも判明した。

各トレンチについては，概要，土層，遺構，出土遺物等，順次記述していくが，1 は調査中に表面採集で得た資料である。

現存長10.4*cm*，最大幅5.3*cm* を測る安山岩製の打製石斧である。

側面は粗く剥離する。刃部は欠損している。




第40図　八郎ケ野A
遺跡採集石器

## Ⅱ 第1トレンチ

第1トレンチは本遺跡の北端に設定したトレンチである。トレンチは台地の傾斜基部より，約10mほど平坦地方向の位置で，2m×4mとし，ほぼ東西方向に設定した。

層序は，Ⅱ層面を欠くが，他は良好な堆積を示し，略水平である。発掘調査の結果，遺構，遺物等何ら出土しなかった。

### 1. 土 層（第41図）

Ⅱ層は削平され，Ⅲ層も部分的に消滅しているが，層序は基本土層と大差はない。

Ⅰ層　耕作土

Ⅲ層　黄色の御池パミスが混在し，黒色を呈し，やや砂質ぎみである。

Ⅳ層　黒色土層。粘質ぎみで略水平を呈する。

Ⅴ層　黒色土層。池田降下軽石と呼ばれる黄白色軽石が点在する。

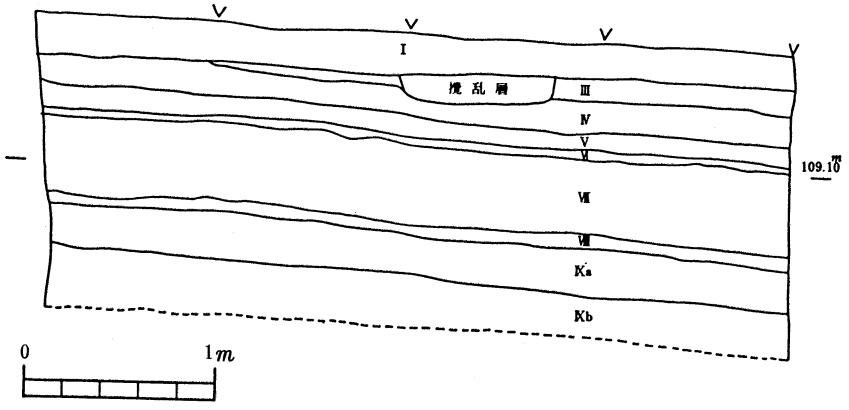
Ⅵ層　暗褐色土層。10cm前後の堆積を示すもので粘質である。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。通称アカホヤ層と呼ばれるもので，40cm前後と厚く堆積する。

Ⅷ層　茶褐色粘土層。10～15cm前後と薄く堆積する。

Ⅸa層　黒褐色土層。

Ⅸb層　暗褐色土層。




第41図　第1トレンチ土層図

## Ⅲ 第2トレンチ

第2トレンチは，第3トレンチ寄りで台地基部より約10mの位置に，平坦面の緩傾斜に沿って2m×4mのトレンチを東西方向に設定した。

層序は耕作土及び直下の攪乱層は耕作等のために水平であるが，Ⅳ層以下の生きている層は西に向けて傾斜する。

出土遺物は土器片3点と，石器であり，他に礫が出土した。

## 1. 土　層（第42図）

耕作土下，Ⅲ層までは耕作等により攪乱されていた。以下の層は西側に傾斜する。

Ⅰ層　耕作土

Ⅳ層　黒色土層。トレンチ東側半分は削平されている。

Ⅴ層　黒色土層。トレンチ東側半分は削平されている。層厚約20*cm*を測る。

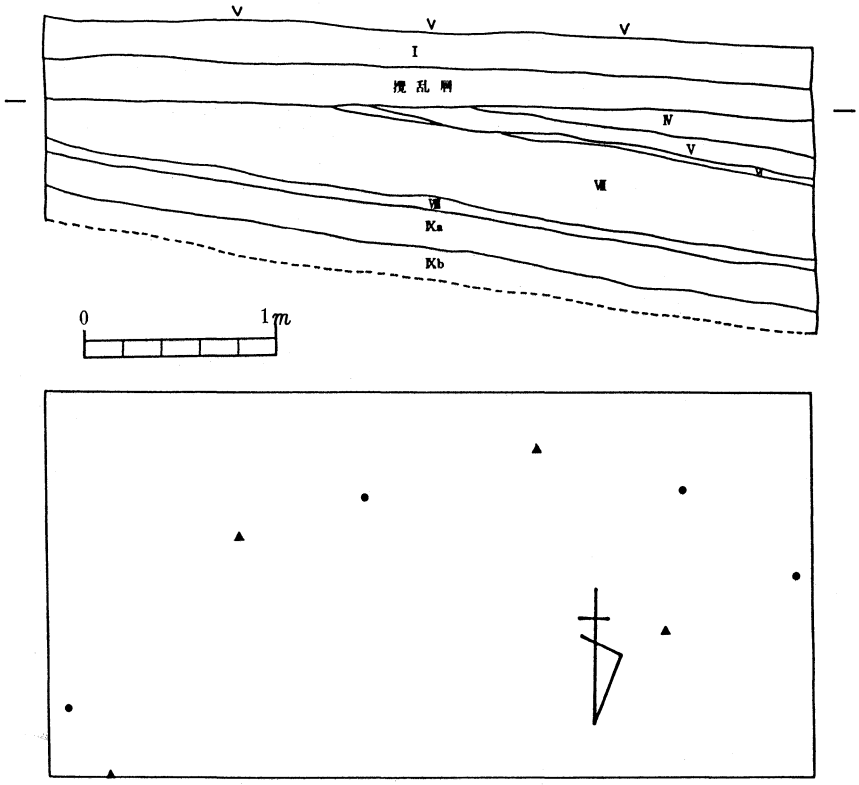
Ⅵ層　暗褐色土層。トレンチ東側で削平されている。層厚約4*cm*と薄い。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。この面で削平が行われている。層厚約40*cm*と厚い。赤ホヤ層である。

Ⅷ層　茶褐色粘質土層。5*cm*前後の層厚である。

Ⅸa層　黒褐色土層。粘質の土層で約20*cm*の層厚である。

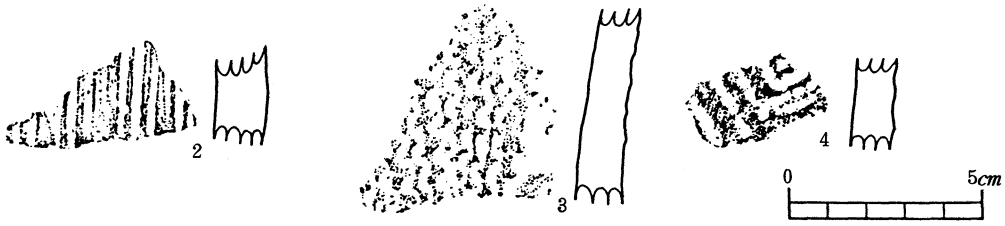
Ⅸb層　暗褐色土層。粘質土層で以下，シラス層となる。




第42図　第2トレンチ土層図・平面図

## 2. 土　器（第43図・図版17）

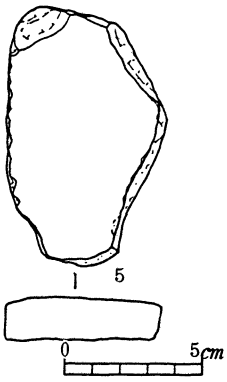
土器は3点出土した。いずれも少片である。2はⅢ層出土で黒褐色を呈し器面には貝殻腹縁による条痕が縦位に施されている。砂粒含み器厚約1.4*cm*と厚い。3は茶褐色を呈し器面には貝殻腹縁による刺突連続文がある。胎土に雲母を含む。Ⅰ層出土である。4はⅤ層出土で，茶褐色を呈し，貝殻腹縁による押引き文を施す。胎土に雲母を含むものである。




第43図　第２トレンチ出土土器

### 3　石器（第44図・図版17）

石器は１点出土した。５はⅧ層中より出土したもので，扁平な砂岩を利用したもので，側面は敲打によりわずかに調整している。表面に研磨痕が観察されることから砥石が考えられる。




第44図　第２トレンチ出土石器

## Ⅳ　第３トレンチ

第３トレンチは本遺跡のほぼ中央部に位置し，標高約108.3*m*を測る。このトレンチは耕作土がⅠa～Ⅰcの３層に区分できるが，これは開墾時の造成の結果である。Ⅲ層上面でピット６個が検出されたために，この面で中止し，下層の掘下げは行わなかった。

### 1. 遺　構（第45図・図版15）

ピットがトレンチのほぼ中央部に６個検出された。

Ｐ－１は17*cm*×20*cm*，Ｐ－２は15*cm*×15*cm*，Ｐ－３は15*cm*×14*cm*，Ｐ－４は12*cm*×15*cm*，Ｐ－５は12*cm*×11*cm*，Ｐ－６は10*cm*×10*cm*の径を測るもので，Ｐ－１～Ｐ－３，Ｐ－４～Ｐ－６はほぼ東西に平行であるが，各ピット間の距離は不揃いである。

### 2. 土　層（第45図）

Ⅰa層　耕作土

Ⅰb層　造成土。畑地開墾時において，重機による造成を行っている。その時の土である。

Ⅰc層　灰白色土層。灰白色を呈するもので，大正時代の桜島噴火による火山灰である。

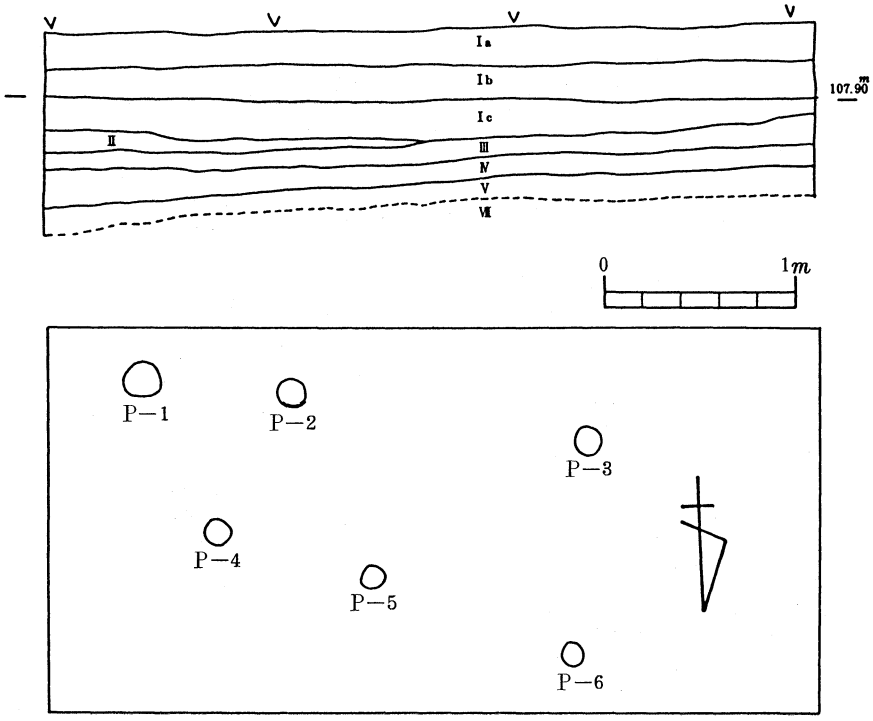
Ⅱ層　黒色土層。若干やわらかく，粘性は少ない。10*cm*前後堆積するがトレンチ中央部付近で消滅する。

Ⅲ層　黒色土層。Ⅱ層よりやや硬く，わずかに粘質を帯びている。上層中には御池パミスと呼ばれるものが混在する。層厚10*cm*前後である。

Ⅳ層　黒色土層

Ⅴ層　黒色土層。土層中には径１～10*mm*程度の黄白色軽石が多く混在している。これは池田降下軽石と呼ばれているものである。本トレンチでは顕著である。

Ⅶ層　黄褐色パミス層　通称赤ホヤ層と呼ばれているものである。本トレンチではピットが検出されたため，この層の上面で掘下げを中止した。従って層の堆積状況は不明である。




第45図　第３トレンチ土層図・平面図

## Ⅴ　第４トレンチ

第４トレンチは本遺跡の中央やや南よりの地点で，台地基部より約30$m$，開析谷よりで，このトレンチも２$m$×４$m$とした。層序はほぼ水平である。出土遺物はⅡ層中より自然石，Ⅺ層より頁岩，黒耀石の剥片が出土したのみで，土器は出土しなかった。

### 1. 土　層（第46図・図版15）

Ⅰ層　耕作土

Ⅱ層　黒色土層。層厚約８$cm$と薄い。

Ⅲ層　黒色土層。黄色の御池パミスが混在する層で約15$cm$を測る。

Ⅳ層　黒色土層。粘質ぎみで約15$cm$を測る。

Ⅴ層　黒色土層。池田降下軽石が点在する。約10$cm$前後を測るが，約５$cm$の部分もある。

Ⅵ層　暗褐色土層。粘質ぎみで，約５$cm$と薄いがトレンチ中央部に落込み状のものがある。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。アカホヤ層で，他のトレンチ同様約40$cm$と厚く堆積する。

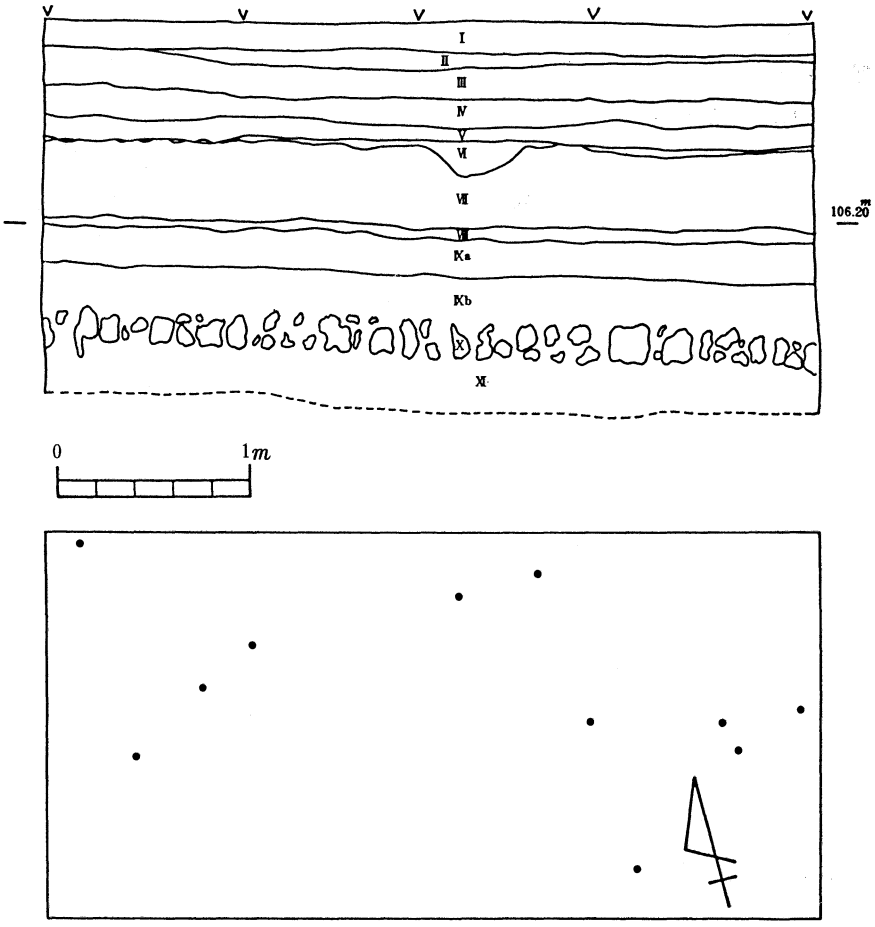
Ⅷ層　茶褐色土層。粘質ぎみの層で約５$cm$と薄い。

Ⅸa層　黒褐色土層。粘質土層で約20$cm$を測る。

Ⅸb層　暗褐色土層。粘質土層で，下位はⅩ層のブロック状の堆積に影響されている。

Ⅹ層　黄褐色パミス層。通称サツマといわれる桜島起源のパミスでブロック状にはいる。

Ⅺ層　茶褐色粘質土層。通称チョコ層と呼ばれるもの。

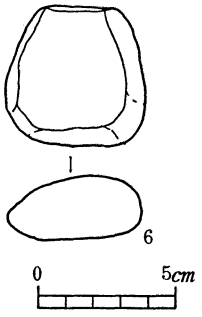



第46図　第４トレンチ土層図・平面図

## 2. 石　器（第47図・図版17，18）

石器と判明したものは出土しなかったが，Ⅱ層中に，台形状を呈した砂岩が出土した。６がそれである。加工痕，使用痕も観察されないところから自然石であろう。

図版１８にかかげたものはⅨ層中より出土した。頁岩及び黒曜石の剥片である。第46図の遺物分布がこれである。黒曜石片は１点のみで他は全て頁岩である。細片が多く，二次加工及び使用痕は認められない。頁岩製のなかには，切断を施したと思われるものもあるが，数量が少ないため確証は得られない。旧石器文化の遺物であることは出土層の関係から推定できるが，明確な石器が検出されていない。遺物の分布はユニットの縁辺と思われ，中心部は近くに存在すると思われる。




第47図　第４トレンチ出土石器

## Ⅵ 第5トレンチ

第5トレンチは本遺跡の南側に設定するもので，トレンチは2m×4mとした。

### 1. 遺 構（第48図）

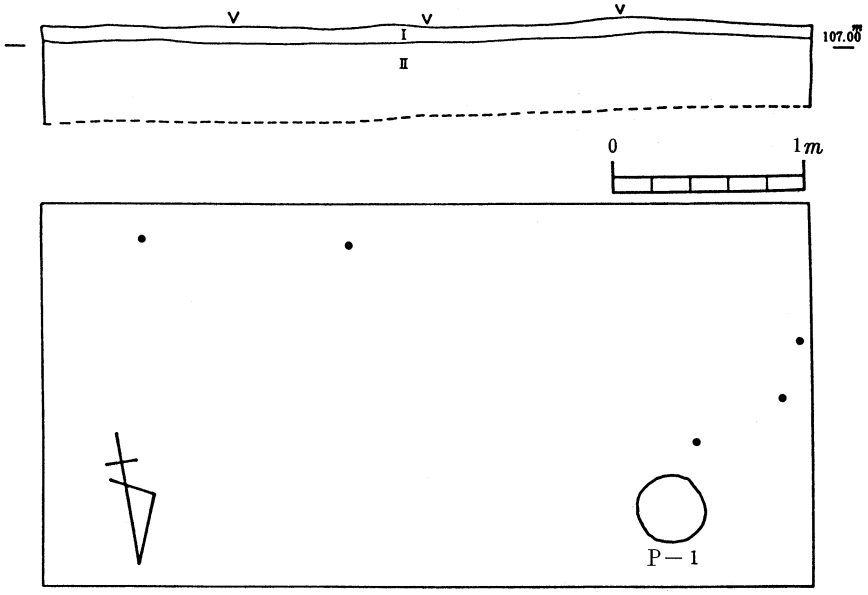
トレンチ北西隅に径35cm×35cmのピット1個が検出されただけである。

### 2. 土 層（第48図）

ピットが検出されたために，以下の層は掘り下げなかった。

Ⅰ層　耕作土

Ⅱ層　黒色土層。約40cmを測りほぼ水平に堆積している。



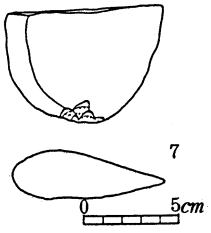

第48図　第5トレンチ土層図・平面図

### 3. 石 器（第49図・図版18）

石器1点と，若干の礫が出土した。

7はⅡ層中に出土したものである。

やや扁平な砂岩を利用したものである。側面は敲打による剥離面が見られる。半欠であるが，この部分もわずかに摩耗し稜を失っている。




第49図　第5トレンチ出土石器

## Ⅶ 第6トレンチ

第6トレンチは本遺跡の最南端に位置する。この地点は東及び南側の台地の接点部分であること，従って平坦面が狭くなる所等地理的条件を考慮して，2m×10mのトレンチとした。

土器は耕作土層及びⅡ層中に各1点，石器はⅡ層中より敲石と剥片が出土した。

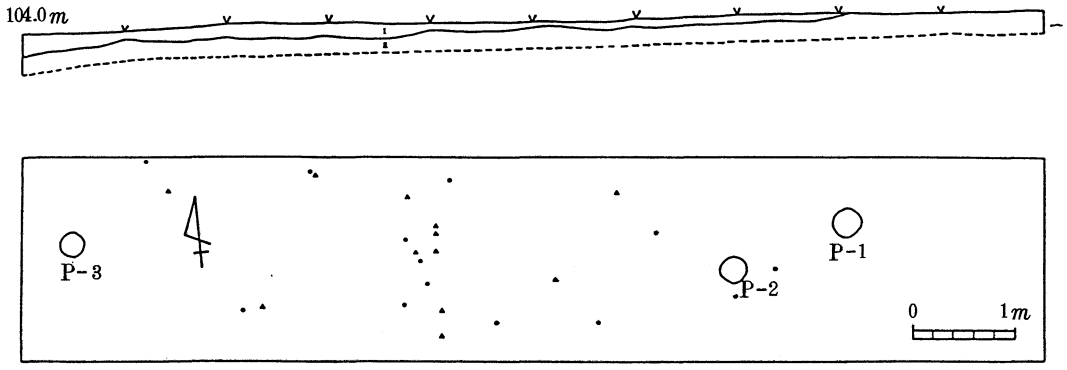
**1. 遺　構**（第50図・図版16）

Ⅱ層下面で西側に２個，東側に１個のピットが検出された。Ｐ－１は径30cm×29cm，Ｐ－２は25cm×25cm，Ｐ－３は24cm×23cmを測る。

**2. 土　層**（第50図）

Ⅰ層　耕作土

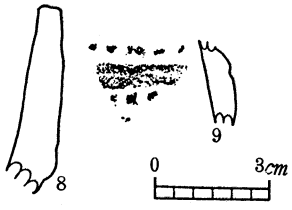
Ⅱ層　黒色土層。わずかに御池パミスを含むもので粘性はない。



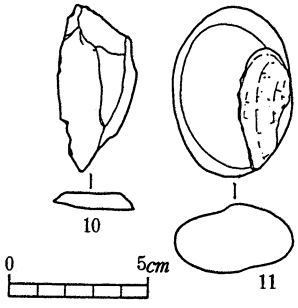

第50図　第６トレンチ土層図・平面図

**3. 土　器**（第51図・図版18）

８は口唇部が平坦で口縁部がわずかに内彎気味の土器で，色調は器外面が茶褐色，内面が黒色を呈するものである。胴部以下が欠落しているが，器形等から縄文時代晩期の鉢形土器と考えられる。この種の土器の胴部下位には蓆目圧痕が付くものがある。この土器もかすかに観察できる。９は乳白色を呈するもので，器面にはヘラ状工具で沈線を施し，突帯状のものに刻目をつけるものである。




第51図　第６トレンチ出土土器




第52図　第６トレンチ出土石器

**4. 石　器**（第52図・図版18）

10は粘板岩の自然剥離片である。

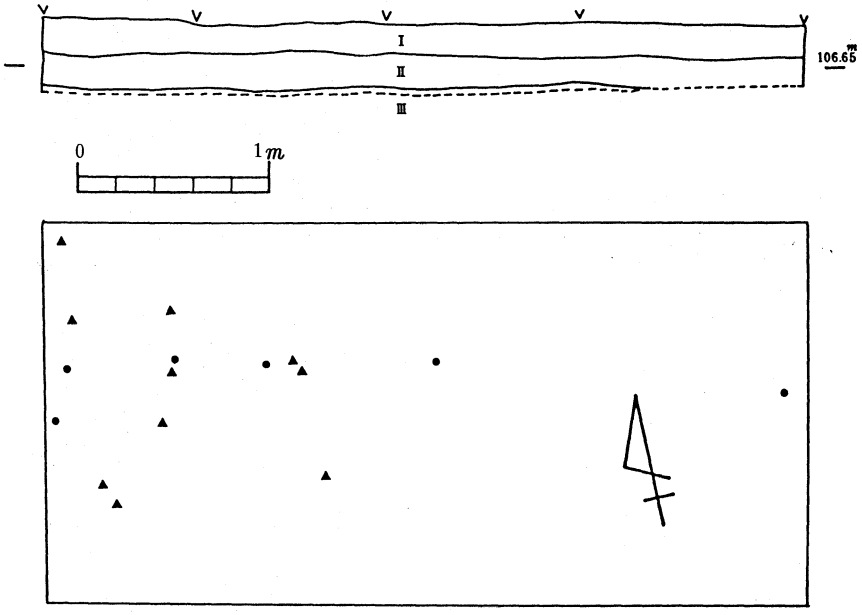
11は砂岩の敲石である。楕円形をしたこの敲石の両端部には敲打痕がみられ，中央から側面にかけて剥離があるが，使用時のものかどうかは不明である。

## Ⅷ 第7トレンチ

第7トレンチは段丘状となった平坦な台地の縁辺部である。

このトレンチの東側は傾斜面となり開析谷及び前川へと続くものである。また本遺跡全体からいえばやや南よりの東端といえよう。

調査の結果，少片の土器片と礫が西側に集中して出土した。




第53図　第7トレンチ土層図・平面図

### 1. 土　層（第53図）

土層はⅠ～Ⅲ層まで確認した。Ⅱ層面で土器片等が出土したため下層確認は中止した。

Ⅰ層　耕作土

Ⅱ層　黒色土層。わずかに黄色の御池パミスを含むもので層厚約15cmを測る。

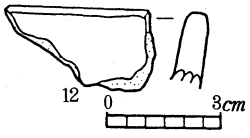
Ⅲ層　黒色土層。黄色の御池パミスが混在する層である。

### 2. 土　器（第54図・図版18）

小片が数点出土したが，図化できたのは1点である。

12は平坦な口唇部をもつ深鉢形土器の口縁部で，内外面とも黒色を呈し，ヘラ磨きがなされている。

胎土はわずかに砂粒を含み，焼成は良好である。縄文時代晩期に該当する土器である。




第54図　第7トレンチ出土土器

## Ⅸ 第8トレンチ

第8トレンチは本遺跡トレンチ配置では，南東部，台地末端部に位置する。開析谷への傾斜面へは約30$m$である。標高は約106.4$m$を測る。

当初2$m$×2$m$のトレンチを設定したが，台地先端部にかけて，Ⅱ層及びⅢ層面で，土器片石片，黒耀石及びチャートのチップ，炭化した木の実等が出土したために，東側に2$m$，北側へ2$m$，南へ1$m$と拡張した。

また土層確認のため南側断面を50$cm$幅でⅤ層まで掘り下げた。

### 1. 土 層（第55図）

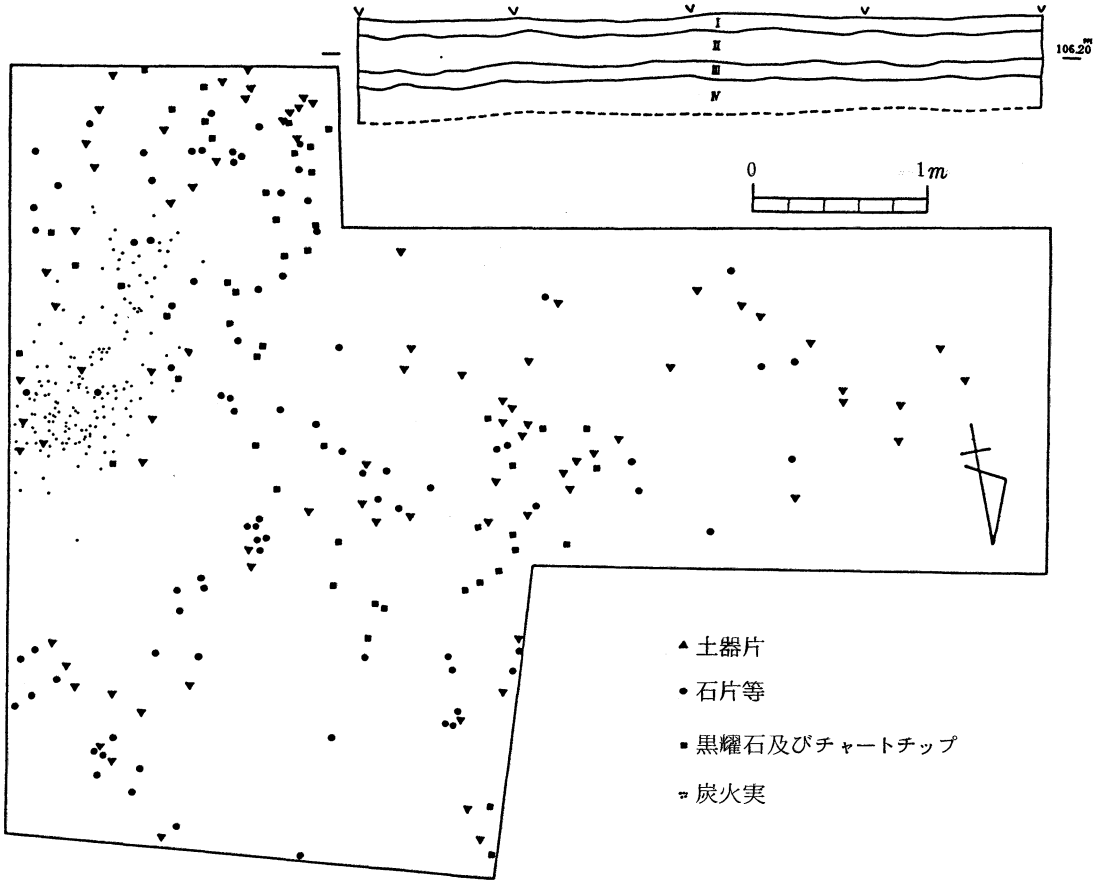
層序は各層がほぼ水平に堆積するが，各トレンチに比較してやや薄い感じを受ける。

Ⅰ層　耕作土

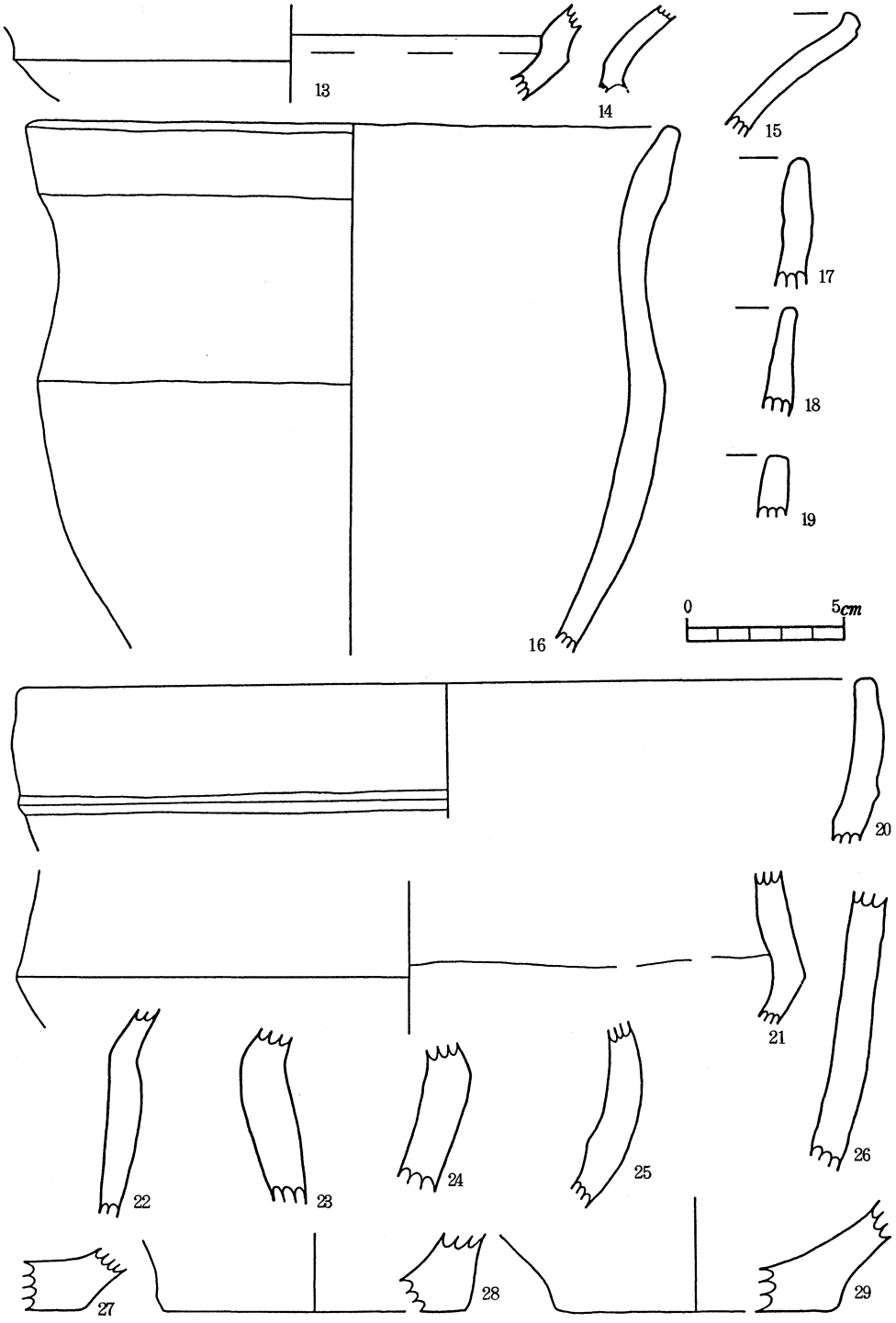
Ⅱ層　黒色土層。層厚20$cm$を測り，ほぼ同一の厚さで堆積する。

Ⅲ層　黒色土層。黄色の御池パミスが混在する層で約10$cm$の厚さを測る。

Ⅵ層　黒色土層。やや粘質気味である。掘下げ面まで20$cm$前後の厚さである。




第55図　第8トレンチ土層図・平面図




第56図　第８トレンチ出土土器

## 2. 土　器（第56図・図版19，20）

土器は拡張区も含めて，Ⅱ層およびⅢ層中から出土し，出土分布もまんべんなく出土した。

13は小片のため全体の形状は不明であるが，浅鉢形土器である。内外面とも茶褐色を呈し，ヘラ研磨がみられる。胎土はわずかに砂粒を含むが焼成は良い。14も同様の土器片である。肩部で粘土の継目があったとみえ，この部分で剥離している。15は口縁部が内彎するもので，内外面とも黒色の色調を呈し，横位のヘラ研磨である。胎土はわずかに砂粒を含むものの焼成は良い，薄手の浅鉢形土器である。

16は本遺跡中，最も大形の土器片である。Ⅲ層中に横位に出土したが，上面は耕作のため，ほぼ半分ほど失なわれていた。

復元口径20.8*cm*を測るもので底部も失なわれている。外反した口辺部は口縁部で，やや外傾して立上る。このため幅約3*cm*でわずかな，にぶい稜をもつ。この口縁部には沈線等は施されていない。口唇部はヘラにより平坦に仕上げる。胴部の最大幅は口縁部径とほぼ一致する。稜線はくずれてにぶくなる。色調は茶褐色を呈し，器外面はヘラ研磨がみられる。また，口縁部から胴部にかけて媒が付着する。胎土はわずかに砂粒を含み焼成はやや粗い。

17は平坦な口唇部をもつ口縁部片で，色調は茶褐色を呈し，ヘラ磨きである。胎土には雲母を含む。18，19も同様である。20は口縁部下に一条の突帯状の稜が付くものである。ヘラ研磨が内外面とも見られるなか剥落している。胎土に雲母を含む。復元口径27*cm*を測る。

21は粗製の深鉢形土器片である。内外とも茶褐色を呈し，胎土はわずかに砂粒を含み，やや粗く焼上がる。22も21同様の土器片である。

23は茶褐色を呈し，外面はヘラにより研磨されている。

24は内外とも著しく剥落した土器片で，胎土も砂粒を多く含み，焼成も粗い。

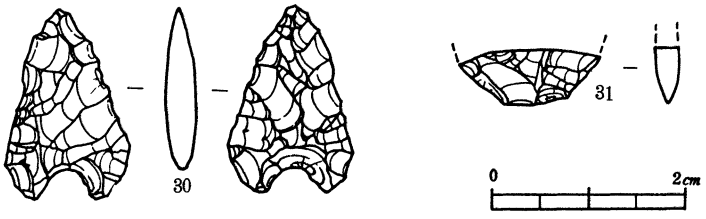
25は口縁部の土器片である。外反するもので色調は茶褐色を呈し，粗製土器である。26は胴部片である。内外とも黒色ないし黒褐色を呈し，胎土に多く雲母を含むものである。

27～28は土器底部である。底部端はわずかに張り出し，内面は傾になって底面に至る。

## 3. 石　器（第57，58図・図版19，20）

30はⅢ層に出土したもので，気泡の少ない良質の黒曜石を用いた抉が深く丸い脚の石鏃である。

31はⅢ層出土で，片面調整剥離のあるチャート製の剥片である。



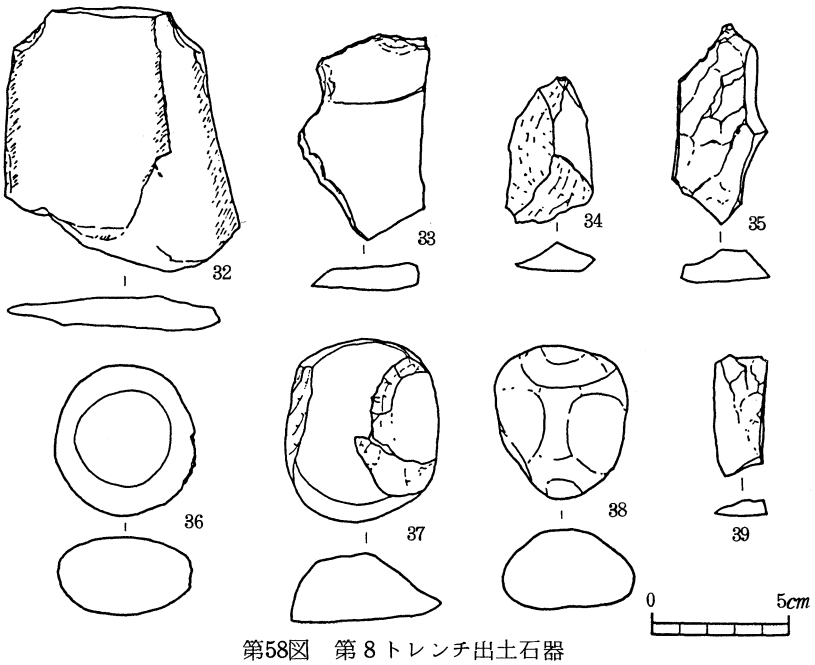

第57図　第8トレンチ出土石器

32は粘板岩の剥片を用い，両縁を研磨している。用途は不明。33，34，35は玄武岩製の石斧片である。36は砂岩の円礫を用いた敲石で側縁に敲打痕がある。

37も36同様の敲石で全周縁に敲打痕がある。また，敲打による剥離作用が見られる。

38も同様である。

39は玄武岩の打製石斧片である。




第58図　第８トレンチ出土石器

## X　第９トレンチ

第９トレンチは台地中央部から窪地となるあたりで，標高約 110 *m* を測る位置である。

### 1. 土　層（第59図）

土層は西側の台地間の窪地，谷頭に向けて傾斜している。

Ⅰ層　耕作土

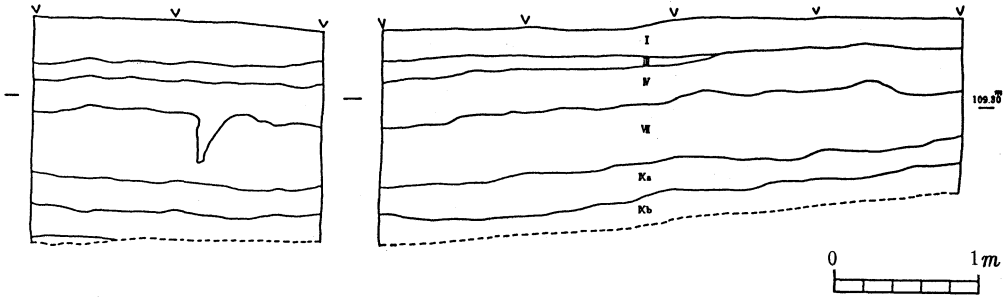
Ⅲ層　黒色土層。黄色の御池パミスをわずかに含む。トレンチ中央から東側は消滅する。

Ⅳ層　黒色土層。粘質気味で黒色が強い。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。アカホヤ層で約40*cm*と厚いのは各トレンチと同様である。

Ⅸa層　黒褐色土層。粘質土層で約20*cm*の層厚である。

Ⅸb層　暗褐色土層。粘質土層で西にいくに従って厚く堆積する。




第59図　第９トレンチ土層図

## ま と め

八郎ケ野A遺跡は，前川によって形成された開析谷と，前川の右岸，東側に沿って開けた段丘状の細長い平坦地に位置する。

発掘調査は，この地形及び遺跡の性格，範囲確認という所期の目的と考慮して設定し，調査を続行した。

調査の結果，第3・5・6トレンチには数個のピットが検出された。このピットはⅢ層面で確認でき，しかも共伴遺物としての土器は縄文時代晩期の土器であることから，この期の遺構と考えられる。同様に第8トレンチでは，他のトレンチに比較して多数の土器とともに炭化した堅果類と思われる木の実も多量に出土した。このトレンチの出土遺物も縄文時代晩期の時期のものであることから，本遺跡においては第3トレンチから第6トレンチにかけた一帯は縄文時代晩期の遺跡が包蔵されていることが判明した。

下層については，Ⅲ層面で遺構，遺物の出土したトレンチは，下層の確認を行わなかったために，狭い面積での確認となった。

それでも，第4トレンチにおいては，Ⅺ層中より黒曜石，チャートの剥片が出土した。

このことはⅪ層は基本土層で記述したようにⅩ層の桜島噴出源といわれるパミス層直下であること等から，少なくとも約9千年以前の土層である。従って旧石器時代の遺物である。

また，表面採集や，攪乱層中より縄文式土器片も若干みられる。

これ等のことから，本遺跡は旧石器時代より縄文時代にかけて，各時代が複合する遺跡である。地形的にも北から西にかけて比高差約10$m$の丘陵を背にした東面するもので，好適な場所である。

# 八郎ヶ野B遺跡

第60図　八郎ケ野B遺跡トレンチ配置図

## Ⅰ　調査の概要　（第60図・図版21，22，23）

八郎ケ野Ｂ遺跡は前川の上流の通称池野台地に所在するが，八郎ケ野Ａ遺跡の平坦面の南及び西の背面の台地である。

この台地は北から南及び西に伸びる標高約 120 $m$ を測るものであるが，細かくみると第４トレンチの北側を最頂部とし，この最頂部より南東にかけては舌状台地となり第５，11トレンチ付近で傾斜面をもって前川の開析谷へと連なる。

北側はほぼ同じ標高をもって北へ伸び，井手平遺跡に続いている。そしてこのラインはゆるやかであるか一種の尾根状を呈する。

現在使用されている道路はこの尾根づたいにたどり，再び山裾を巡ることとなる。

また北西方向はなだらかな傾斜面となり，谷頂上の窪地に続く。この方向の延長は再び丘陵となり池野遺跡に続くのである。

南西方向は第８トレンチ付近を最頂部として，南東方向同様に傾斜面をもって開析谷及び前川に連なっている。

このように各方向とも個別の地形をしているために，あるいはまた各個人で重機を投入して傾斜面を平坦にし畑地を拓いたこともあって，各トレンチは地形と，削平のない場所や，削平の少ない地点を選択して設定した。

すなわち第１トレンチは台地の裾部で，八郎ケ野Ａ地点との隣接ということで設定し，第３，４トレンチは台地の頂上部，第２・11・12トレンチは台地の傾斜面で，畑地とされていない場所を選んだ。同様にして，第５・９・10トレンチは台地の傾斜面でも下位の部分である。

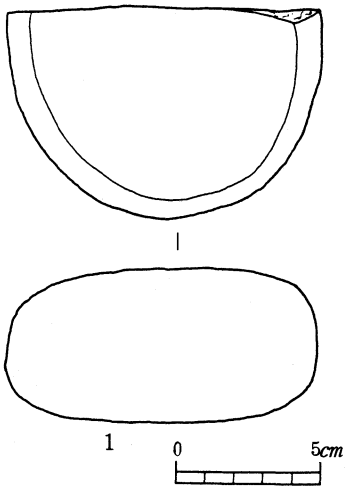
また第８トレンチは台地の頂上部，第６トレンチは緩傾斜地，第７トレンチも第６トレンチと同様な考え方で設定した。

そして各トレンチは２$m$×４$m$を基本とし長軸を地形に沿っていることとし，順次上層より下層に掘り下げた。遺構と思われるものや土器等の遺物が出土した場合は，今回の発掘調査の主旨にのっとり，できるだけ検出面で確認調査は中止することとした。

発掘調査については各トレンチ毎に順を追って記述することとするが，概括すると第３・４トレンチにピットが検出されたほか，出土遺物が比較的多かったのはやはり第３・４トレンチであった。

なお，第61図・図版24に図示した遺物は表面採集で得た資である。

１は砂岩製の磨石で表裏，周縁ともよく研磨されている。半分は欠損しているが，使用中によるものかどうかは不明である。




第61図　八郎ケ野Ｂ遺跡採集石器

## Ⅱ 第1トレンチ

第1トレンチは標高100～120$m$の台地が東側に突出し，前川の支流によって形成された小開析谷の縁辺部に位置する。またこの地点は八郎ケ野A遺跡の南端に隣接するところである。

出土遺構，遺物は何ら出土しなかった。

### 1. 土 層（第62図）

各土層とも地形と同様東側へ傾斜し，Ⅴ・Ⅶ層は確認できなかった。

Ⅰ層　耕作土

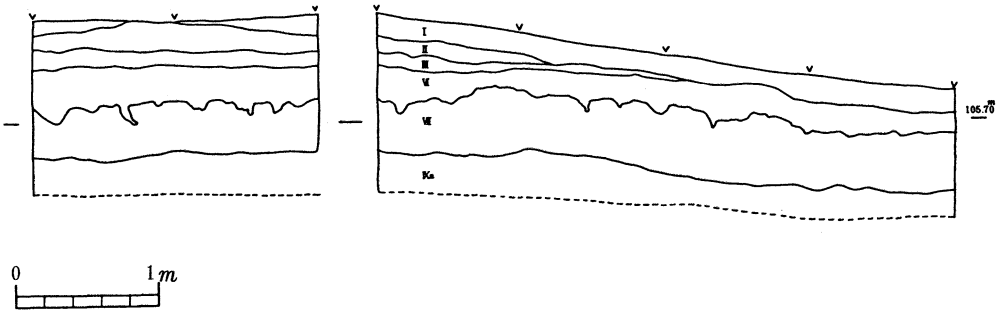
Ⅱ層　黒色土層。トレンチ西側で消滅する。

Ⅲ層　黒色土層。黄色の御池パミスが混在する層であるが東側斜面で消滅する。

Ⅵ層　暗褐色土層。粘質気味で，下位は不安定となり凸凹が著しい。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。アカホヤ層で約40$cm$内外の層厚を示す。

Ⅸa層　黒褐色土層。粘質気味で，やはり東側，傾斜面へ向けて傾斜する。




第62図　第1トレンチ土層図

## Ⅲ 第2トレンチ

第2トレンチは台地上端部に位置する。このトレンチの北側畑地はすでに重機により削平されて現形をとどめていない。その畑地の崖面に礫が確認されたため，隣接してトレンチを設定することとした。この地は現況山林であり，自然地形も現存している地点である。

しかし，発掘調査の結果は，遺構，遺物等何ら出土しなかった。

## Ⅳ 第3トレンチ

第3トレンチは台地上面の標高約116$m$の畑地で，第4トレンチと同一畑である。この畑は北側の畑界から重機により低地へ引ならされているが，3・4トレンチとも下層まで達していないと判断し，トレンチを設定した。

トレンチは2$m$×4$m$とし，長軸を南北とし地形に沿った形とした。

### 1. 土 層（第63図）

各層とも南側へわずかに傾斜し，Ⅱ層およびⅢ層の一部はすでに削平されていた。

Ⅰa層　耕作土

Ib層　耕作土。

Ⅲ層　黒色土層。トレンチの北側部分は削平されている。

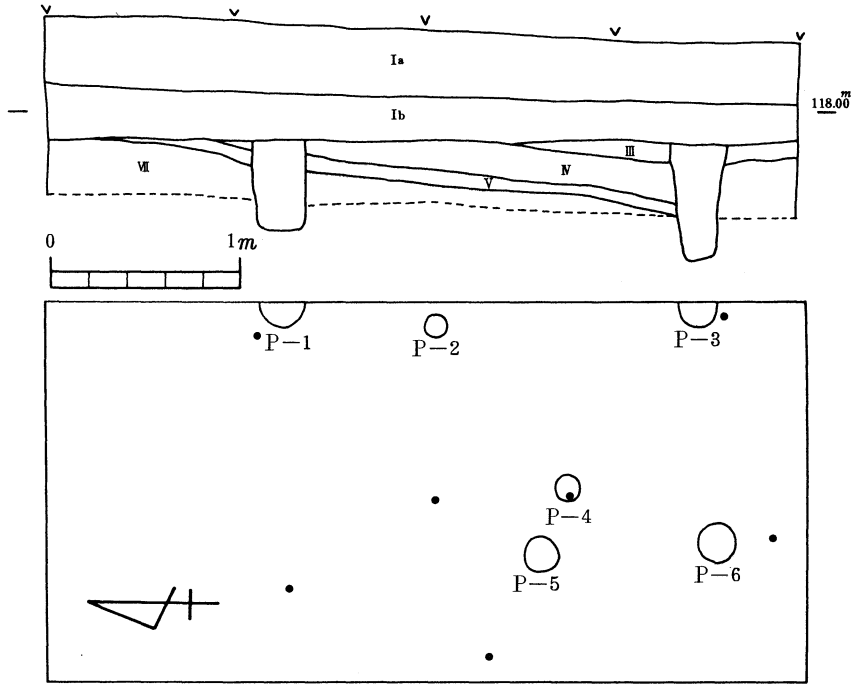
Ⅳ層　黒色土層。Ⅲ層同様削平されているが，南に向かってやや厚く堆積する。

Ⅴ層　黒色土層。層厚約5*cm*と薄い層である。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。赤ホヤ層であるが遺物等が出土したためこの上面で掘下げを中止。

## 2. 遺　構（第63図）

遺構と考えられるものに6個のピットがⅢ～Ⅳ層面で検出されたが，規模，性格等は不明である。ピットは径24*cm*から10*cm*と大小あるが各ピットを有機的に結びつけることはできなかった。



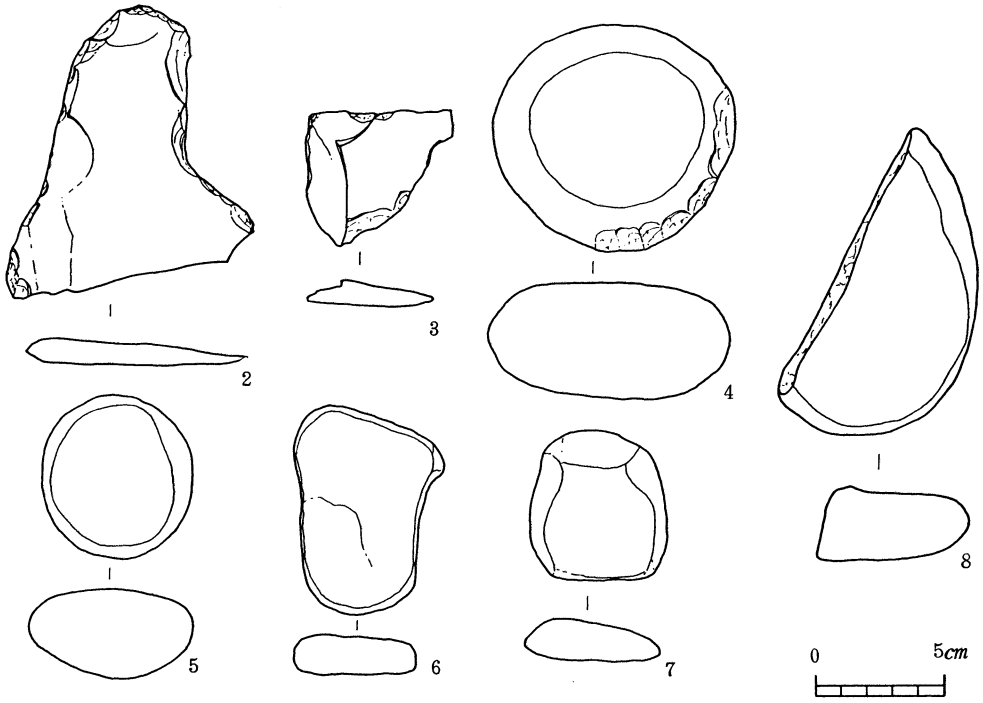

第63図　第3トレンチ土層図・平面図

## 3. 石　器（第64図・図版23）

石器及び礫等が出土した。すべてⅢ層中出土である。

このうち2は玄武岩を用いたもので周縁部を調整し肩部にわずかの抉りを作る有肩石斧である。3は玄武岩で剥離面をもつ剥片である。形態は不明。4は砂岩の敲石で周縁部に敲打痕がみられる。5は砂岩の円礫を用いた敲石で周縁部に敲打痕がみられる。

6・7は砂岩の自然礫と考えられる。8は頁岩製のもので半欠である。周縁部には何らの使用痕，加工痕も見られぬため自然礫の可能性もある。

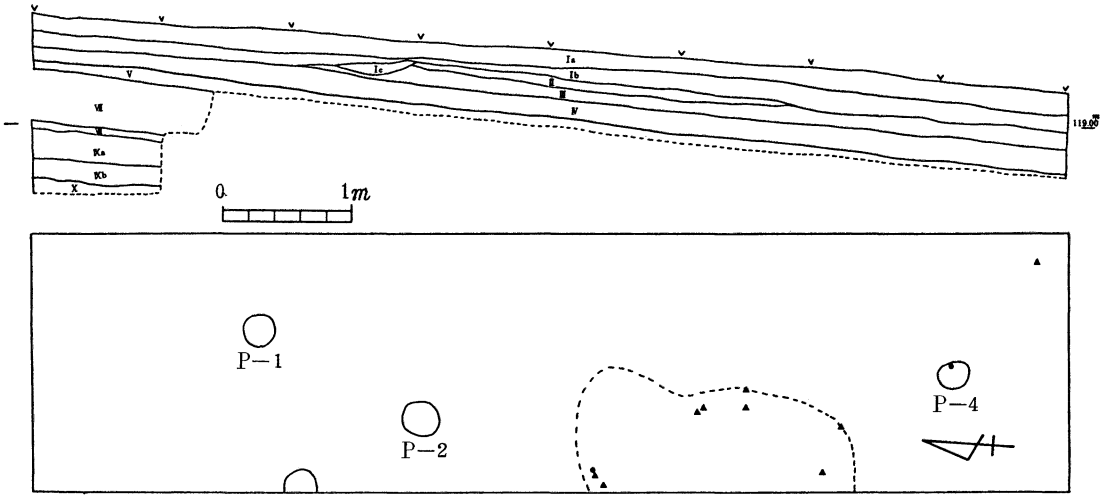



第64図　第３トレンチ出土土器

## V　第４トレンチ

第４トレンチは台地頂上部に位置し，第３トレンチと同一畑地である。

第３トレンチでも記述したように北側は一部削平し南側へ引ならしているところである。発掘調査の結果Ⅲ層面でピットと集石が検出されたものである。なお下層確認のため北側の一部をⅩ層まで掘下げた。




第65図　第４トレンチ土層図・平面図

## 1. 土　層（第65図）

このトレンチの土層も現地形のように南側へわずかに傾斜する。そして各層とも比較的薄く堆積するが，これは台地頂上付近という地形上の影響が考えられる。

Ⅰa層　耕作土。

Ⅰb層　耕作土。

Ⅰc層　耕作土。

Ⅱ層　黒色土層。

Ⅲ層　黒色土層。黄色の御池パミスがわずかに混る。

Ⅳ層　黒色土層。粘質気味である。約15cmほど堆積する。

Ⅴ層　黒色土層。池田降下軽石がわずかに含まれている。層厚約10cmである。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。赤ホヤ層であるが，流入・流出等によりやや暗い色調を呈する。

Ⅷ層　茶褐色土層。約5cmと薄い堆積である。

Ⅸa層　黒褐色土層。粘質土である。

Ⅸb層　暗褐色土層。粘質土である。

Ⅹ層　黄褐色パミス層。パミスがブロック状に堆積するが，薄い。

## 2. 遺　構（第65図）

遺構としてはⅣ層面においてピット4個と，Ⅲ層中に拳大ほどの礫を集石しているものが検出された。

このうちピットはトレンチ内で4個検出された。検出されたピットのうちのそれぞれの径はP－1が25cm×25cm，P－2が27cm×30cm，P－3が25cm×　cm，P－4が20cm×23cmである。トレンチ内での各ピットの結びつきは不明である。P－4の壁には土器の小片が埋土中より出土した。集石と思えるものはトレンチの南西面で，約半分はトレンチ外へと拡大する。トレンチ内では南北2m，東西80cmの範囲内に拳大から小礫までが集石されていた。

## 3. 土　器（第66図・図版24）

Ⅲ層中より出土したもので，底部端がややはみ出すものであるが小片のため形状は不明である。色調は茶褐色を呈し，胎土は砂粒を含み焼成も粗い。

## 4. 石　器（第67図・図版24）

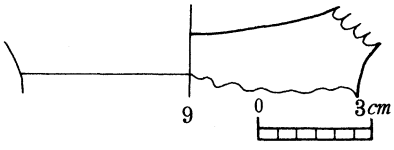
石器は3点出土し，いずれもⅢ層中からである。

10は砂岩を用いた厚さ5cm，幅12cm，長さは両端を欠いているので現存表24cmを測る板状のもので，表裏とも研磨がみられるところから石皿の可能性がある。

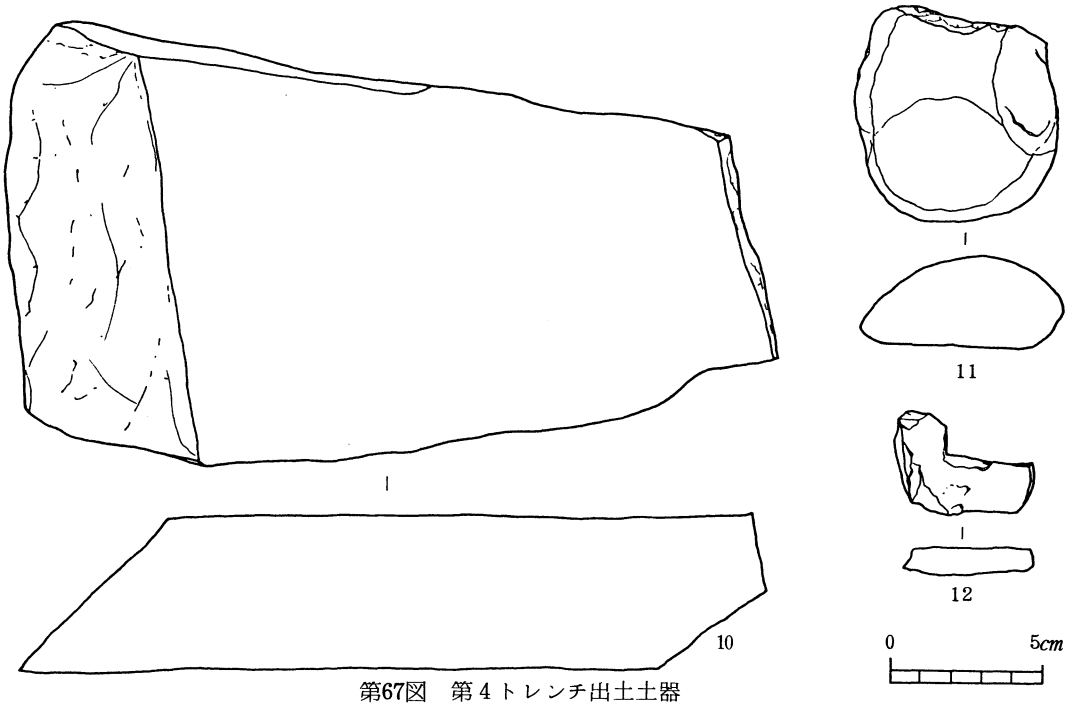
これはトレンチ南側の中央部に立位で出土した。

11は砂岩の自然礫を用いた敲石で，周縁部には敲打痕がみられる。一端は欠損している。

12は安山岩を用いた石斧の刀部である。




第66図　第4トレンチ出土土器




第67図　第４トレンチ出土土器

## Ⅵ　第５トレンチ

第５トレンチは台地が開析谷を望む先端の地で，北側は畑地のため一部開削されたところである。台地先端部における遺跡の有無，範囲確認のため設定したトレンチである。

### 1. 土　層（第71図）

台地縁辺部のため耕作土層は厚く堆積し，また下層の層序も南側斜面に大きく傾斜する。

Ⅰ層　耕作土。約45cmと厚く堆積し，略水平である。

Ⅱ層　黒色土層。トレンチ北側で消滅するが南側へ厚くなる。

Ⅲ層　黒色土層。南側で消滅するものである。

Ⅳ層　黒色土層。下層の界は若干の乱れがある。

Ⅶ層　黄色パミス層。層厚約20cmを測る。

Ⅸa層　黒褐色土層。

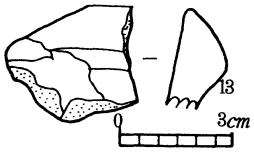
Ⅸb層　暗褐色土層。

### 2. 土　器（第68図）

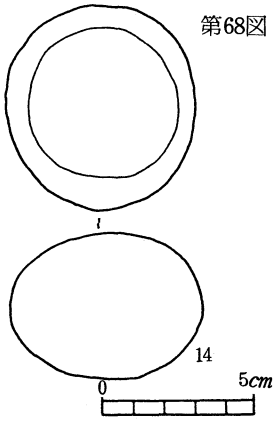
13はⅠ層より出土したもので，口縁部か断面三角形を呈する。色調は茶褐色である。

### 3. 石　器（第69，70図・図版24）

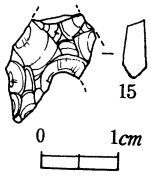
14は砂岩の敲石で，周縁部に敲打痕が認められる。15は一部が欠損しているが抉りの深い石鏃である。灰色の黒耀石製で一見すると姫島産に類似する。



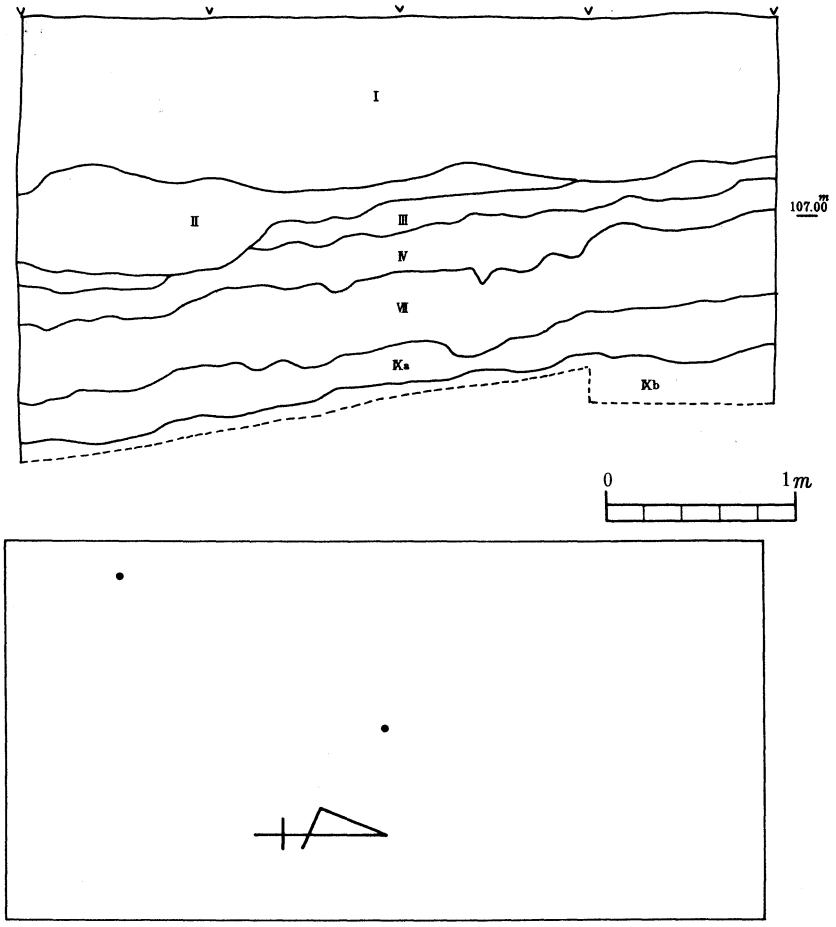

第68図　第５トレンチ出土土器




第69図　第５トレンチ出土石器




第70図　第５トレンチ出土石器




第71図　第５トレンチ土層図・平面図

## Ⅶ　第６トレンチ

第６トレンチは台地頂上部の平坦面で，このトレンチの畑を境に，西側へ傾斜していく地形である。調査の結果，上層は畑地開削時に引ならされており，各土層が混在していた。

従って生きている層は第Ⅲ層からである。遺構，遺物は出土しなかった。

### 1. 土　層（第72図）

地表面から約1.5$m$は畑地造成による埋土であり，Ⅲ層以下が生きた層である。

Ⅰ層　耕作土。

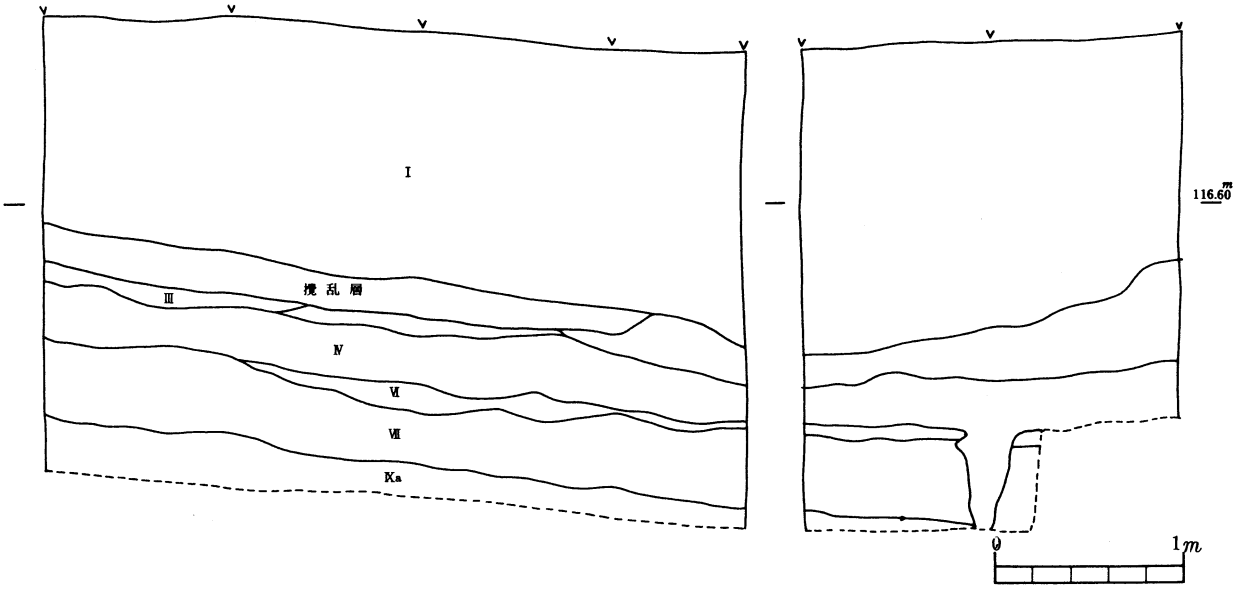
Ⅲ層　黒色土層。黄色の御池パミスがわずかに混じる。

Ⅳ層　黒色土層。約20$cm$～30$cm$と一定しない。

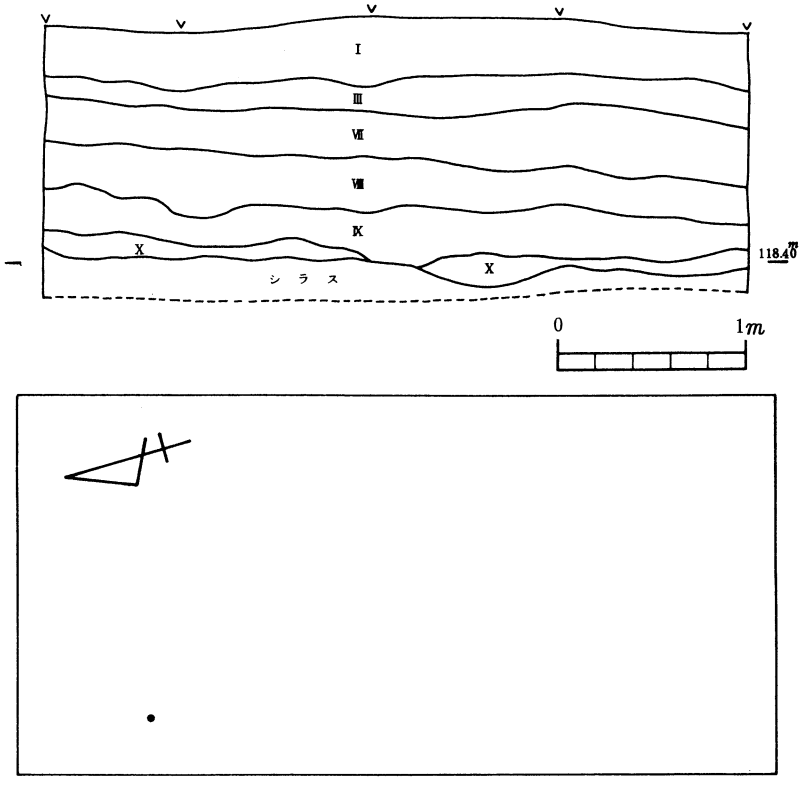
Ⅵ層　暗褐色土層。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。赤ホヤ層で約30$cm$前後の堆積を示している。

Ⅸa層　黒褐色土層。粘質土層である。




第72図　第６トレンチ土層図




第73図　第７トレンチ土層図・平面図

## Ⅷ 第7トレンチ

第7トレンチは本遺跡の北端に位置し，平坦な台地面である。

### 1. 土 層（第73図）

Ⅰ層　耕作土。耕作土であるが，造成土であるため各土層が混在する。

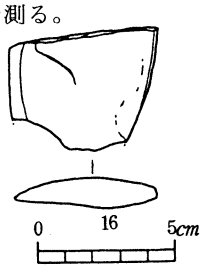
Ⅲ層　黒色土層。御池パミスと呼ばれるパミスが混在するもので層厚約10cmを測る。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。鬼界カルデラ起源のものといわれるパミス層である。

Ⅷ層　茶褐色粘質土層。硬い粘質土で層厚約30cmを測る。

Ⅸ層　黄褐色パミス層。桜島起源のものといわれるもので，ブロック状に堆積している。

以上が第7トレンチにおける層序であるが，基本土層からみると，Ⅲ層・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層等が消滅している。




第74図　第7トレンチ出土石器

### 2. 石 器（第74図・図版24）

16は玄武岩を用いた磨製石斧で基部は欠損する。両端は研磨による調製痕がみられる。

## Ⅸ 第8トレンチ

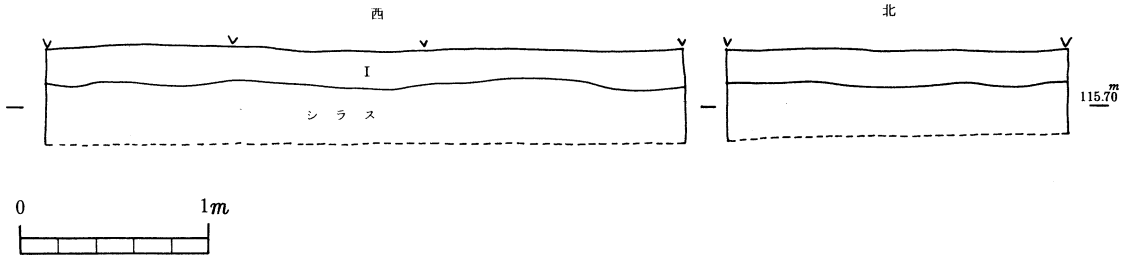
第8トレンチは標高約116mを測る台地の頂上部の畑地である。

発掘調査の結果Ⅰ層直下はシラスであった。畑地開削時の削平によるものである。

### 1. 土 層（第75図）

Ⅰ層　耕作土。

以下シラス層となる。




第75図　第8トレンチ土層図

## Ⅹ 第9トレンチ

第9トレンチは南面する台地の末端傾斜で第10トレンチの北側に位置する。

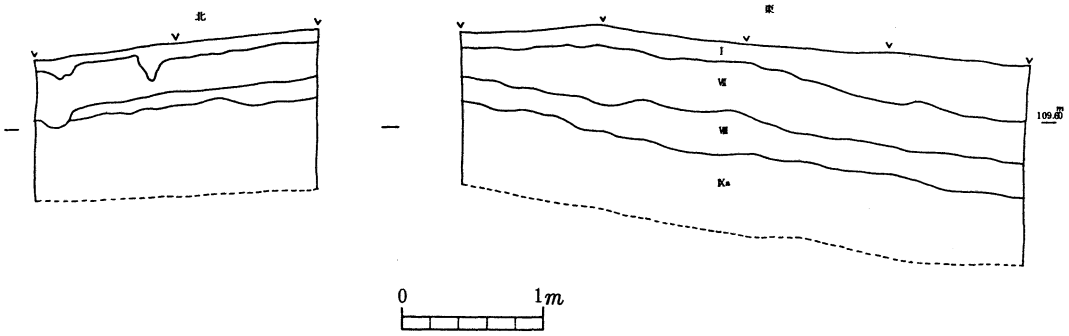
### 1. 土 層（第76図）

Ⅰ層　耕作土。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。層厚約35cmを測り南側の開析谷へ傾斜する。

Ⅷ層　黄褐色土層。

Ⅸa層　黒褐色土層。




第76図　第９トレンチ土層図

## XI　第10トレンチ

第10トレンチは第９トレンチの南側で，畑一枚の段差があるところの草地である。このトレンチも遺構・遺物の出土はなかった。

### 1. 土　層（第77図）

Ⅰ層　耕作土。

Ⅱ層　黒色土層。この層は10cm前後で不規則に堆積するがほぼ水平である。

Ⅲ層　黒色土層。約30cmの層原を呈し，略水平に堆積する。

Ⅳ層　黒色土層。北側で消滅するものの，南側に向かっては安定した堆積を示す。

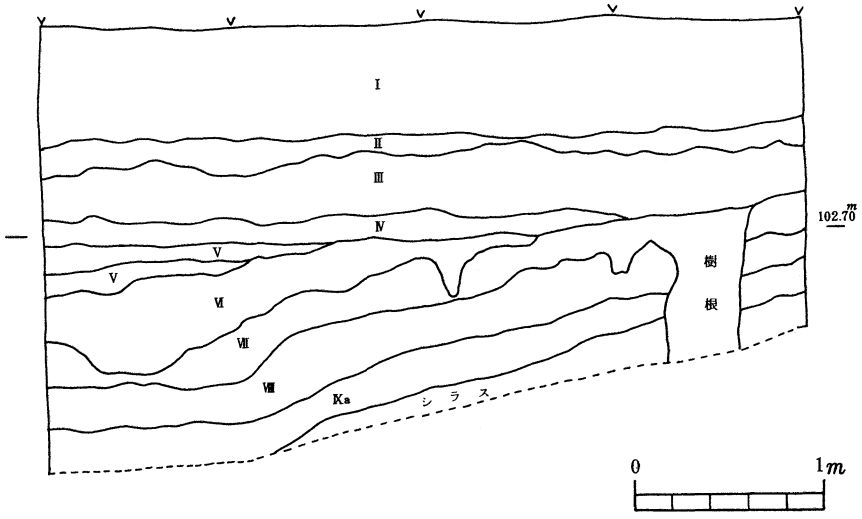
Ⅴ層　黒色土層。この層より傾斜が南側へ向かって著しくなる。

Ⅵ層　暗褐色土層。Ⅵ層下部では大きな乱れがあり，斜面の堆積の不規則性が感じられる。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。赤ホヤ層である。この層もⅥ層により侵蝕を受け不安定である。

Ⅷ層　茶褐色土層。

Ⅸa層　暗褐色土層。この層を経てシラス層となる。




第77図　第10トレンチ土層図

## XII 第11トレンチ

第11トレンチはなだらかな台地先端部の緩傾斜面に位置し，北側に第2・12トレンチが隣接する。遺構・遺物は何ら出土しなかった。

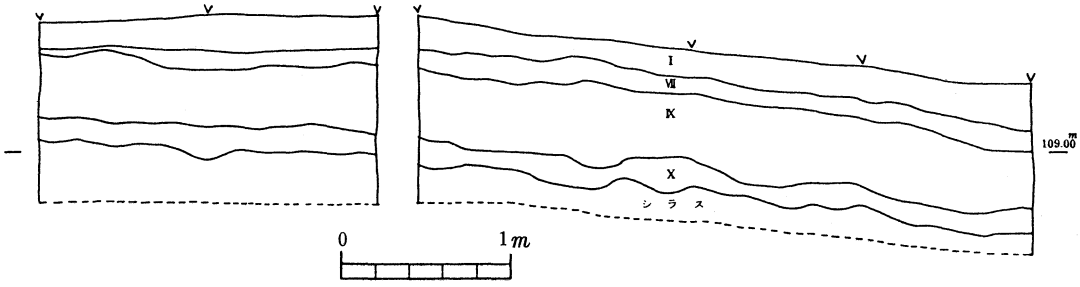
### 1. 土 層（第78図）

Ⅰ層　耕作土。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。赤ホヤ層で約10cm堆積する。

Ⅸ層　黒褐色土層。約40cmほど堆積するもので，やや粘質気味。

Ⅹ層　黄褐色パミス層。桜島起源のパミスといわれるもので，ブロック状に堆積する。この層の直下がシラスとなる。




第78図　第11トレンチ土層図

## XIII 第12トレンチ

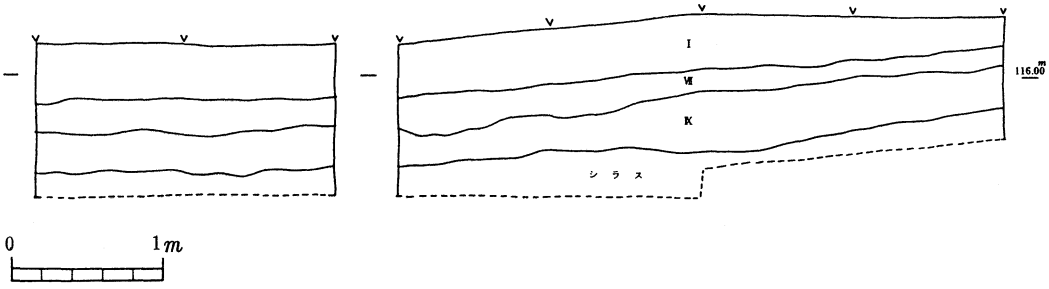
第12トレンチは，台地上面に位置し，地形が保たれているわりには，第2・11トレンチで遺物等が出土しなかったため，再確認のために設定したが，このトレンチからも出土しなかった。

### 1. 土 層（第79図）

Ⅰ層　耕作土。

Ⅶ層　黄褐色パミス層。

Ⅸ層　黒褐色土層。このトレンチではⅩ層がなくこのⅨ層直下がシラスとなる。




第79図　第12トレンチ土層図

## ま と め

八郎ケ野B遺跡は，標高約 120 $m$ を最頂部とする台地と，その台地から南東側は傾斜して前川に続く地形，北西側は緩傾斜をもって谷頭に連らなる地形と，三様の形態をしたところである。

従って各トレンチの設定も，この自然地形を考慮するとともに，畑地のために開削されていない場所を選定した。

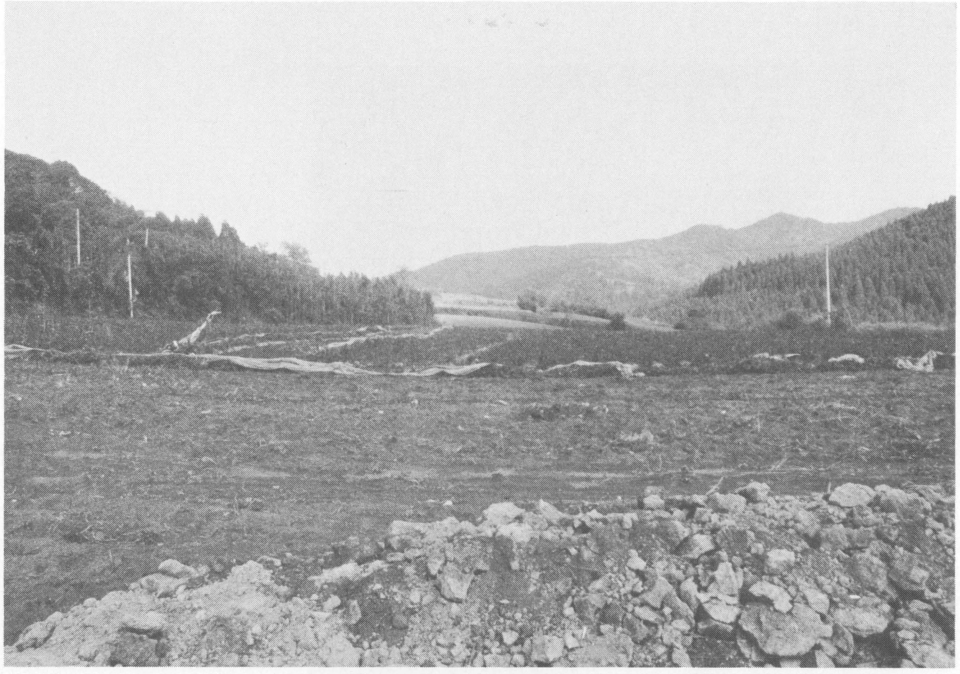
調査の結果，第3・4トレンチには数個のピットが検出された。このピットはⅢ層面で検出されたものである。また第3トレンチには自然礫等の集石が同層面で検出された。

そのほか，第5・7トレンチからは敲石・石斧・土器片等が出土した。その他の各トレンチからは何らの遺構・遺物も出土しなかった。

これ等のことから，本遺跡のうち，第3・4トレンチ周辺ではⅣ層面での遺構・遺物の包含が考えられる。この地点は台地頂上部である。

その他の地点では，今回の調査では良好な遺構・遺物は出土しなかった。

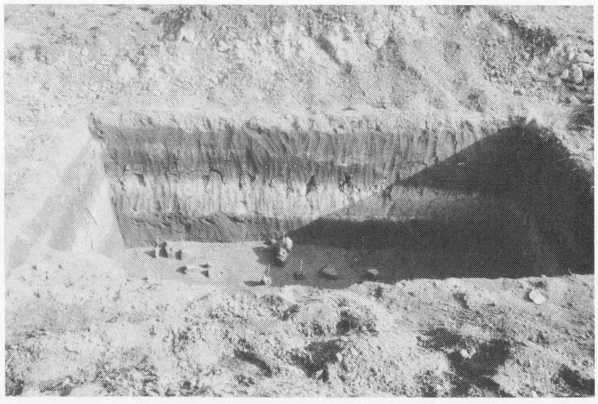
# 図　　版



井手平遺跡近景

発掘調査風景

図版　2



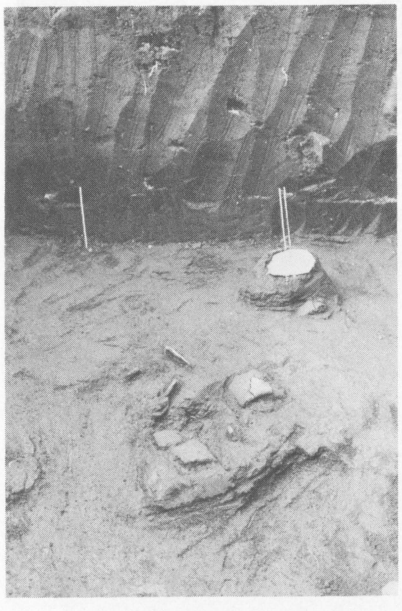
土　層　断　面

剥片石器出土状況

石　皿　出　土　状　況

井手平遺跡第１トレンチ出土状況

第 2 トレンチ



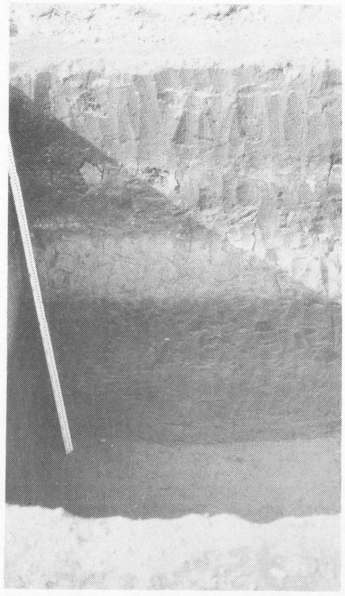
第 2 トレンチ

第 6 トレンチ

第 6 トレンチ

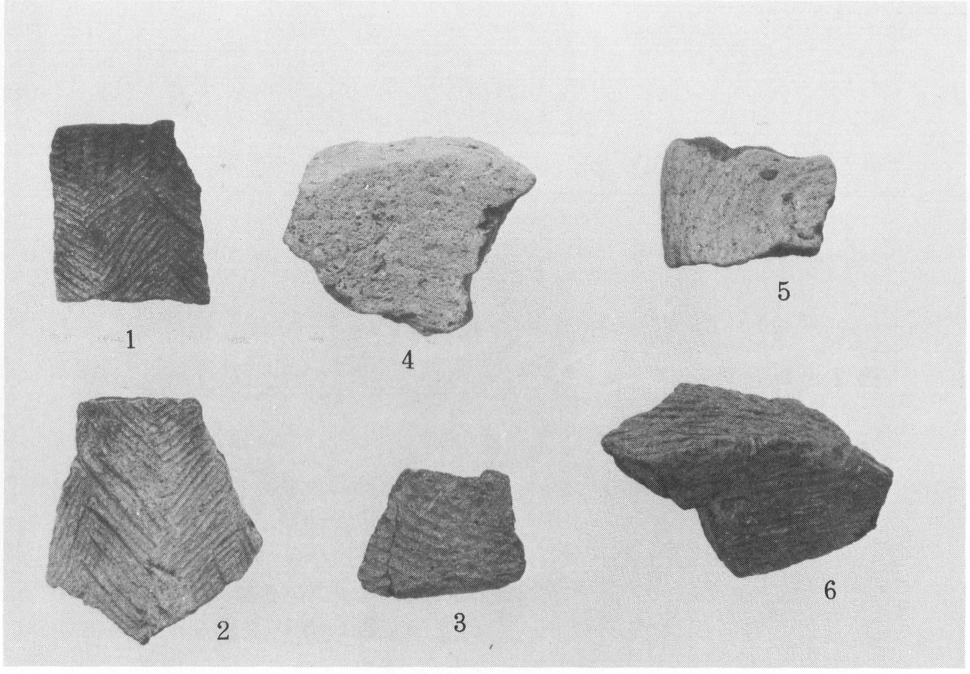
井手平遺跡遺物出土状態

図版　4



第4トレンチ土層

第0トレンチ
集石遺構




井手平遺跡表採土器

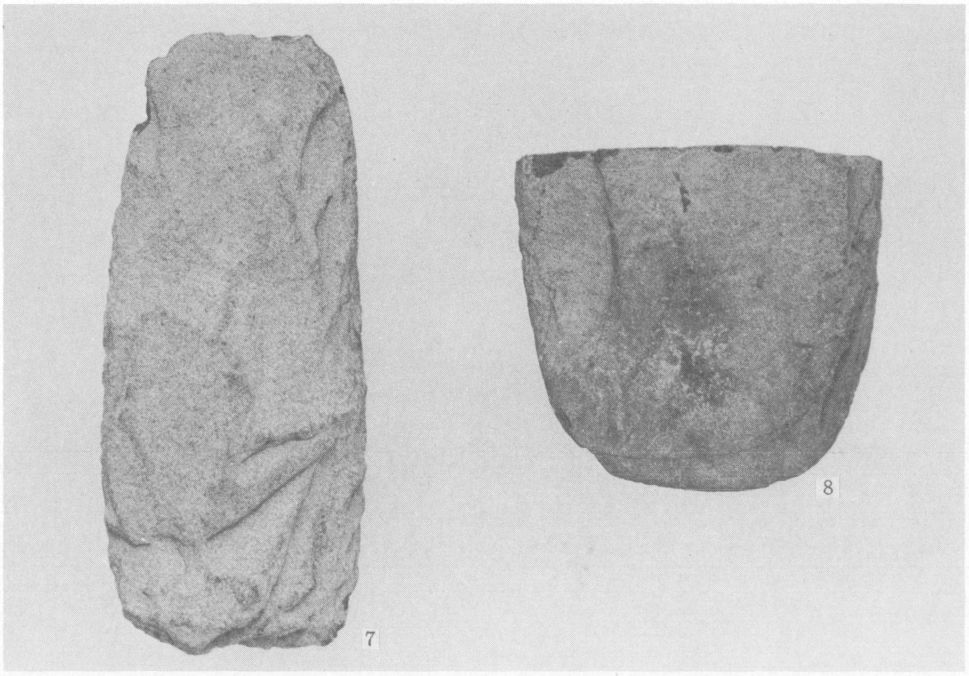
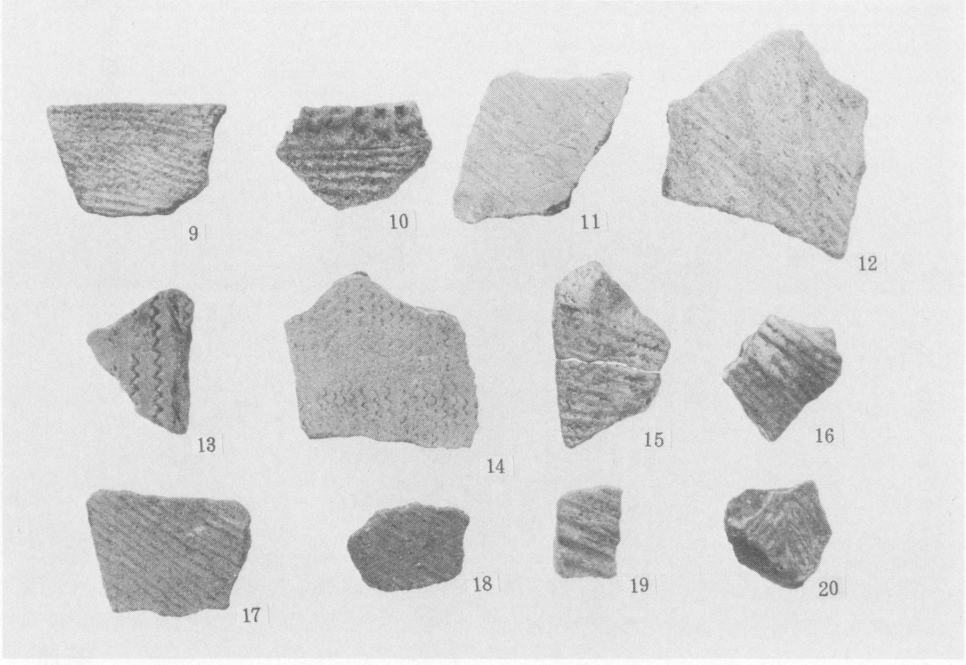
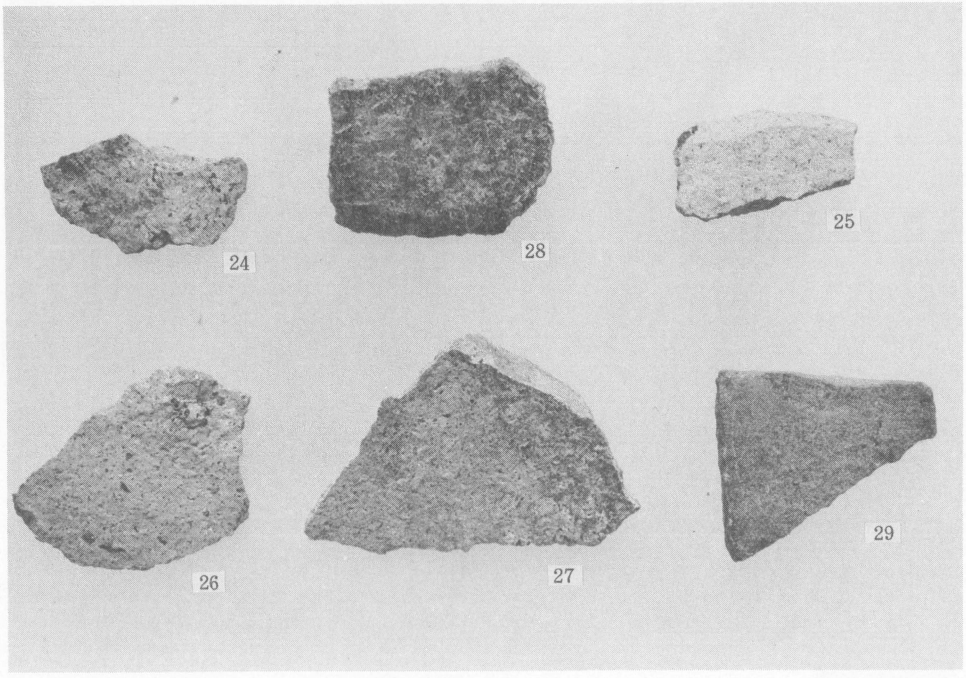



表 採 石 器

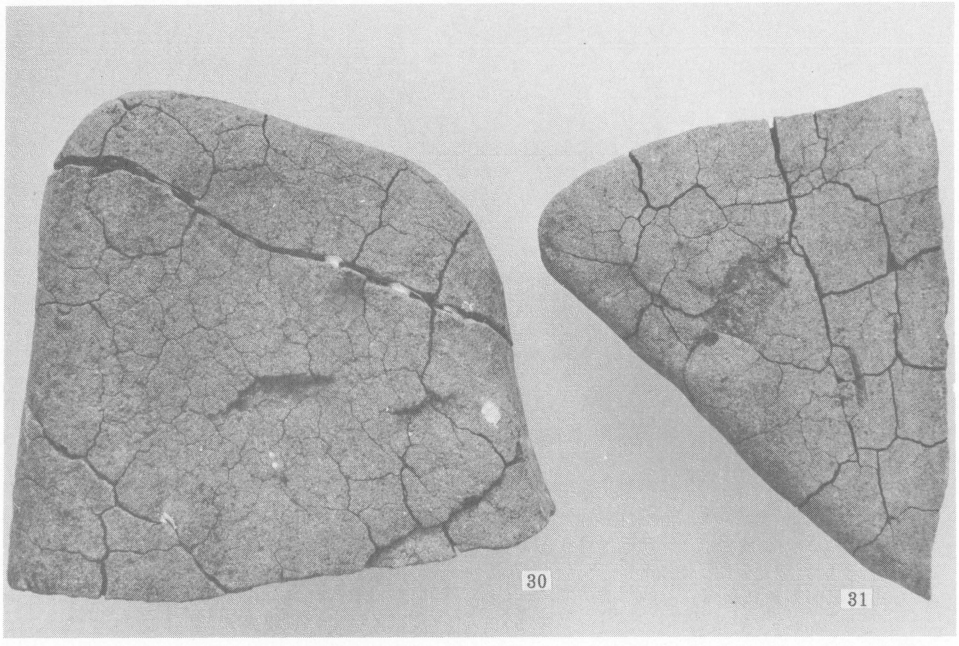



井手平遺跡第1トレンチ出土土器

図版　6

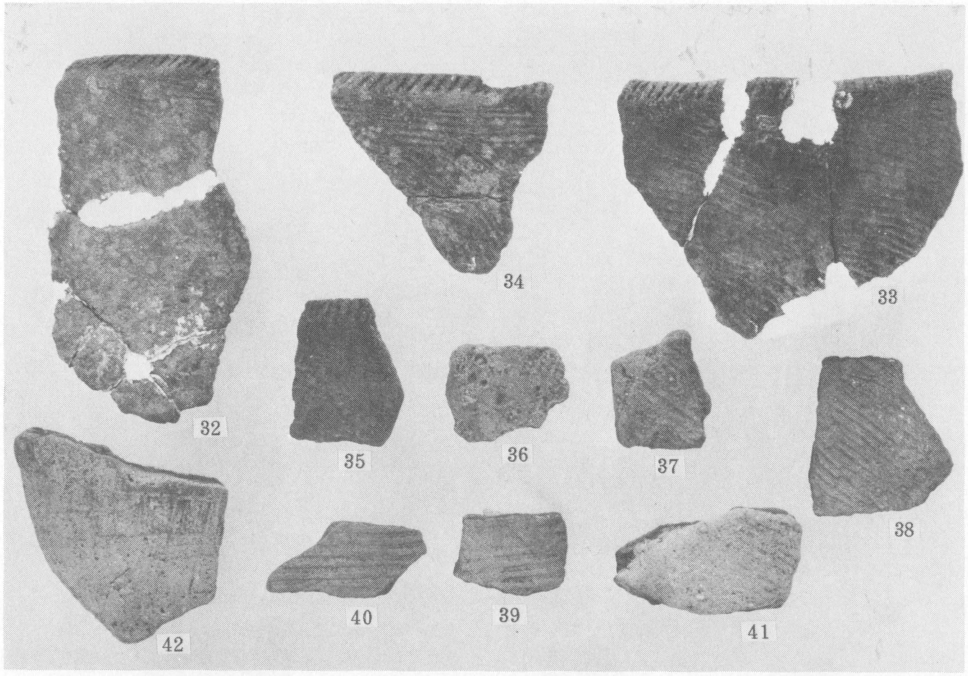


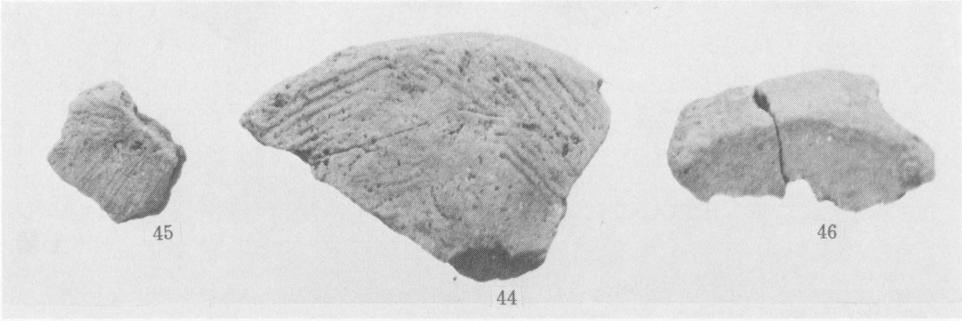

剥片石器等



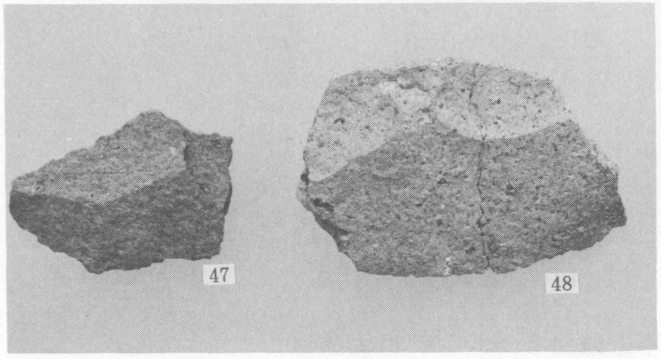

石皿

井手平遺跡第１トレンチ出土石器



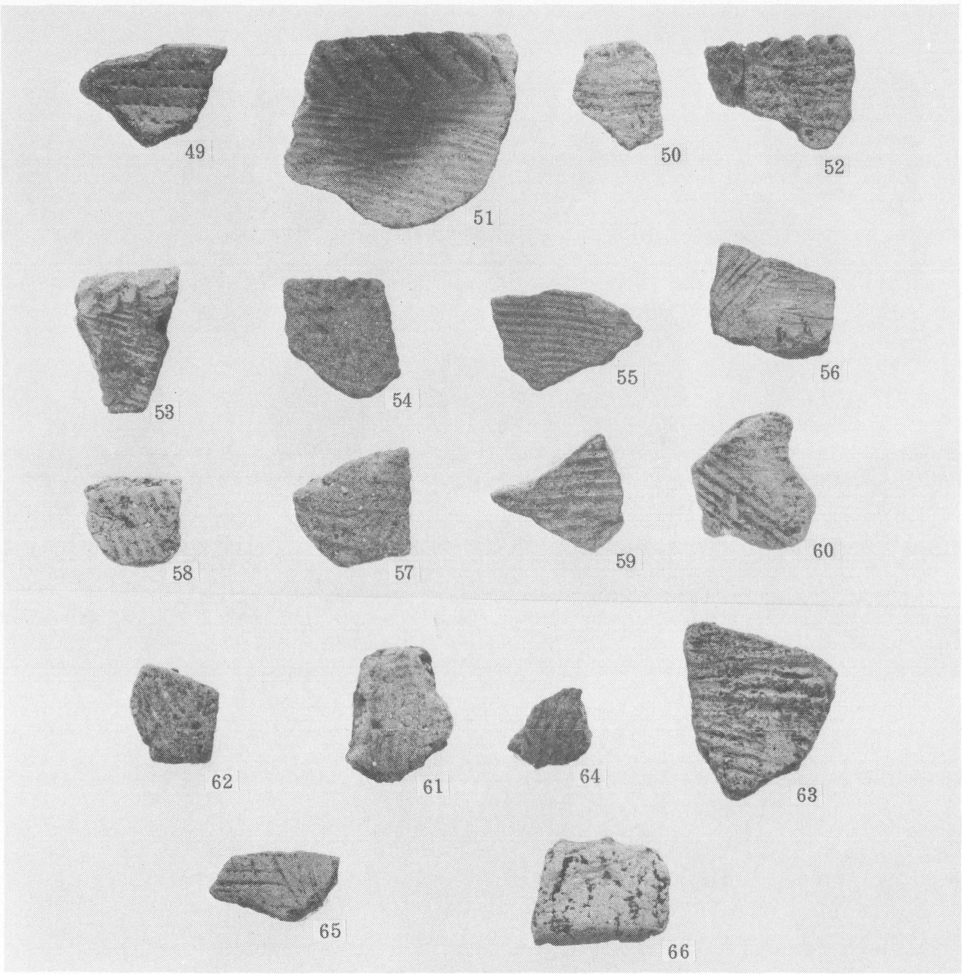

土器



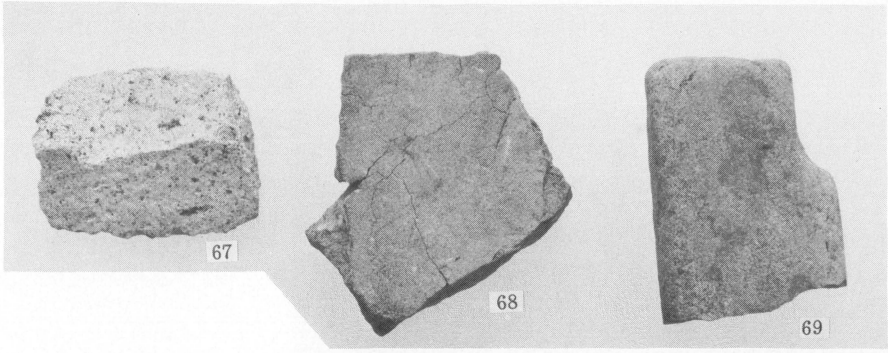

石器

井手平遺跡
第2トレンチ出土遺物

図版　8

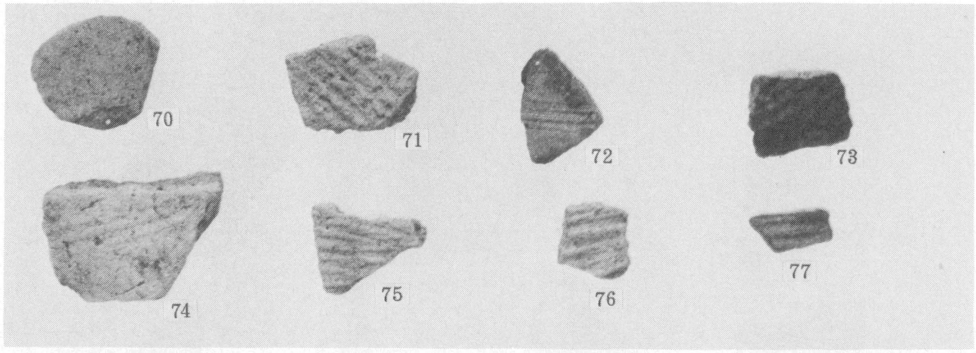


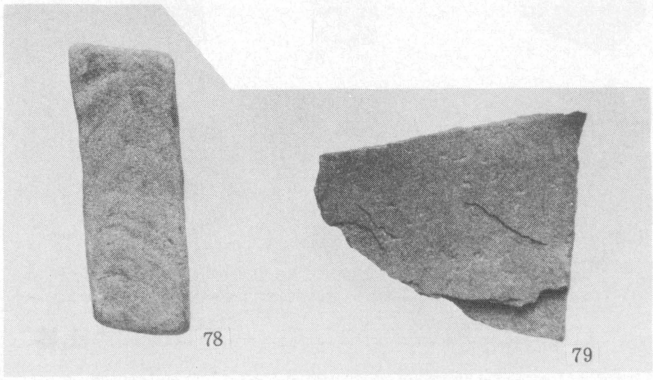

土器

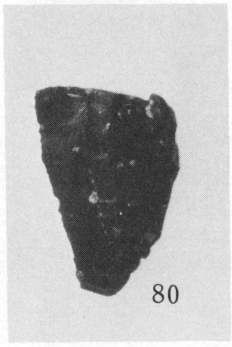



石器

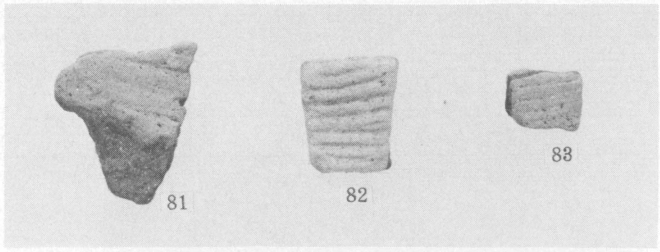
井手平遺跡第3トレンチ出土遺物

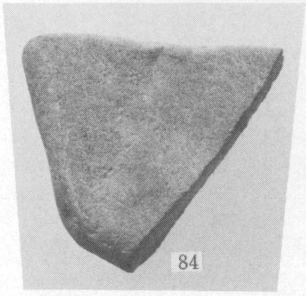


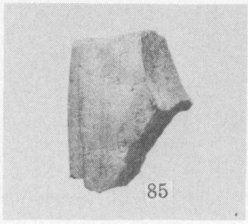



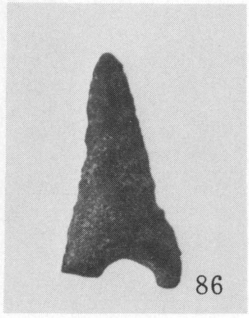




井手平遺跡第4トレンチ出土遺物



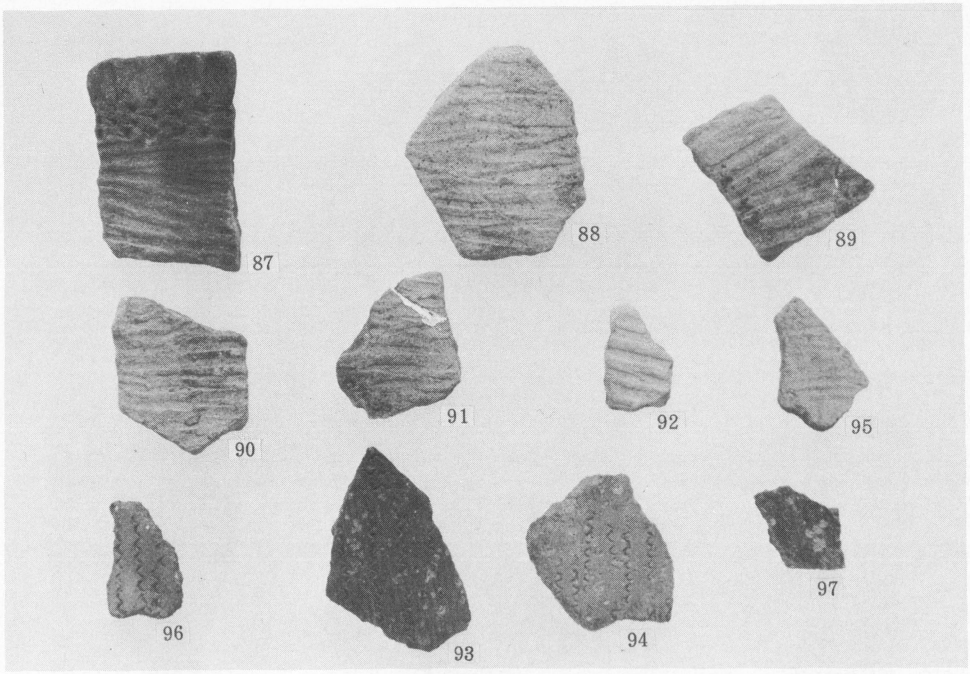



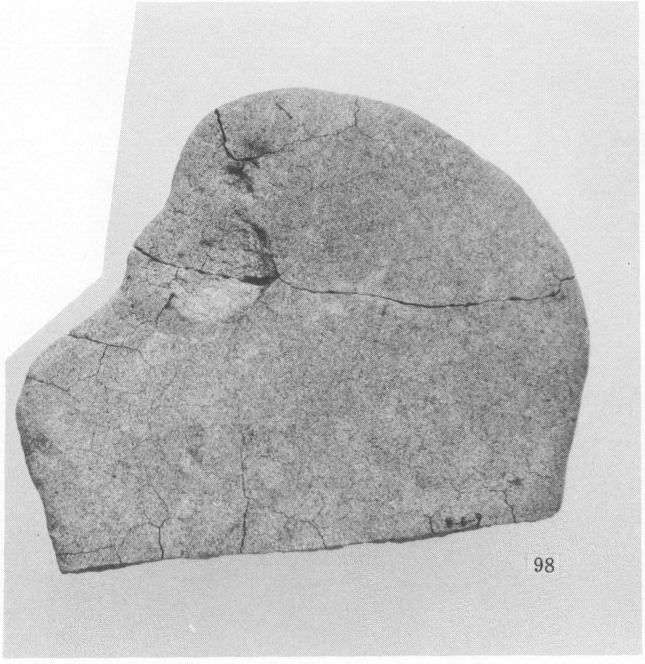




井手平遺跡第5トレンチ出土遺物

図版　10

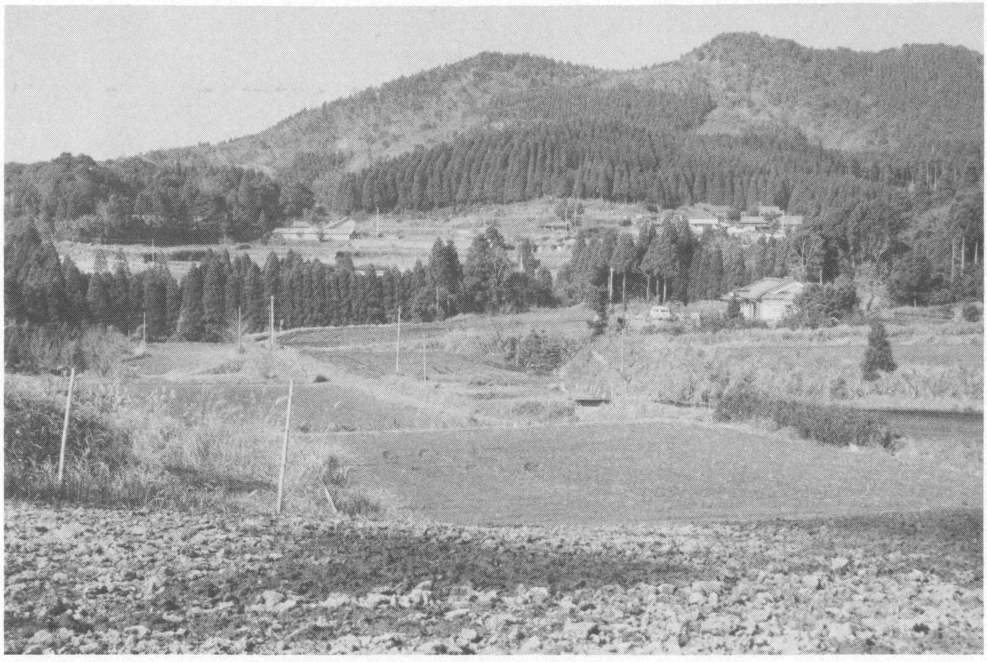



土器




石皿

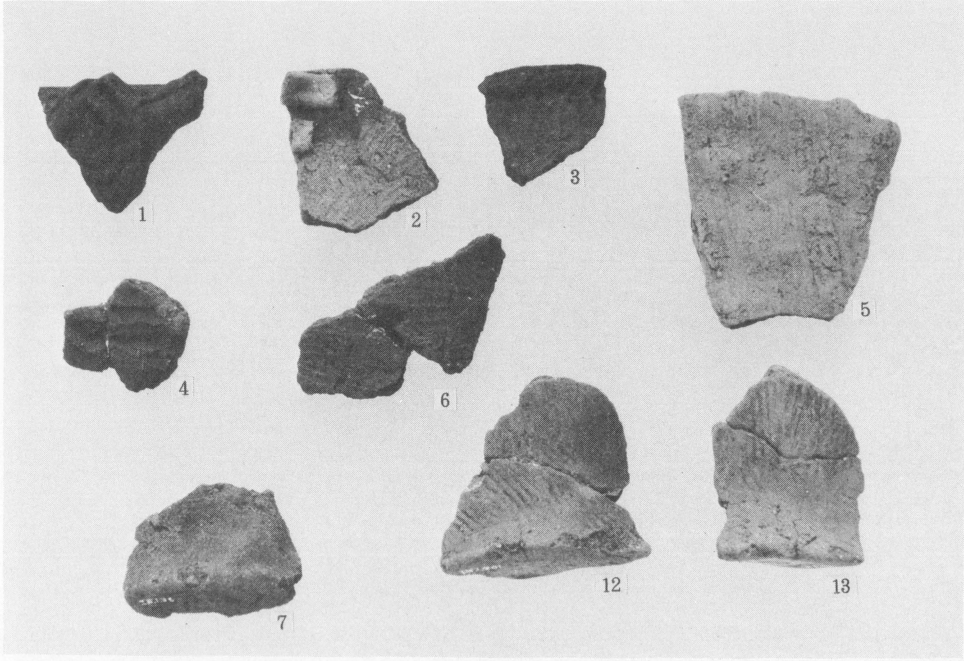
井手平遺跡第6トレンチ出土遺物



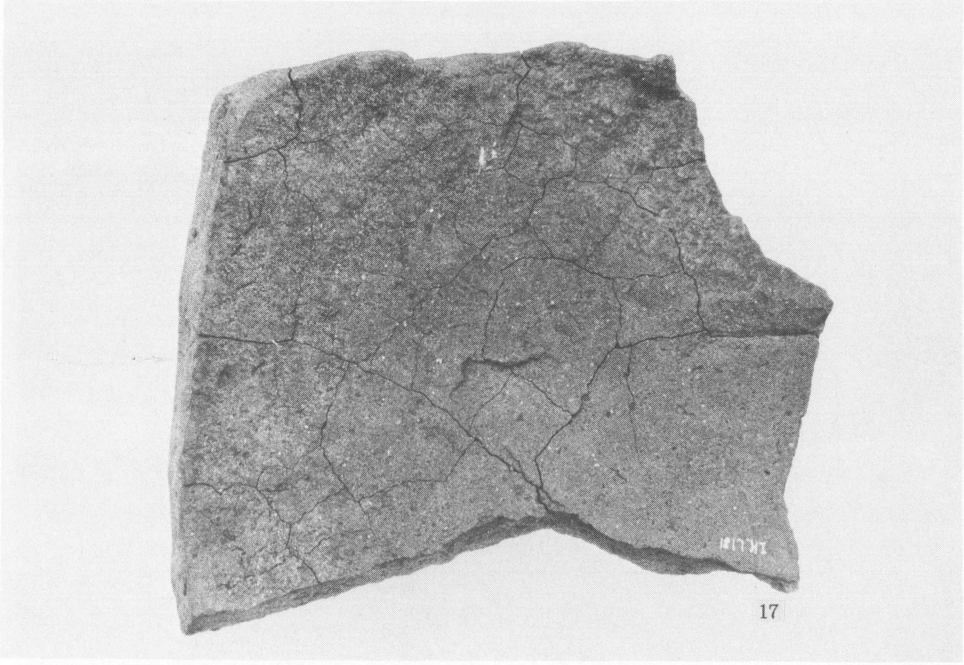
池野遺跡近景（第1・2トレンチ）

池野遺跡近景（第5トレンチ）

図版　12

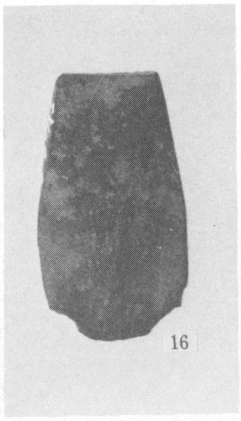



土器

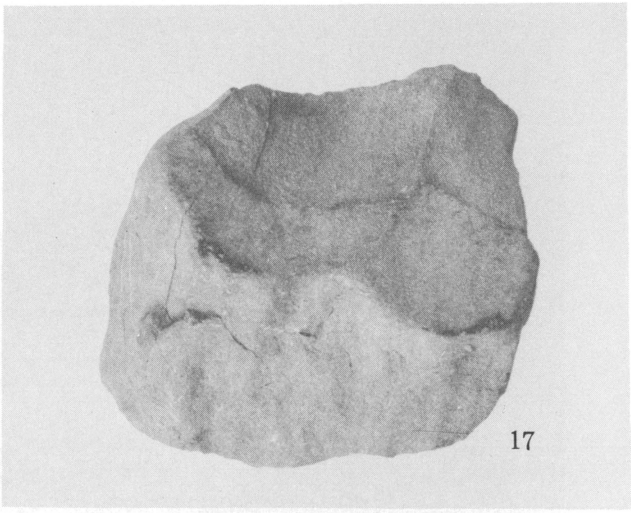



石皿

池野遺跡第１トレンチ出土遺物




池野遺跡
第1トレンチ出土石器




池野遺跡第2トレンチ出土石器

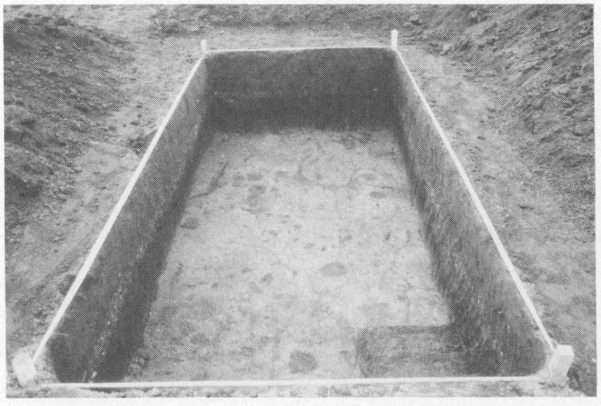
八郎ケ野A遺跡近景

図版　14

八郎ケ野A遺跡遠景

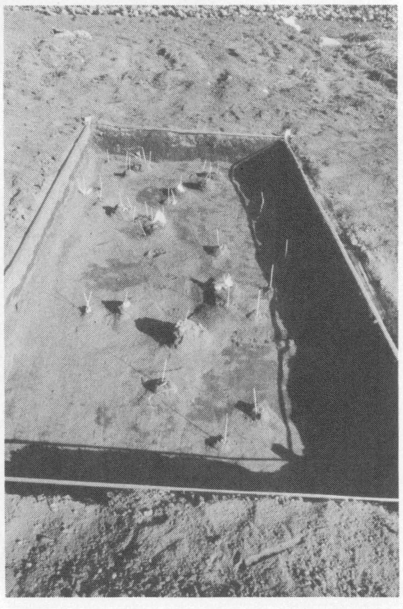
八郎ケ野A遺跡第9トレンチ近景

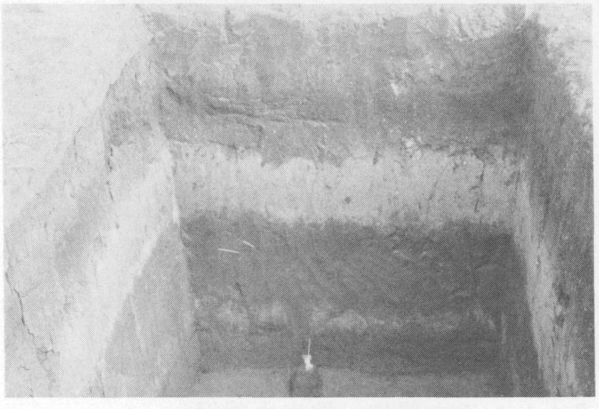
発掘調査風景



第3トレンチピット出土状況

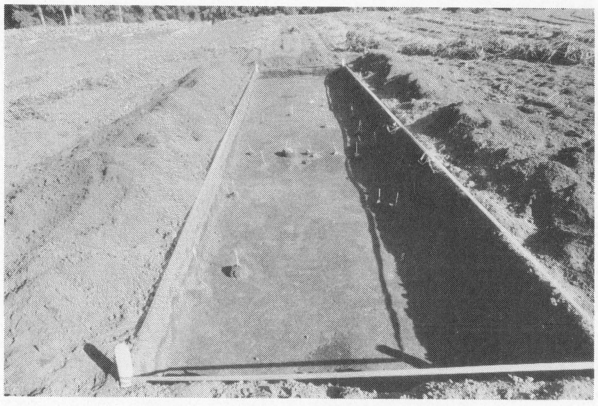
第7トレンチ遺物出土状況





第4トレンチ土層断面

図版　16

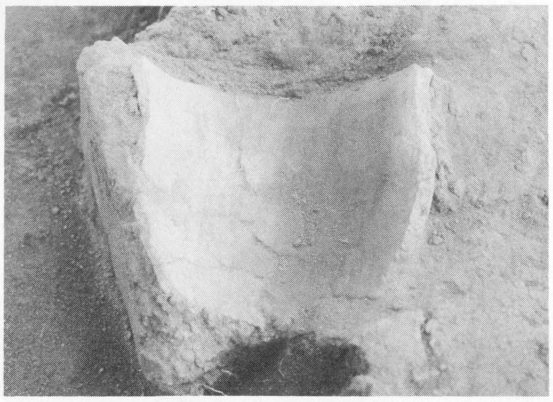


第 6 トレンチ遺物出土状況

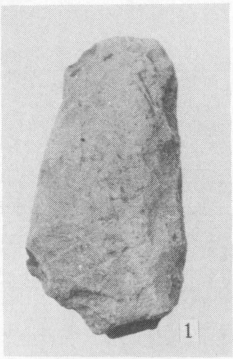
第 8 トレンチ炭化木の実出土状況

第 8 トレンチ土器片・礫出土状況

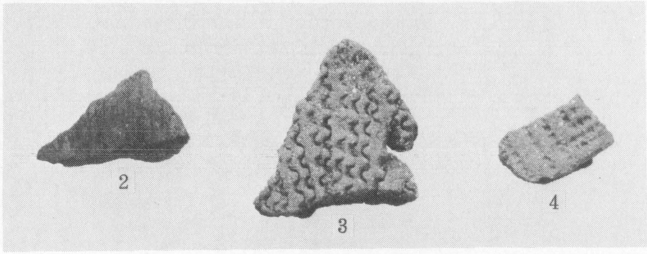
第8トレンチ土器出土状況



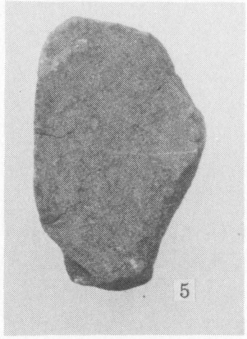
左 拡 大 図



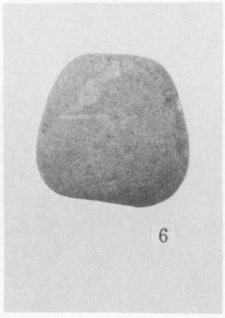

八郎ケ野A遺跡表採遺物



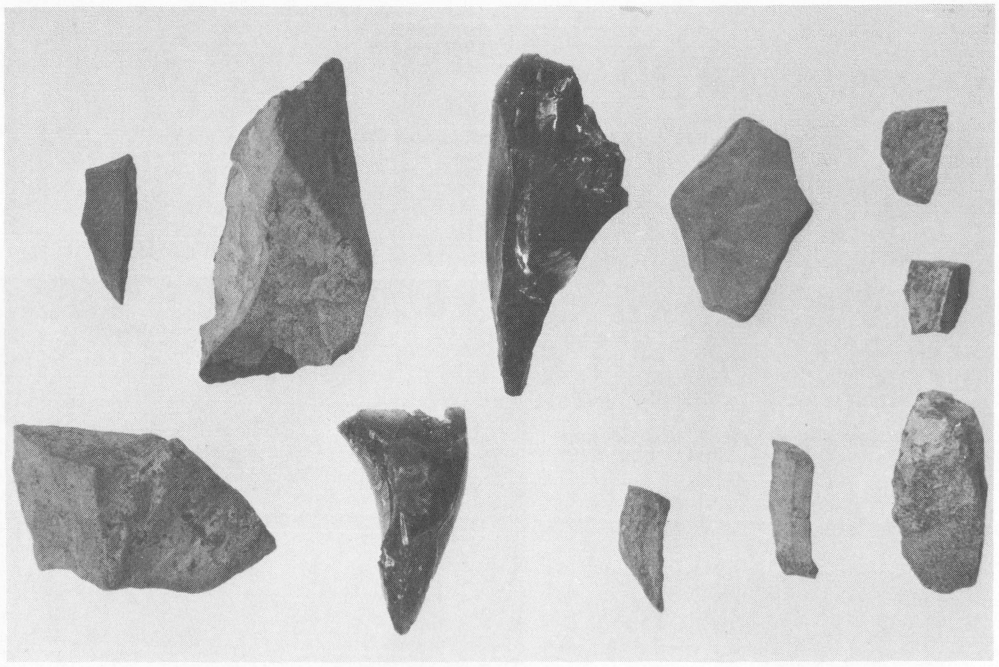

第2トレンチ出土遺物



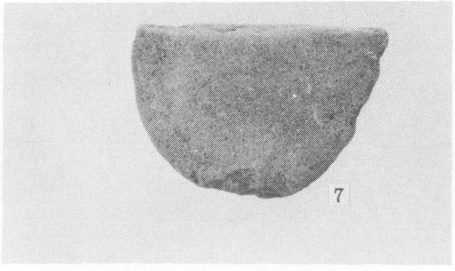

第2トレンチ出土遺物



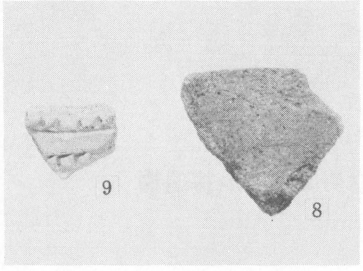

第4トレンチ出土遺物



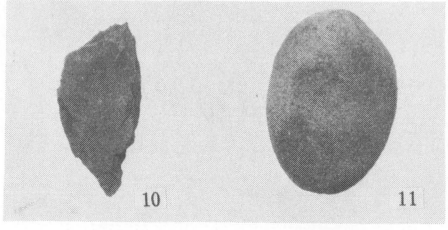
第4トレンチXI層出土遺物



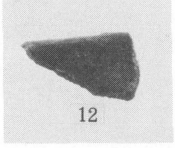

第5トレンチ出土遺物



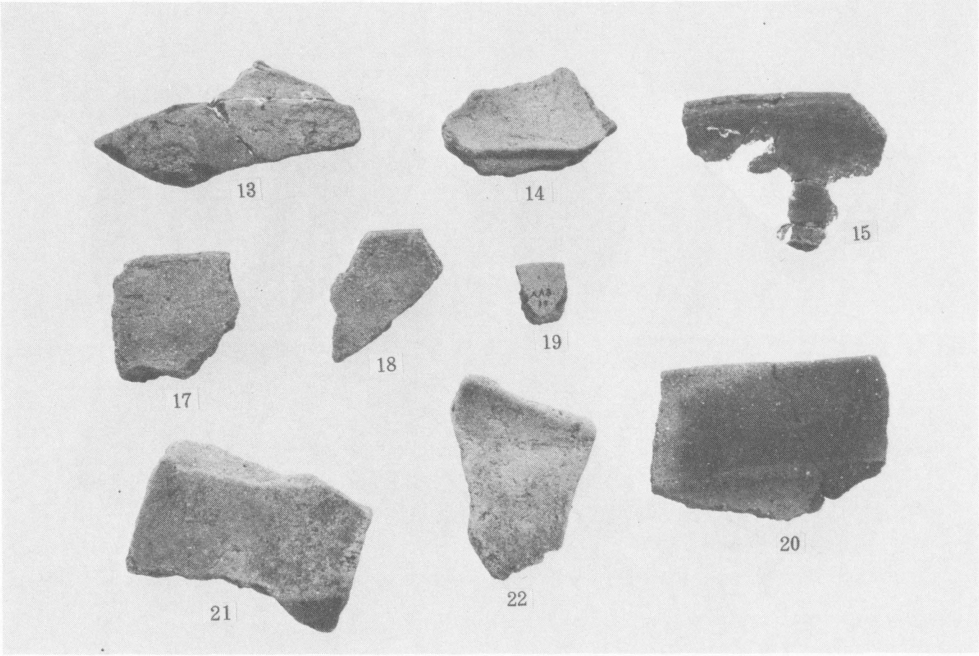

第6トレンチ出土遺物



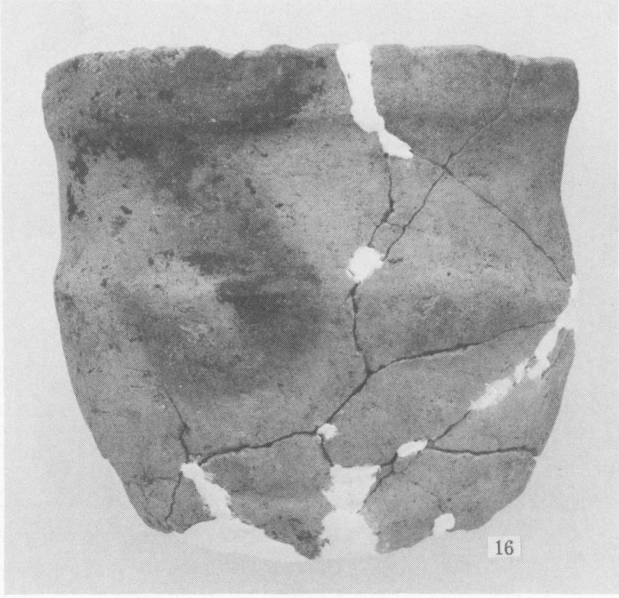

第6トレンチ出土遺物



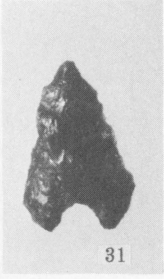

第7トレンチ出土遺物

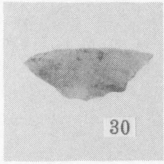



第 8 トレンチ出土遺物



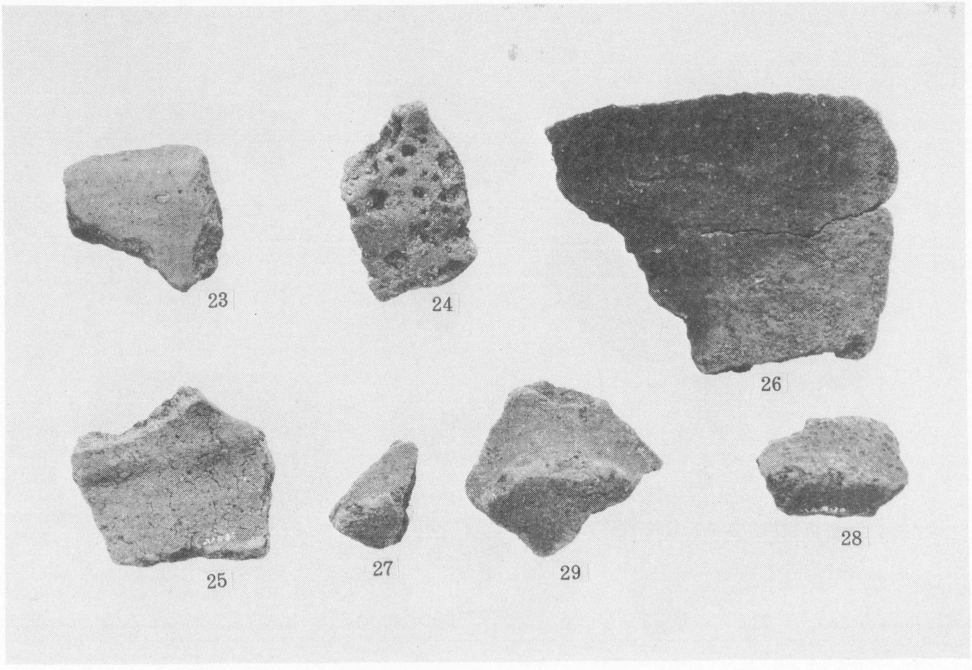

第 8 トレンチ出土遺物

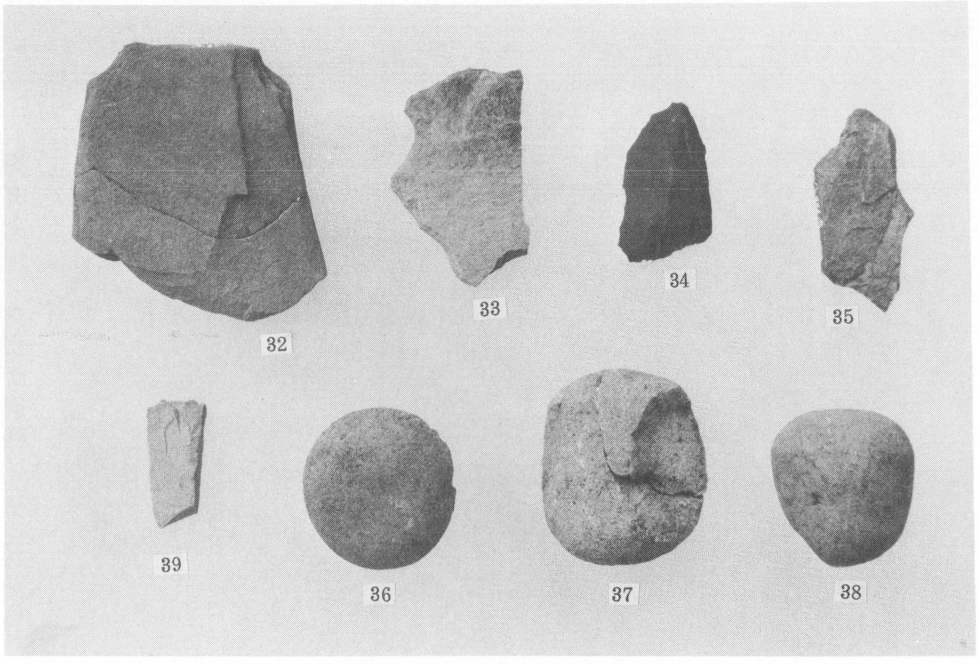


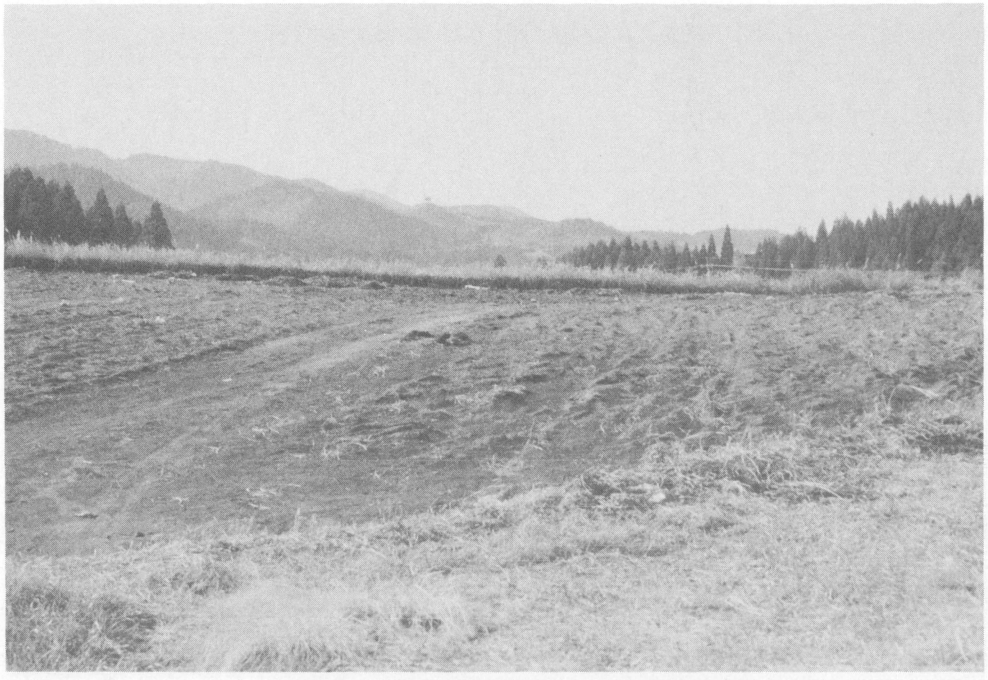

第 8 トレンチ出土遺物

図版　20




**第 8 トレンチ出土遺物**



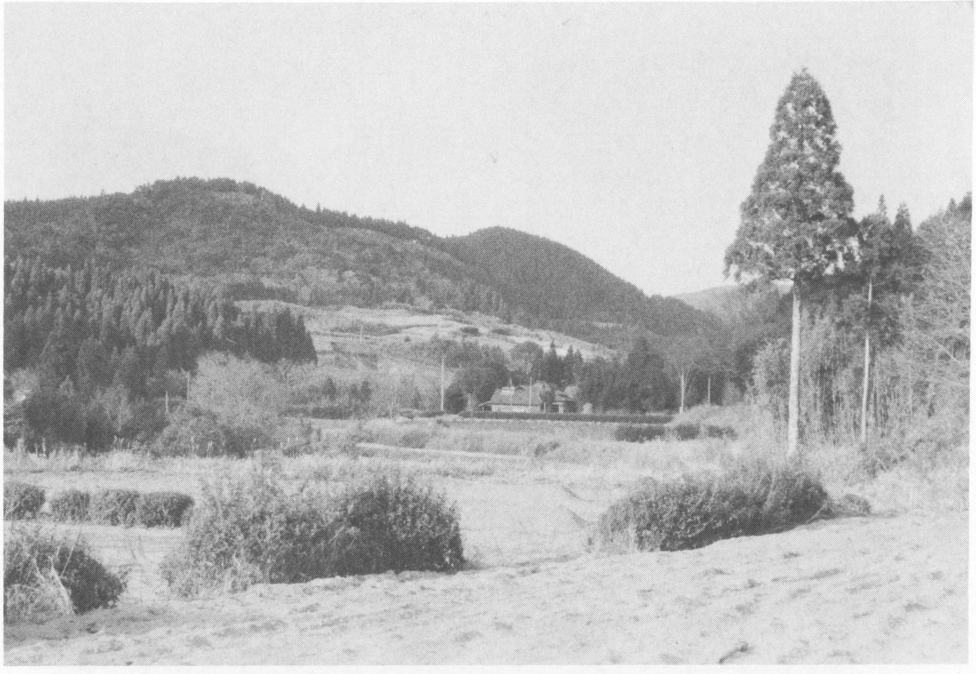
八郎ケ野B遺跡第3トレンチ近景

八郎ケ野B遺跡第5トレンチ遠景

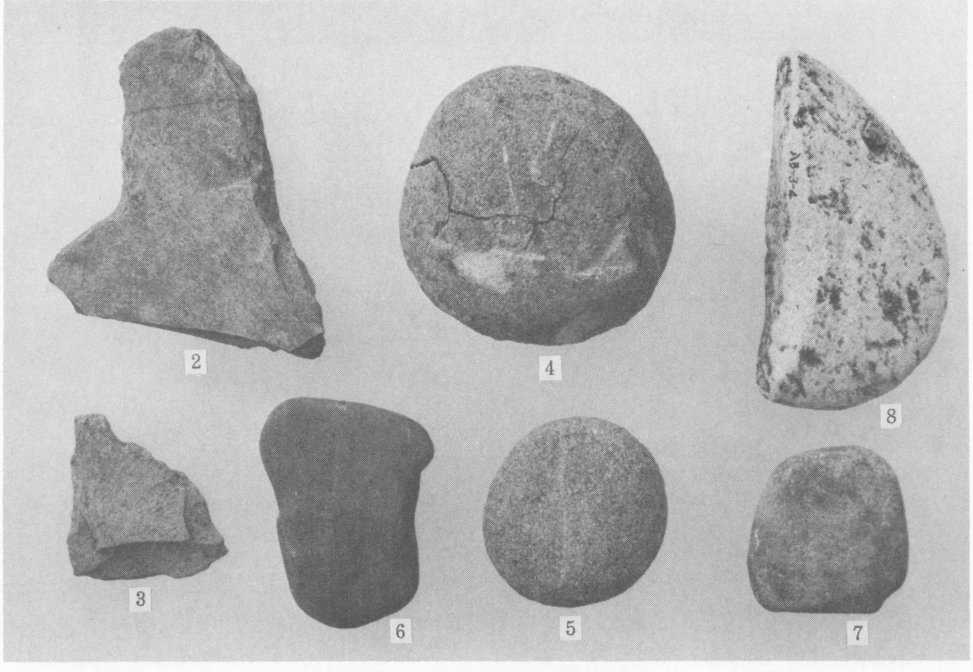
図版　22

八郎ケ野B遺跡第6トレンチ遠景

八郎ケ野B遺跡第8トレンチ遠景

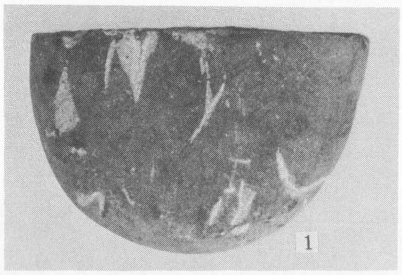


第9・10トレンチ近景

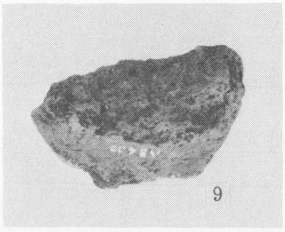



第3トレンチ出土遺物

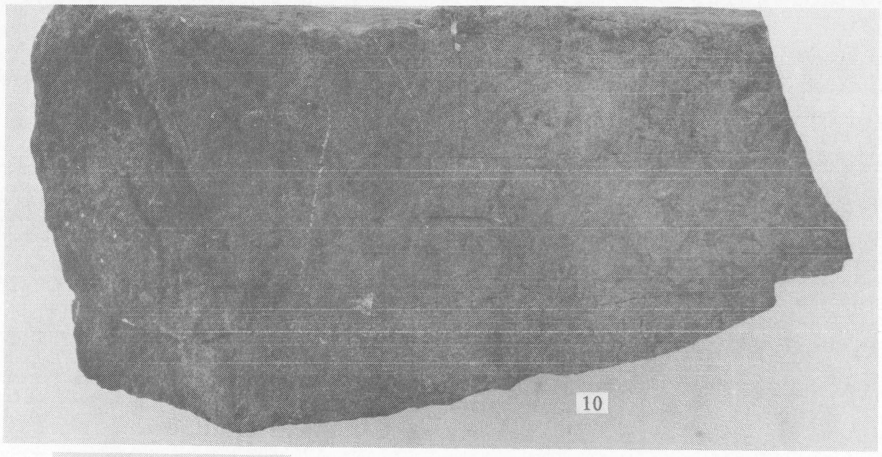
図版　24

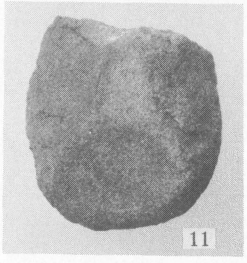


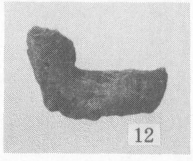

八郎ケ野B遺跡表採遺物



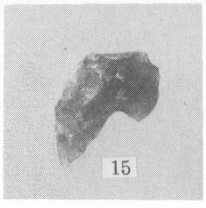

第4トレンチ出土遺物

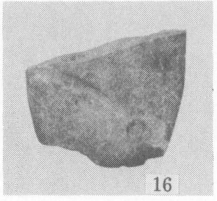


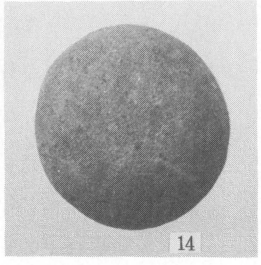




第4トレンチ出土遺物




第5・7トレンチ出土遺物

# あ　と　が　き

県営特殊農地保全整備事業に伴う緊急埋蔵文化財発掘調査は，志布志町ではここ数年年次的に実施されてきた。また志布志町は埋蔵文化財包蔵地が豊富に知られているために，この方面からの発掘調査も活発である。志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書が，本報告でも８集となることからも，是認されるところである。

さて，本報告書で報告する４遺跡の調査は昭和59年11月から約１ケ月間実施された。発掘当初は膚持ち良い風が，次第に強風となり，なかなかの天候も続いた。

それに本調査区は広大であり，各トレンチ設定，そこへの移動も大変であった。

しかしこのような条件にも労をいとわず発掘作業に従事していただいた方々のおかげで，発掘調査・整理・報告書作成という過程をこなすことができたのです。

調査にあたってはむろん，報告書作成時もできる限りの記録をと心がけたつもりですが，満足いただけるかどうか不安でもある。

最後に，発掘調査及び整理作業に当ってくださった方々，県大隅耕地事務所，地主及び地元の方々に心から感謝の意を表わし，むすびとしたい。

志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(8)

井手平遺跡・池野遺跡
八郎ケ野A遺跡・八郎ケ野B遺跡

発行日　昭和59年3月
発　行　志布志町教育委員会
印　刷　渕上印刷株式会社